



東京農工大学
履修案内
2019
〈平成31年度〉

農学部
[入学生適用]



Tokyo University of Agriculture and Technology
General Information for Studies and
Course Description

履修案内（Webサイト掲載用）について

- 目次に各ページへのリンクが貼られています。タイトルをクリックすると当該ページへ移動します。
- 本文中に記載されているURLにはハイパーリンクが貼られています。クリックすると当該URLに移動します。
- 冊子で配布した履修案内に存在した誤り（掲示板でお知らせしている箇所）が修正されています。

● 目 次 ●

本学の目的 農学部目的	1	(3) 履修登録の手順	14
ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー	2	(4) 他学科履修の取扱いについて	14
		(5) 他学科・他学部科目履修願	15
I. 授業について	3	(6) 履修手続きについての注意事項	15
1. 基本的事項	3	5. 試験および成績	16
(1) 学年と学期	3	(1) 試験	16
(2) 学年暦	3	1) 定期試験	16
(3) 授業時間割表	3	2) 受験心得	16
(4) 授業時間	3	(2) 成績	17
(5) 気象警報発令・交通機関運休等の際の 休講について	4	1) 成績評価基準	17
(6) 交通機関の運休・学校感染症・親族の 死亡に伴う授業欠席の取り扱いについて	4	2) 成績確認制度	17
(7) 学科の略号	5	II. 教育課程表及び教育内容について	18
(8) 学籍番号	5	1. 教養科目（共同獣医学科を除く）	18
(9) 学生への周知方法	5	(1) 教養科目の理念・目標	18
1) WEB掲示板	5	(2) 科目区分について	19
2) 府中キャンパス掲示板	6	1) 新入生科目区分	19
3) 電子メール	6	2) グローバル教養科目区分	20
(10) 教務係窓口受付時間	7	3) グローバル言語文化科目区分	21
(11) 本学ホームページのアドレス	7	4) グローバル展開科目区分	26
2. 授業科目区分と卒業要件	8	5) スポーツ健康科学科目区分	28
(1) 単位数の算定基準	8	(3) 教養科目教育課程表 (共同獣医学科を除く)	30
(2) 授業科目の区分	8	2. 専門科目（共同獣医学科を除く）	31
1) 教育課程上の授業科目区分	8	(1) 学部共通専門基礎科目	31
2) 開講上の形態による授業区分	9	1) 学部共通専門基礎科目の理念・目標	31
(3) 卒業について	9	2) 科目区分について	31
1) 卒業要件	9	3) 学部共通専門基礎科目 教育課程表	34
2) 卒業要件を満たすには	9	(2) 生物生産学科 (An)	35
3) 卒業に必要な最低修得単位数	9	1) 学科の教育理念・目標	35
4) 早期卒業	10	2) 学科の教育内容	35
5) 修業年限を超える者の卒業	10	3) 履修方法	35
6) 成績表の送付について	10	4) 取得できる資格など	36
3. GPA 制度およびCPA制度について	11	5) 生物生産学科専門科目教育課程表	38
(1) GPA (Grade Point Average) 制度	11	(3) 応用生物科学科 (Bn)	39
(2) 成績優秀者	11	1) 学科の教育理念・目標	39
(3) CAP 制度	11	2) 履修上の注意	39
(4) 卒業要件・GPA・CAP 対応表	12	3) 講座の研究・教育分野と講座への所属	40
4. 履修手続きについて	13	4) 卒業論文履修上の注意	40
(1) 履修とは	13	5) 取得できる資格	40
(2) 履修登録の期間	13	6) 応用生物科学科専門科目教育課程表	43

(4) 環境資源科学科 (En)	44	III. 教職課程の履修	77
1) 学科の教育理念・目標	44	IV. 博物館学芸員課程の履修	78
2) 学科の教育内容	44	V. 教育プログラムについて	79
3) 専門科目の履修方法	45	VI. 単位互換制度について	80
4) 卒業論文の履修方法	45	1. 単位互換制度の概要	80
5) 教育研究分野	45	2. 履修計画の作成の留意点	80
6) 環境資源科学科専門科目教育課程表	49	VII. 各種手続きについて	81
(5) 地域生態システム学科 (Rn)	51	1. 学籍異動(休学, 退学など)	81
1) 学科の教育方針と教育内容	51	(1) 各種願出(届出)書	81
2) 履修方法	51	(2) 注意事項	81
3) 実習科目の履修について	52	2. 証明書の交付	82
4) 地域生態システム学セミナー、 地域生態システム学特別演習 I ~ III および 卒業論文の履修について	53	(1) 証明書自動発行装置	82
5) 取得できる資格など	54	(2) 卒業見込証明書の発行に関する 注意事項	82
6) 地域生態システム学科専門科目 教育課程表	56	VIII. 学修に関する相談	83
3. 共同獣医学科	59	1. 1年次のクラス担任	83
(1) 共同獣医学科共通教育科目	59	2. 学科教育委員	83
1) 共通教育科目の理念・目標	59	3. 学生生活委員	84
2) 科目区分について	59	4. 学生相談室の利用	84
3) 共通教育科目教育課程表 (共同獣医学科)	68	5. 身体などに障がいがある学生への支援	84
(2) 共同獣医学科 (Vn) 専門教育科目	69	IX. 履修案内Q & A	84
1) 学科の教育理念・目標	69	X. 農学部教員連絡先	85
2) 学科の教育内容	69	XI. 学内施設・建物配置図など	89
3) 履修方法	69	1. 学内施設	89
4) 取得できる資格など	71	2. 建物配置図	90
5) 共同獣医学科専門教育科目教育課程表	72	(1) 農学部構内図	90
4. 学部共通専門科目	74	(2) 教室配置図	91
(1) 学部共通専門科目の理念・目標	74	XII. SPICA・moodleについて	93
(2) 各科目区分について	74	1. SPICA (学務情報システム)	93
1) 共通科目	74	2. 学習管理システムmoodle	93
2) 海外研修科目	74		
3) 国際農学科目	74		
(3) 学部共通専門科目教育課程表	75		
5. 学部補習科目	76		
(1) 学部補習科目の理念・目標	76		
(2) 各科目区分について	76		
(3) 学部補習科目 教育課程表	76		

●本学の目的●

本学は、広汎な学問領域における急激な知の拡大深化に対応して教育と研究の絶えざる質の向上を図り、20世紀の社会と科学技術が残した「持続発展可能な社会の実現」の課題を正面から受け止め、農学・工学およびその融合領域における教育研究を中心に社会や環境と調和した科学技術の進展に貢献することを目的とする使命指向型の科学技術大学を構築することを目標としています。

使命指向型の科学技術大学として、

- 教育においては、知識伝授に限定されず、知の開拓能力・課題解決能力の育成を主眼とし、高い倫理性を有する高度専門職業人や研究者を養成することを目標としています。
- 研究においては、学術の展開や社会的な要請に留意しつつ、自由な発想に基づく創造的研究に加えて、社会との連携により総合的・学際的な研究も活発に展開し、社会的責任を果たすことを目標としています。
- 教育と研究の両面で国際的な交流・協力を推進し、世界に学び世界に貢献することを目標としています。
- 本学は、教育研究と業務運営の全活動について、目標・計画の立案と遂行状況の点検評価を実施・公表し、開かれた大学として資源活用の最適化を図り、全学の組織体制と活動内容の絶えざる改善を図ることを目標としています。

●農学部の目的●

本学部では、さまざまな人間活動の拡大に伴う食料・資源問題、環境問題、人口問題等が地球規模で深刻化しつつある現状を直視し、以下のような人材の養成を目的としています。

- 1) 21世紀の人口・食料・資源・環境問題の解決に欠かせない、生命・生物機能・生物資源・環境・動物医学・人文社会系の諸科学に関する専門性を身に付け、課題探求能力を持ち、社会の要請にこたえて、積極的に使命指向型科学を遂行できる人材
- 2) 専門以外の領域にも関心を持ち、それらを学習する能力を備え、自然と人間および社会・文化に関して深い理解と洞察のできる教養豊かな人材
- 3) 豊かなコミュニケーション能力を備え、諸外国の文化を理解し、国際社会において活躍できる人材

●ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー●

教育担当副学長 梅田 倫弘

東京農工大学は、大学憲章において「使命志向型教育研究（MORE SENSE）」を行うことを基本理念として掲げています。これは、本学の教育目標が、課題解決能力のある実践的な人材の育成にあることを意味します。この基本理念に沿って、専門分野別の学部・学科における教育の到達目標を定めたものがディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）です。

学部のディプロマ・ポリシーには、所属する学科を超えて、新入生の皆さんが卒業するまでに身につけて欲しい能力が示されています。そこでは、基礎学力・専門知識・応用力・社会性の4つの観点に基づいて、必要な能力が文章で述べられています。

履修案内には、皆さんがこれから4年間で学ぶ科目を示した課程表、履修する科目の順番を示したコース・ツリーが掲載されています。これらは、大学が皆さんにどのような科目を提供しているか、すなわち、大学側の取組みを示しています。これに対して、ディプロマ・ポリシーには、それらの科目を学ぶことによって、皆さんがどのような能力を身につけることができるか、すなわち、皆さん自身の成長目標が示されています。実験・実習科目で身につく能力はわかりやすいと思いますが、講義では知識を吸収するだけではなく、考え方や要点をまとめる能力および文章で表現する能力を修得することが大切です。

学科のディプロマ・ポリシーには、それぞれの専門分野に即して、身につけて欲しい能力が観点別に説明されています。カリキュラム・ポリシー及びカリキュラム・マップ、カリキュラム・フローチャートを確認することによって、それぞれの科目がディプロマ・ポリシーのどの観点に対応するのか理解できるようになっています。学年が進むに連れてこれらの表を見返すことによって、どのような能力が身についたか、また、どのような能力が不足しているかを確認しながら、学習を進めるようにして下さい。4年後、あるいは6年後、皆さんがディプロマ・ポリシーの掲げる能力を身につけ、自信を持って卒業することができるよう、大学も応援しています。

三つのポリシー

本学の「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」、「カリキュラム・ポリシー及びカリキュラム・マップ、カリキュラム・フローチャート」・「アドミッション・ポリシー」は、本学ホームページに記載されています。

TOPページ > 学生生活・就職進学 > 学生生活 > 三つのポリシー
http://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/campuslife/policy/



● I. 授業について ●

1. 基本的事項

(1) 学年と学期

学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わります。学期は、学年を1学期、2学期、3学期及び4学期に分ける4学期で構成されます。また、1学期及び2学期を前期（4月1日から9月30日）とし、3学期及び4学期を後期（10月1日から翌年3月31日）としています。

(2) 学年暦

学年暦は本学ホームページ及び府中キャンパスWeb掲示板に掲載されています。変更があった場合は本館掲示板に変更点が掲示されます。なお、学年暦は毎年更新されます。

【東京農工大学ホームページ】

トップページ>学生生活・就職進学 学生生活 学年暦

http://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/campuslife/gakunenreki/

【府中キャンパスWeb掲示板】

<http://t-board.office.tuat.ac.jp/A/menu.php#Boar>



(3) 授業時間割表

- ① 1学期及び3学期は、主に通常授業（原則毎週実施する曜日・時限が確定している授業）として学期ごとに週単位で構成された授業時間割に従って行われます。ただし、不定期開講や集中講義として開講される場合もあります。
- ② 2学期及び4学期は、主に集中講義として開講されます。
- ③ 授業時間割表は、前期分（1, 2学期）は1学期の授業開始約1週間前までに、後期分（3, 4学期）は3学期の授業開始約1週間前までに、紙媒体で配布します。
- ④ 本学のホームページには、通年分の時間割が1学期の授業開始約1週間前までに掲載されています。ただし、後期分（3, 4学期）については、3学期の授業開始約1週間前までにホームページに更新版をアップします。
- ⑤ 授業時間割表の更新、休講、補講などがある場合は、その都度Web掲示板で周知しますので、必ず確認するようにしてください。
- ⑥ 教育課程表の開講予定時期と実際の開講時期が変更されることがあります。時間割表を参照の上、不明な点は教務係に問い合わせてください。

(4) 授業時間

授業時間は、下記のとおりです。授業時間は、実験・実習・演習など特定の場を除き、一区切90分間とします。

時 限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
時 間	8 : 45 ∩ 10 : 15	10 : 30 ∩ 12 : 00	13 : 00 ∩ 14 : 30	14 : 45 ∩ 16 : 15	16 : 30 ∩ 18 : 00	18 : 15 ∩ 19 : 45

(5) 気象警報発令・交通機関運休等の際の休講について

天災等の際の授業（定期試験も含む）の取り扱いについては、以下のとおり定められています。天災等により休講が決定された場合は原則として決定から1時間以内に東京農工大学ホームページのお知らせ欄に掲載されることになっていますが、以下の基準があることを考慮の上、最終的には各自で安全性を判断して行動してください。

- ①特別警報（暴風・大雨・洪水・大雪・暴風雪）が、午前6時時点で発令されている場合は、午前の授業（1・2時限）は休講とし、午前10時時点で発令されている場合は、午後の授業（3～6時限）も休講とする。
- ②警報（暴風・大雨・洪水・大雪・暴風雪）発令に伴う授業の取扱いは、次の基準に基づくものとする。
 - ・午前6時時点で当該警報が発令されており、安全確保が必要と認められる場合は、午前の授業を休講とする。
 - ・午前10時時点で当該警報が発令されており、安全確保が必要と認められる場合は、午後の授業を休講とする。
- ③上記①・②以外の天災及び事故等で特に各部局等において安全確保が必要と認められる場合は、大学の判断により授業を休講とする。
- ④上記①～③以外の天災及び事故等（ストライキ等を含む）によりJR中央線（新宿－立川駅間）、JR武蔵野線（府中本町－武蔵浦和駅間）および京王線（新宿－京王八王子駅間及び調布－橋本駅間）のうち2路線以上が運休または運休する予定である旨を布告している場合、当該日の授業については次のとおりとする。
 - ・午前6時時点で当該事由による交通機関の運休が解決していない場合は、午前の授業を休講とする。
 - ・午前10時時点で当該事由による交通機関の運休が解決していない場合は、午後の授業を休講とする。
- ⑤休講を判断する時間は目安であり、特別警報・警報等の発令状況等によって大幅に前後することがある。
- ⑥休講に伴う補講を行う場合は、原則として各学期に設置する予備日に実施するものとする。
- ⑦休講措置が取られた場合、課外活動は全て禁止とする。

(6) 交通機関の運休・学校感染症・親族の死亡に伴う授業欠席の取り扱いについて

次の事情により授業に出席出来なかった場合、「特定事由による欠席届」を授業担当教員に提出することで、事情に応じて欠席として取り扱わない・追試を実施する等の教育的配慮を受けることができます。

- ①通学に利用する交通機関が運行休止になり、授業に出席出来なかった場合
- ②インフルエンザ等、学校保健安全法施行規則に定める学校感染症に罹患した場合
- ③三親等以内の親族が死亡した場合で、葬儀、服喪その他必要と認められる行事に出席するために授業に出席できなかった場合



詳細・欠席届（様式）は、下記URL又は、右のQRコードからダウンロードできます。

http://www.tuat.ac.jp/documents/tuat/campuslife_career/campuslife/course/kesseki.pdf

(7) 学科の略号

各学科には次のような記号が略称としてつけられています。授業時間割表、掲示等には、次の略号を用います。

学	科	略	号							
生	物	生	産	学	科	An				
応	用	生	物	科	学	科	Bn			
環	境	資	源	科	学	科	En			
地	域	生	態	シ	ス	テ	ム	学	科	Rn
共	同	獣	医	学	科	*	Vn			

*岩手大学・東京農工大学農学部共同獣医学科

(8) 学生証及び学籍番号

学生証は学生の身分を証明するもので、試験その他必要な場合に教職員から提示を求められることがありますので、常に携帯して下さい。また、学生証に表示してある学籍番号は在学中同じであり、各種の届出、試験の答案、諸証明書の申込時等に記入する必要があります。学籍番号は、8桁で以下のような決まりで割り振られます。

平成31年度（2019年度）入学生の学籍番号は、以下のようになります。

1	9	1	*	*	#	#	#
(入学年度)	(学部コード)	(学科コード)	(各学科連番)				

* (学科コード)

生物生産学科 : 51
応用生物科学科 : 52
環境資源科学科 : 53
地域生態システム学科 : 54
共同獣医学科 : 56

生物生産学科 : 19151001 ~
応用生物科学科 : 19152001 ~
環境資源科学科 : 19153001 ~
地域生態システム学科 : 19154001 ~
共同獣医学科 : 19156001 ~

なお、3年次編入学生は、各学科連番の下3桁が501から割り振られます。

(9) 学生への周知方法

- ・府中地区事務部学生支援室・教務第一係・教務第二係（以下、この履修案内において「教務係」という）から学生への連絡は、原則としてWEB掲示板に掲示することにより行います。
- ・必要と判断された場合を除いて、学生個人に直接連絡することはありません。
- ・毎日一回はWEB掲示板と学生メールを確認してください。

1) WEB掲示板

学外からもアクセス可能です。

下記URLまたはQRコードからアクセスしてください。

【WEB掲示板URL】

<http://t-board.office.tuat.ac.jp/A/menu.php>



〈使用方法〉

- ◆WEB掲示板には時間割変更や休講等の授業に関するお知らせの他、奨学金や授業料免除に関する情報、遺失物情報等が掲載されます。重要な掲示を見逃さないようにしてください。
- ◆WEB掲示板は掲載する情報の種類により複数のタブに分かれています。また各タブ内の検索フォームから、カテゴリー検索やキーワード検索によってさらに絞り込みが可能です。各自で活用し、必要な情報を見つけてください。

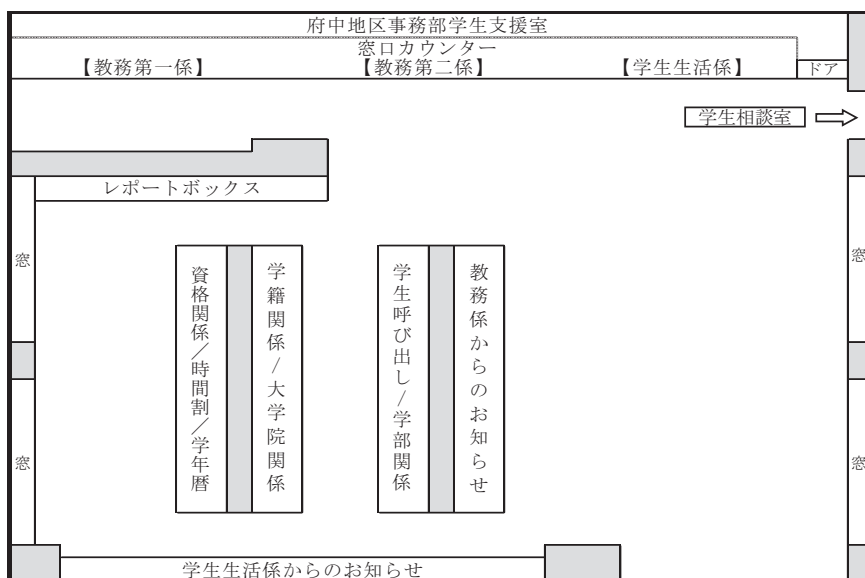
2) 府中キャンパス掲示板

WEB掲示板に掲載することができないクラス分けや多量の周知内容については、**本館1F学生支援室前掲示板**に掲示をします。

なお、その場合は、WEB掲示板に掲示を開始した旨のお知らせをします。

本館掲示板配置図

*今後掲示板の配置が変わる場合もありますので、注意してください。



3) 電子メール

呼び出しなど個人宛のお知らせについては、下記メールアドレスへ送信します。

(TUAT-ID) @st.go.tuat.ac.jp

メールアドレスやパスワードなどの学内のネットワークについては、総合情報メディアセンターに確認してください。

総合情報メディアセンターホームページ URL

<https://sites.google.com/a/go.tuat.ac.jp/imc/home>



毎日一回はWEB掲示板と学生メールを確認してください。

(10) 教務係窓口受付時間

教務係窓口では、修学に関する手続・質問等を取り扱っています。
教務係窓口受付時間は、以下のとおりです。

受付時間（平日および土曜・祝日開講日） 8：30～17：15

授業時間と窓口受付時間とは異なります。また、授業と授業の間の休憩時間は窓口が混雑しますので、履修している授業のない時間帯に来ると、各種手続きや申し込み等の用件を早く済ませることができます。

(11) 本学ホームページのアドレス

学生生活に関わる情報は本学ホームページでも随時発信しています。

本学ホームページURL http://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/



2. 授業科目区分と卒業要件

(1) 単位数の算定基準

大学では各授業科目について、その科目を履修し合格と認められた者に、定められた単位を与える単位制度により授業を行っています。

授業科目の単位数は、次のとおり学則第27条に定めています。

1単位の授業を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号の基準により計算するものとする。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習については、15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実験、実習、実技については、30時間又は45時間の授業をもって1単位とする。

従って、「1単位の授業を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」ということは、2単位の講義科目では30時間の授業と、自ら行う60時間の予習・復習が必要となります。なお、本学では、授業時間割上の1コマ（90分の授業）を2時間としていますので、2単位の授業科目では90分の講義が15回行われます。

このように単位の修得のためには、教室内での授業の他に自主的な学修が不可欠となっていますので、履修計画には上記のことを十分留意してください。

(2) 授業科目の区分

1) 教育課程上の授業科目区分

本学部の教育課程上の授業科目区分は、次のとおりです。教育目標・内容については、各ページを参照してください。

i 教養科目

- ① 教養科目（共同獣医学科除く）(P.18～)
- ② 共通教育科目（共同獣医学科に限る）(P.59～)

本学共通の教養科目です。ただし、共同獣医学科生は、自学科以外の教養科目を履修することは出来ませんが、卒業要件単位に算入できませんので注意してください。

ii 専門科目

- ① 学部共通専門基礎科目（共同獣医学科除く）(P.31～)
- ② 専門科目（An: P.35～ Bn: P.39～ En: P.44～ Rn: P.51～ Vn: P.69～）

学科の教育目標に即して専門の学術を修得するための科目です。

- ③ 学部共通専門科目 (P.74～)

本学部共通の専門科目です。共同獣医学科生は履修することは出来ませんが、卒業要件単位に算入できませんので注意してください。

iii 補習科目 (P.76～)

本学の入学試験で理科の「化学」「生物」を選択しなかった者に、履修することを強く推奨します。卒業要件単位に算入できませんので注意してください。

iv 開放科目

本学大学院への進学意欲がある学部終了年次生に対して、大学院で開講されている授業科目です。なお、この科目は、学部の卒業要件単位に参入できませんが、本学大学院へ進学した場合、大学院科目として単位認定することができます。

詳細については、本学ホームページを参照してください。

https://www.tuat.ac.jp/documents/tuat/campuslife_career/campuslife/course/kaihoukamoku_nogakubu.pdf



2) 開講上の形態による授業区分

教育課程上の授業科目を開講上の形態から、通常授業、通年科目、集中講義、卒業論文に分けて示すことがあります。

- i 通常授業科目は、1学期または3学期のいずれかで履修する科目です。
- ii 通年科目は、1年間で履修する科目です。
- iii 集中講義は、一定期間に集中してまたは不定期に行われる科目です。
- iv 卒業論文は、学科で開講期間が異なります。Anは3年次後期から1年半、Bn・Enは4年次前期から1年間の開講です。RnはP.53を参照してください。

(3) 卒業について

1) 卒業要件

卒業要件は、次のとおりです。

- ①修業年限を満たす。
- ②卒業に必要な所定の授業科目の単位を修得する。
※修業年限については特例があります。詳しくは、P.10を参照してください。

2) 卒業要件を満たすには

履修に関する相談は、教務係窓口および学科教育委員が受けますが、卒業要件の確認は学生個人の責任で行われるべきものです。以下を参照し、年度毎に履修計画を見直し、卒業に必要な科目および単位数に不足がないか確認してください。

- ①学生便覧、履修案内の教育課程表および所属学科のページを熟読する。
- ②正しく履修登録し、単位を修得する。
- ③成績表、履修案内を参考に修得科目、単位数および不足単位等を確認する。

3) 卒業に必要な最低修得単位数

卒業するためには次ページ表に記載されている単位数が最低でも必要となります。なお、単位数以外にも学科によって必修、選択必修および選択科目などの最低修得条件がありますので、履修案内の教育課程表を必ず参照してください。

学 科 名 (略称)	教養科目								スポーツ健康科学科目	教養科目 小計 a	専門科目			※ 自由選択単位 c	合計 a+b+c		
	新入生科目	グローバル教養科目	グローバル言語文化科目		グローバル展開科目						学部共通専門基礎科目	学科専門科目	学部共通専門科目				
		人文・社会科学科目	英語科目	第2外国語科目	日本語科目	グローバル先端科目	農工協働科目	産学連携科目								教養発展科目	Multisiplinary Courses
An	3	8	6	7	2	2				2	30	20	65	2	87	13	130
Bn												22	66	2	90	10	130
En												29	63	2	94	6	130
Rn												22	68	2	92	8	130

学 科 名 (略称)	共通教育科目							教養科目 小計 a	専門教育科目			合計 a+b		
	大学教育導入科目	スポーツ健康	外国語	人文社会科学	理数系基礎	大学教育導入科目			必修科目	選択必修科目	専門科目 小計 b			
						外国語アドバンス	持続可能な環境・社会						理数系アドバンス	
Vn	1	2	6	10	8	2	2	6	44	152	6	158	202	
							17							

※自由選択単位に充当できる単位は次のようになります。

- ①自分の所属する学科が指定した各科目区分の卒業に必要な最低修得単位数を超えて修得した単位
 - ②自分の所属する学科が指定したカリキュラム以外で修得した単位
- ただし、自由選択単位に充当できない授業科目もありますので注意して下さい。
例) 教職課程, 博物館学芸員課程など

4) 早期卒業

本学には、3年次以上の在学期間で卒業できる「早期卒業制度」があります。

5) 修業年限を超える者の卒業

卒業要件を満たした者は、6月または9月卒業の申請をすることが出来ます。

4), 5) とともに、詳細については以下の本学ホームページを参照してください。

希望する場合は、学科教育委員と相談の上、所定の期日までに教務係に申し出てください。

http://www.tuat.ac.jp/documents/tuat/campuslife_career/campuslife/course/nogakubu_soukisotu.pdf



6) 成績表の送付について

本学では、毎年6月中旬頃までに、前年度末時点の成績を保護者または連帯保証人宛に送付しています。また、修業年限を超え、かつ卒業見込みのない学生については、学業状況を通知しています。なお、卒業見込みのない学生とは、所属する学科が定めた基準 (P.82) を満たしていない者であり、卒業年次5月中旬以降に発行できる『卒業見込証明書』が発行されません。

3. GPA 制度およびCAP 制度について

GPA（単位あたりの評価平均値）制度は履修した科目の成績の評価を具体的な数値としてあらわす制度であり、GPAを利用することにより到達目標や学習時間の設定などを計画的に行うことができます。また、多くの科目について広く浅く学修するのではなく、精選した科目について十分な予習・復習の時間を使って深く学修し、内容を真に身につけることを目的にCAP制度を導入しています。

(1) GPA（Grade Point Average）制度

履修登録した各科目の成績を5段階（S, A, B, C およびD）評価して、それぞれに4, 3, 2, 1 および0の評価点を与え、各科目の評価点に単位数を乗じた合計を履修登録した科目の単位数の合計で除して算出した値です。計算式は以下のようになります。

$$\frac{\text{（授業科目の評価点} \times \text{単位数）の総和}}{\text{授業科目の履修登録単位数}}$$

※（授業科目の評価点×単位数）の総和をGPT（Grade Point Total）という。

GPA には、D 評価の履修登録単位数も計算式の分母に含まれます。例えば履修を途中で放棄してD 評価された科目がある場合は、GPA の値が大きく低下します。

GPA 対象科目の得点計算は、原則としてひとつの期の終了時にその期に行われた授業（GPA対象科目）について行います。ただし、通年科目については、授業が最終的に終了した期のGPAとして計算します。なお、詳細については別表1（P.12）を参照してください。

(2) 成績優秀者

ひとつの期中にGPA対象科目を20単位以上修得し、当期のGPAが3.5以上である学生は、成績優秀者と認定され、CAPの上限が緩和されます。ただし、下記の学生は成績優秀者に認定されません。

- ①再入学・転入学・編入学等により入学した学生。
- ②本学の単位として認定された「入学前既修得科目単位」が20単位を超える学生。

(3) CAP制度

CAP制度とはひとつの期に履修登録できる単位数に上限を定めた制度です。

ただし、編入学により入学した学生にはCAP制度は適用されません。

本学では、履修登録できる授業科目の単位数（合計単位数）の上限は、1期あたり28単位です。

しかし、成績優秀者として認定された学生は、認定対象となった学期の次の学期には1期あたり32単位まで履修することができます。

◎1期あたり28単位まで、成績優秀者として認定されたら32単位まで履修登録可能

CAP制度の対象となる授業科目は、卒業要件単位となる通常授業の科目に限ります。別表1の授業科目はCAP制度の対象にはなりません。

(4) 卒業要件・GPA・CAP 対応表

科目区分における卒業要件・GPA・CAP対応表は下記のとおりです。

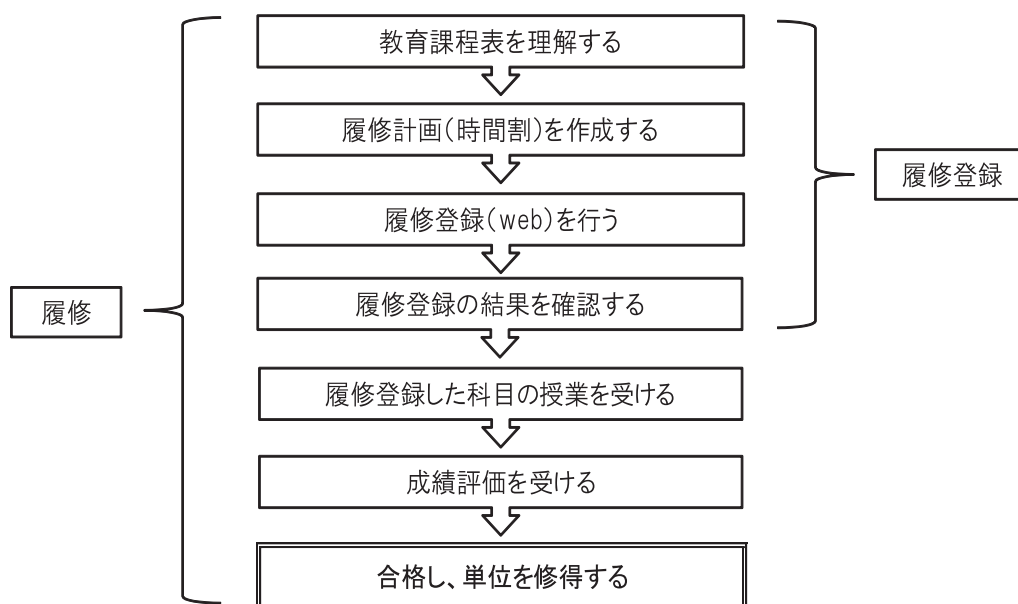
〔別表1〕

科目区分	卒業要件	GPA	CAP	備考
通常授業科目	○	○	○	GPAは終了期に算入
集中講義（不定期開講科目）				
通年または年度をまたぐ科目				
卒業論文				
外国語検定等による認定科目				
入学前既修得認定科目			×	
他大学単位互換科目				
教職課程の教職に関する科目				
博物館学芸員課程科目				
共同獣医学科の実習科目			○	
開放科目	×	×		

4. 履修手続きについて

(1) 履修とは

『履修』とは決められた教育課程を習い修めることで、『履修登録』から『単位修得』までの一連の流れのことをいいます。『履修登録』とは、農学部が定めるルールに従って、学生各自が履修を希望する科目を『履修登録』し、かつ履修登録内容確認期間内に本人が責任を持って『履修登録結果を確認』する手続きです。期間内に正しく履修登録していない科目は、授業に出席しても単位として認定されません。



(2) 履修登録の期間

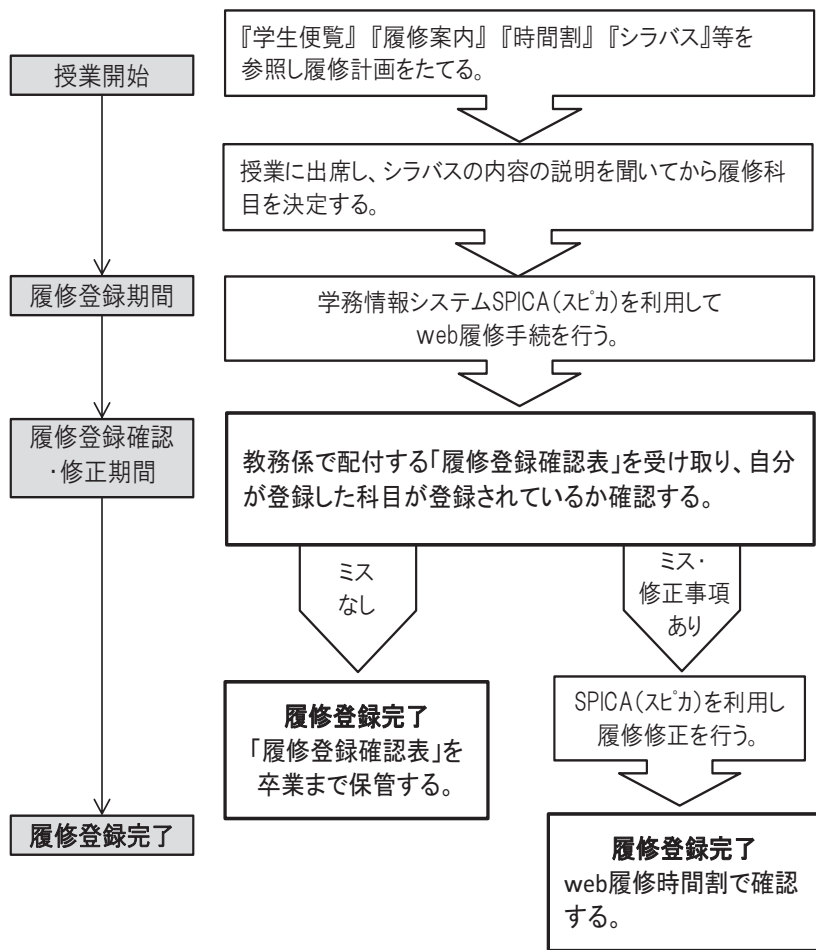
履修登録期間は下記の通りです。具体的な期間はWEB掲示板でお知らせしますので、必ず確認してください。

	登録学期	授業開講形態の区分	履修登録期間	履修登録確認・修正期間
前期	1・2学期	<ul style="list-style-type: none"> • 通常授業科目 • 通年科目 • 集中講義 • 教職科目 	1学期の授業開始日から2週間程度	1学期の履修登録期間の後1週間程度
後期	3・4学期	<ul style="list-style-type: none"> • 通常授業科目 • 集中講義 • 教職科目 	3学期の授業開始日から2週間程度	3学期の履修登録期間の後1週間程度

※履修登録修正期間中に必ず「履修登録確認表」を受け取り、登録内容に漏れや誤りがないかどうか、確認してください。Web上での登録ミスにより単位が認定されない事例がみられるので「履修登録確認表」によるチェックは重要です。

(3) 履修登録の手順

履修手続きは、次の手順に従って行ってください。



※web履修登録の方法については、本学ホームページを参照して下さい。

また、卒業年次の後期など、履修登録の必要がない場合でも、Web履修手続は必要になります。

(4) 他学科履修の取扱いについて

1) 他学科科目の履修の取扱いは下記の通りです。

科目区分	履修条件
教養科目・共通教育科目	原則自学科
他学科専門科目	授業担当教員に許可を得て下さい。

2) 共同獣医学科以外の学生は、共同獣医学科の岩手大学開講科目は履修できません。

3) 他学科専門科目の同一名称科目であっても、自学科専門科目として振替えることはできません。

4) 他学科専門科目の同一名称科目を自由選択科目として修得した場合、自学科専門科目の同一名称科目を履修することはできません。

(5) 他学科・他学部科目履修願

他学科・他学部科目については、授業担当教員の許可があれば履修することができます。

履修を希望する場合は、履修願（下記参照）を授業担当教員に直接渡してください。履修許可を得た科目は、Web履修登録を行ってください。

〔担当教員提出用〕 教員各位へ履修を許可する場合は受理し、授業終了まで保管してください。						
平成	年度	学期	他学科・他学部科目履修願			
時間割番号	履修科目	単位数	履修時間帯	学年	学科	担当教員名
			曜日 時限		学科 年次	
学籍番号（ ）		学科	平成	年度入学	年次	氏名

東京農工大学農学部

(6) 履修手続きについての注意事項

- 1) 履修登録は、各自が1年間および半期の履修計画を決め、卒業にも関わってくる最も重要な手続きです。履修案内、掲示板およびガイダンス時の配付資料を熟読し理解のうえ、必ず履修登録期間内に手続きを完了してください。**期間外の登録は一切認められません。**
- 2) 履修登録内容確認および修正は非常に重要な手続きです。学生自身のミスあるいはシステムエラーにより申告した科目が正しく登録できない場合があります。これらを修正するために履修登録確認および修正ができる期間を設けています。この所定の履修登録確認修正期間に、履修希望科目が正しく登録されたか否かを、必ず確認してください。**登録されていない科目は、授業に出席し試験に合格したとしても単位は認定されません。**
- 3) 重複履修（同一時限に2科目以上重複して履修すること）はできません。
- 4) 既に単位を修得した科目については、再度履修登録することはできません。
- 5) 教育課程表・時間割等に従って、在学年次に応じた授業科目を順次履修してください。
- 6) 自分の所属する学科以外の学科に、同一名称科目が開講されていても、自分の所属する学科開講科目を受講してください。
- 7) 履修登録に際し、オリエンテーションにより説明を行う科目がありますので、WEB掲示板で情報を確認し必ず出席してください。例えば、農学基礎ゼミ、自然科学系科目、外国語科目、スポーツ健康科学科目などです。
- 8) 卒業年次生は、原則卒業年度4学期に開講する科目の履修はできません。
- 9) 不明な場合は、早めに各学科の教育委員に問い合わせてください。

5. 試験および成績

(1) 試験

1) 定期試験

試験は、原則として「定期試験」を学期末および学年末に行いますが、授業科目によっては学期の途中で随時行うことがあります。また、病気等の止むを得ない理由で受験できなかった学生には追試験を、不合格者には再試験を行うことがあります。

2) 受験心得

受験にあたっては、厳正な態度で臨み、不正な行為は行わないこと。受験中不正行為などがあったと認められたときは、その行為が発覚した時点から謹慎処分となり、その学期における当該学生の履修した授業科目すべての単位が無効となり、学則により相応の懲戒処分を受けることになります。

- ①受験する学生は、特別の指示のない限り試験開始の5～10分前までに、所定の教室に入室すること。
- ②特に指示のない限り、指定された座席で受験すること。
- ③受験に必要な物品以外は、監督者の指示する場所に置くこと。
- ④携帯電話は電源を切って、カバンの中にしめること。
- ⑤学生証は、受験中必ず机上に置くこと。学生証を携帯しない者は、その試験が無効になることがあるので、必ず携帯すること。
- ⑥受験中は、筆記用具類の貸借をしないこと。
- ⑦受験中は、監督者の許可なく試験場外に出ないこと。
- ⑧受験中は、騒音等を発し、他人の受験の妨げとなるようなことはしないこと。
- ⑨試験開始後30分以内は、退室をしないこと。
- ⑩30分以上遅刻した者は原則として受験することができない。ただし、事情によっては受験を許可することがあるので、授業担当教員の指示をうけること。
- ⑪答案に学科、入学年度、学籍番号、氏名の記載がないと無効になることがあるので、記載の確認をすること。
- ⑫試験時間が終了、または、終了前に答案を作成し終わったときは、特に指定がない限り、教卓上に提出するか又は監督者に直接手渡して静かに退室すること。自己の机上に置いて退室しないこと。
- ⑬答案用紙の持ち帰りはしないこと。
- ⑭履修承認を受けた正規受験者以外は入室しないこと。

(2) 成績

成績評価の通知は、前期・後期ごとに学務情報システムのSPICAを通じて行われます。

通知時期は、掲示にて周知します。

成績を閲覧し、単位を修得した授業科目を確認し、次期以降の履修計画をたてる際に参考にしてください。

学期ごとの成績は、パソコンからSPICAへログインをして、確認をしてください。

自動証明書発行機での不要な発行は、禁止とします。

1) 成績評価基準

成績評価は、「S」(100～90点)、「A」(89～80点)、「B」(79～70点)、「C」(69～60点)、「D」(59～0点)の5段階評価で行われます。「S」、「A」、

「B」、「C」を合格とし、単位を付与します。「D」を不合格(途中放棄も含む)とし、成績表には表示

されますが、成績証明書には表示されません。

GPA、成績表および成績証明書記載事項の対応表

評価	評点	達成状況	GPA評価点	成績表への表示	成績証明書への表示	
合格	S	100～90点	到達基準を超えた成果を上げている。	4	あり	あり
	A	89～80点	到達基準を十分達成している。	3		
	B	79～70点	到達基準を達成している。	2		
	C	69～60点	到達基準をおおむね達成している。	1		
不合格	D	59～0点	到達基準に達していない。	0	なし	
認定	認定	評価を認定したもの (入学前既修得単位認定等)	なし		あり	

※GPA は成績表には表示されますが、成績証明書には表示されません。

2) 成績確認制度

自分の成績評価に対しての疑問などがある場合は、前期・後期ごとに成績の確認期間が設けられているので、所定の申請書により教務係まで申し出てください。前・後期末に詳細を掲示します。

● II. 教育課程表及び教育内容について ●

教育課程等
教養科目
(Vn以外)

1. 教養科目（共同獣医学科を除く）

(1) 教養科目の理念・目標

東京農工大学は、学生の自主的・自律的な学習活動を尊重し、科学技術系の大学に相応しい学識、知の開拓能力、課題探究能力、問題解決能力を兼ね備えた人材を育成します。また、豊かな教養・高い倫理観と広い国際感覚を具備し、共生社会を構築して人類社会に貢献できうる先駆的で人間性豊かな指導的研究者・技術者・高度専門職業人を養成します。

上記の人材育成目標を達成するために、教養科目においては、学生の自発性・多様性・協働性を育む機会を提供することにより、科学技術系大学の基盤となる専門性を広く生かすことができる能力を伸ばします。つまり、広範な学術分野におけるものの考え方を体得することを通じて、専門知識の柔軟な運用能力、社会の多様なニーズや価値観を踏まえた的確な判断力、他者と通じ合えるコミュニケーション力、およびグローバルに活躍するための異文化理解力の育成を図ります。

そのために教養科目では、各科目の内容に合わせて開講学期を設定し、教養教育と専門教育が連動するくさび型教育と段階的な能力獲得を実現しています。つまり、1年次学生には基盤となる教養科目を、学年を重ねるに従って知識の運用・課題解決が求められる発展的科目を配置しています。この発展的科目には、初期の専門教育を修めてからの履修が意義深いとされる科目も含まれ、教養科目で得られた知識やスキルを専門基礎科目の知識と掛け合わせて運用することが実践できます。

さらに、グローバル展開科目区分には多様な科目が設定されており、学生のみさんの興味や能力に応じた様々な履修方法が可能となっています。各段階の獲得能力の目標はカリキュラムマップで、各科目の獲得能力の設定は科目別目標一覧、下記URL又は、右記QRコード参照で確認できます。



http://www.tuat.ac.jp/documents/tuat/campuslife_career/campuslife/course/nogakubu_mokuhyo.pdf

教養カリキュラムマップ

	1年1,2学期	1年3,4学期	2年1,2学期	2年3,4学期	3年1,2学期	3年3,4学期	4年以降
新入生科目群	<ul style="list-style-type: none"> アカデミックライティング入門 農学基礎ゼミ/工学基礎実験 						
グローバル教養科目群	<ul style="list-style-type: none"> 現代倫理論 現代宗教論 多文化共生論 日本国憲法 経済学 社会学 歴史学 						
人文・社会科学科目	<ul style="list-style-type: none"> 共生社会政策論 国際平和論 哲学 文学・芸術学 心理学 教育学 						
理系教養科目	<ul style="list-style-type: none"> 食料・環境問題 安全工学* 	<ul style="list-style-type: none"> 農業史 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアプランニング* 		<ul style="list-style-type: none"> 科学史 技術者倫理* 知的財産権・特許法* 生命倫理* 動物と人間の行動* 		
グローバル言語文化科目群	<ul style="list-style-type: none"> Integrated English English Exam Preparation Course I 						
英語科目	<ul style="list-style-type: none"> Paragraph Writing English Discussion Essay Writing English Presentation English Exam Preparation Courses II, III* English Reading Academic Reading* Academic Communication* 						
第二外国語科目	<ul style="list-style-type: none"> 第二外国語I 第二外国語II 異文化理解のための○○語* 						
日本語科目	<ul style="list-style-type: none"> 日本語初級* 日本語初級ステップアップ* 日本語中級* 日本語中級ステップアップ* 日本語上級* 日本語上級ステップアップ* 						
グローバル展開科目群	<ul style="list-style-type: none"> グローバル展開ゼミ Multidisciplinary Courses* 産学連携科目* ベンチャービジネス* マーケティング* グローバル先端科目 農工協働科目 標準化* プロフェッショナル実践法 						
スポーツ健康科学科目群	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ健康科学理論 体力学実技 生涯スポーツ実技 						

*表示の学年に限定されず、他学年でも履修可能

(2) 科目区分について

以下に説明する5つの科目区分が、それぞれの教育効果とその相乗効果を通して、カリキュラムポリシーで目指す教養教育を具現化します。

1) 新入生科目区分

第三類型の大学として世界水準の研究教育の場を目指す本学を知るとともに、その研究教育の礎となる論理的・批判的思考や文章力を鍛えます。さらに、自ら問いを立てて理解を深め、知を開拓する面白さを実感し、自主的に学んでいく姿勢を身につけることを目的としています。新入生科目区分には、「新入生科目Ⅰ」と「新入生科目Ⅱ」があります。

i 新入生科目Ⅰ

アカデミックライティング入門

①目的と内容

論理的・批判的思考を促し、自身の考えや意見を相手に分かりやすく伝える文章力を身につけ、自律学習、協働学習の礎となる能力を鍛えます。

②履修方法と単位の認定

必修の授業で、1単位になります。1年次学生を対象とし、1学期木曜日の1限に学科ごとのクラスで行なわれ、8回で完結します。SPICAで履修登録を行わないと単位が認定されませんので、必ず行ってください。

③履修上の留意点

初回からテキストを使用します。テキストは初回授業で配布します。

ii 新入生科目Ⅱ

農学基礎ゼミ

①目的と内容

内容は全学共通の導入部分と、それぞれの学部の特徴を生かした学部独自のプログラムで構成されます。

全学共通プログラム

大学を知り、大学でいかに学ぶかを考える授業です。本学は、20世紀の社会と科学技術が顕在化させた持続発展可能な社会の実現に向けた課題を正面から受け止め、農学、工学およびその融合領域における自由な発想に基づく教育研究を通して、世界の平和と社会や自然環境と調和した科学技術の進展に貢献するとともに、課題解決とその実現を担う人材の育成と知の創造に邁進することを基本理念としています。本学の理念・歴史と、研究活動に関する理解を深め、学びへの意欲を増進すると共に、キャリア形成を理解することを目的としています。

学部独自プログラム

担当教員が用意した特定のテーマに関して少人数で行うゼミ形式の授業で、大学生活に適応し、

自発的な学習習慣を身につけることを目的としています。この授業を通し、大学での学びは問いを立てて理解を深めること、知を開拓する面白さや、主体的に学ぶことにあることを実感、自覚し、大学生活への動機付けを目的としています。

②履修方法と単位の認定

1年次学生を対象とした必修の授業で、2単位になります。全学共通プログラムの5回は学部または学科単位で行われます。6回目以降は学部独自プログラムです。農学基礎ゼミについては、4月の1年次オリエンテーションで履修ガイダンスを開催しますので必ず出席してください。当日、担当教員およびその講義テーマを記載した「農学基礎ゼミ履修案内」を配布します。

③履修上の留意点

クラス編成のための希望調査用紙の提出がない場合は履修できないことがあります。履修登録はクラス編成後にSPICAで履修登録を行ってください。他の科目と同様に、履修登録を行わないと希望調査用紙の提出だけでは単位が認定されません。

2) グローバル教養科目区分

多様性や異文化への理解を深め、幅広い多角的視野を形成します。科学技術を社会で展開するための知識、倫理観、社会の多様なニーズや価値観を獲得し、さらに国際感覚、知の開拓能力、的確な判断力を磨きます。グローバル教養科目区分は、人文・社会科学科目と、理系教養科目の2科目で構成されます。

i 人文・社会科学科目

①目的と内容

人文・社会科学科目は、自由な市民としての自主性・自立性・判断力および、多様な世界を認識し理解することのできる幅広い視野を有する教養豊かな科学技術者の育成のための、基礎的な知識の涵養を目指します。いわゆる文科系における広範な学術分野でのものの考え方を学びながら、多様性や異文化への理解を深め、幅広い多角的視野を形成し、国際感覚、知の開拓能力、的確な判断力を磨きます。そのため、次の3項目を学びの目的とします。

1. 人文科学、社会科学の諸分野に関する現代の諸問題の理解
2. その根幹をなす人間・文化・社会の基礎的理解
3. 理系学生にとっては異分野の学問である人文科学、社会科学のエッセンスの修得

上記の目的を達成するため、現代の人間と社会の基本的問題、人文科学・社会科学の諸分野の中から、本学学生が学ぶにふさわしい基本的内容を精選し、下記の13科目を設定します。

現代倫理論、現代宗教論、多文化共生論、共生社会政策論、国際平和論、哲学、文学・芸術学、心理学、教育学、日本国憲法、経済学、社会学、歴史学

②履修方法と単位の認定

1年次開講科目と3年次開講科目とがあります。学生の皆さんの関心に従って、受講科目を選択できます。それぞれの科目は2単位となり、8単位以上を修得することが必要です。単位の認定は、科目ごとの基準に従って行われます。

③履修上の留意点

特定科目に履修希望者が過度に集中した場合は、履修人数に制限を設けることがあります。

ii 理系教養科目

①目的と内容

持続可能な地球を目指す本学の教育理念を実現する科目として、科学技術と社会との関わりや、法規制をはじめとする社会との適合など、自然科学と社会科学を融合させた融合領域を学びます。科学技術を社会との関わりの中で展開していくための知識、倫理観、社会の多様なニーズや価値観を踏まえた確かな判断力を養うことを目的としています。

下記の9科目が設定されています。農学部、工学部の両学部で開講される科目、いずれかの学部でのみ開講される科目がありますので注意してください。自学部、他学部を問わず受講することが可能です。

両学部で開講される科目： 科学史、技術者倫理、知的財産権・特許法、
キャリアプランニング

農学部でのみ開講される科目： 農業史、食料・環境問題、生命倫理、
動物と人間の行動

工学部でのみ開講される科目： 安全工学

②履修方法と単位の認定

1年次開講科目と3年次開講科目とがあります。学生の皆さんの関心に従って、受講科目を選択できます。それぞれの科目は2単位となり、6単位以上を修得することが必要です。

③履修上の留意点

工学部で開講される科目を受講する際は、時間に余裕をもって移動するようにしてください。

3) グローバル言語文化科目区分

グローバルな時代における言語教育の基本方針として、複言語の修得により得られる多様な視点に基づく、異文化理解と認容力の育成、並びに相互コミュニケーション能力の養成を目指します。

i 英語科目

①目的と内容

グローバル化した現代社会でのコミュニケーションに必要であるインタラクティブな英語能力を自律的に身につけることを目指します。「ライティング・スキル」、「コミュニケーション・スキル」、「リーディング・スキル」の3つのスキル向上を目指します。

導入

新入生はまず導入部として、1年次1学期に開講される必修科目Integrated Englishで「読む、書く、聞く、話す」の力を総合的に高め、今後の英語使用の基盤を形成します。各スキルを向上させるのに必要なストラテジーを学び、活用できるようにします。

ライティング・スキル

必修科目として1年次3学期にParagraph Writing、2年次1学期にEssay Writingを開講し、自分の考えを英語で的確に表現する力、また一貫した論旨で英語の文章を組み立てる力を身につけます。

コミュニケーション・スキル

必修科目として1年次3学期にEnglish Discussion、2年次1学期にEnglish Presentationを開講し、英語で積極的にコミュニケーションをはかる能力を伸ばすとともに、アカデミックな環境で重要となる英語によるディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身につけます。

リーディング・スキル

必修科目として2年次3学期にEnglish Readingを開講し、大学レベルの高度な読解力を養うとともに、自発的なリーディング活動を身につけます。

資格試験対応

必修科目として、1年次1学期にEnglish Exam Preparation Course Iを開講します。この科目では、TOEFL ITPテストで英語圏の大学で講義を受けるのに必要な基準点を得ることを目標とします。

選択科目

2年次～4年次の2学期及び4学期にEnglish Exam Preparation Course II、English Exam Preparation Course IIIを、また3、4年次の1学期にAcademic Reading、3学期にAcademic Communicationを履修することができます。

②履修方法と単位の認定

英語科目は各1単位であり、上記の必修7科目を含めた7単位以上修得することが必要です。自らの英語力を知り学習に役立てるため、1年次1学期、2年次3学期の計2回、全員がTOEFL ITPを受験します。受験日時の詳細については掲示で周知します。Paragraph Writing、Essay Writing、並びにEnglish Readingは習熟度別クラス編成となります。詳細は掲示板で周知します。

③外国語検定試験に基づく単位認定

下記の英語検定試験で単位認定の資格を取得した人には、English Exam Preparation Course I、II、III以外の科目は2単位を上限とし、全体で3単位を上限として、これまでに単位を取得していない科目の単位を認定します。認定可能な科目、単位数など詳しくは英語教務担当教員に問い合わせてください。認定された場合、その科目の成績評価は、単位認定する科目により、下記の要領で90点(S)または80点(A)となります。

認定科目：下記科目から在学中English Exam Preparation Course I, II, III以外の科目は2単位を上限とし、全体で3単位を限度として認定されます。ただし、科目により、認定資格を取得する条件等が異なります。

English Exam Preparation Course I (1単位)	}	1年次必修科目
Integrated English (1単位)		
Paragraph Writing (1単位)		
English Discussion (1単位)		
Essay Writing (1単位)	}	2年次必修科目
English Presentation (1単位)		
English Reading (1単位)		
English Exam Preparation Course II (1単位)	}	選択科目
English Exam Preparation Course III (1単位)		

単位認定される検定試験，並びにその成績による成績評価

科目	英語検定試験	認定された場合の成績評価	
		S	A
English Exam Preparation Course I	TOEFL iBT	79点以上	78-61点
English Exam Preparation Course II	TOEFL iBT	100点以上	99-79点

科目	英語検定試験	認定された場合の成績評価	
		S	A
Integrated English, Paragraph Writing, English Discussion, Essay Writing, English Presentation, English Reading, English Exam Preparation Course III	TOEFL iBT	95点以上	94-72点
	実用英語技能検定	1級	準1級
	TOEIC L&R + S&W*	1845点以上	1840-1560点

*TOEICの点数は、(L&Rの得点) + (S&Wの得点×2.5) の合計点とする

(注意)

- 選択科目である、English Exam Preparation Course II, IIIは1～4年次のいずれの学年でも認定可能です。
- 必修科目は、開講年次・時期の早い科目から順次認定します。
- 単位認定の申請には、各機関が発行する正式な書類の添付が必要です。必要書類の詳細は、各学部教務係に問い合わせてください。TOEFL, TOEICは受験日より2年以内に申し出ることとします。またTOEICについては「公開テスト」によるもののみとします。
- 申請時期は4月上旬と10月上旬の2回です。申請期間等は別途掲示します。

ii 第二外国語科目

①目的と内容

本学で開講される英語以外の外国語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語を第二外国語

と呼びます。初修の外国語には必須である文法の講義を通じて学生が修得した基礎知識を、アクティブ・ラーニングの観点から、実践的かつ能動的な演習を通じて定着させ、実際に役立つ語学能力の養成を目指します。また、英語学習で修得した文法や表現に加え、英語圏とは異なる発想や習慣を有する言語の文化や事情に通暁し、自身の立場や意見を一旦相対化し、冷静かつ客観的な判断ができ、かつ自身の見解を各国語で表現・発信できる人材の養成を目的としています。それぞれの言語について、「I」、「II」、「異文化理解のための〇〇語」の3科目で構成されています。

②履修方法と単位の認定

第二外国語科目は各1単位であり、同一言語の「I」および「II」の2単位を修得することが必要です。「異文化理解のための〇〇言語」を習得した単位は、自由選択単位として卒業要件単位数に加算することができます。入学手続き時に提出した「第二外国語選択希望調査票」に基づいて、1年次の第一回目の授業までに、各外国語の「I」のクラスが編成され、掲示されます。自分のクラスを必ず確認し、これに従って、履修登録をしてください。

③履修上の留意点

- ・1クラス40名程度で編成されますので、不本意ながら、第1希望が通らない学生がどうしてもでてきてしまいます。その場合でも、残念ながら、他のクラスを選択することはできませんし、授業を受けても単位はつきません。それでも、指定された以外の外国語を履修したい場合、2年次以上になれば、認められますので、2年次以上で履修してください。
- ・辞書の案内を含め、ガイダンスは第一回目の授業で行います。
- ・外国人留学生は、第二外国語として母語を選択することはできません。第二外国語の代わりに日本語（2単位まで）を選択することができます。
- ・外国籍の学生がその国籍の言語を第二外国語として履修することは、原則できません。母語に相当しない等、特別な事情のある場合は、理由書を添えて教務係に申し出てください。

外国語検定試験に基づく単位認定

下記の外国語検定試験で資格を取得した人には該当単位を認定しますが、下記の条件に注意すること。

- 1) 認定対象は過去に履修していない科目の単位に限られるため、検定試験で取得した資格により新たに認定できる単位数が限られる場合もあります。下記の（認定例）を参考にしてください。詳しくは、第二外国語専任教員（ドイツ語、フランス語、中国語）に問い合わせてください。
- 2) 検定試験で取得した資格により認定された科目の成績評価は、すべて80点（A）となります。
- 3) 認定対象となる検定試験は、以下のように3つに分類されます。

国内の団体が実施する外国語検定試験

- | | |
|---------------|--------------------|
| ・ドイツ語技能検定： | 3級以上→3単位，4級→2単位 |
| ・実用フランス語技能検定： | 準2級以上→3単位，3・4級→2単位 |
| ・中国語検定： | 3級以上→3単位，4級→2単位 |
| ・スペイン語技能検定： | 3級以上→3単位，4級→2単位 |

CEFR（欧州評議会が定めた「ヨーロッパ言語共通参照枠」）の運用能力指標に準拠した試験

- ゲーテ・インスティトゥート ドイツ語検定試験：
 - Goethe-Zertifikat B1 → 2単位
 - Goethe-Zertifikat B2, C1-C2 → 3単位
- TestDaf (外国語としてのドイツ語テスト)： TDN3-5 → 3単位
- フランス国民教育省・フランス語資格試験 (DELF/DALF)：
 - DELF B1 → 2単位
 - DELF B2～DALF C1-C2 → 3単位
- フランス語学カテスト (TCF)：
 - B1 → 2単位, B2, C1-C2 → 3単位
- 外国語としてのスペイン語検定 (DELE)：
 - DELE B1 → 2単位
 - DELE B2, C1-C2 → 3単位

中国が独自の基準で実施している検定試験

- 中国語標準検定 (HSK)：
 - 3級 → 2単位, 4級-6級 → 3単位

(認定例)

1年生の1学期に「ドイツ語Ⅰ」を履修して「B」の成績を得た後、3学期に検定試験で取得した資格に基づき単位認定の申請をした場合

- 独検3級を取得 → 残りの2科目 (「ドイツ語Ⅱ」・「異文化理解のためのドイツ語」) を「A」として認定
- 独検4級を取得 → 「ドイツ語Ⅱ」1科目のみを「A」として認定

(注意)

- 3単位認定の場合は、各言語の「Ⅰ」「Ⅱ」「異文化理解のための〇〇語」が対象となります。
- 2単位認定の場合、各言語の「Ⅰ」「Ⅱ」が対象となります。
- 国内の団体が実施する外国語検定試験では、級数が小さくなるほど上級ですが、中国語標準検定 (HSK) は、級数が大きくなるほど上級となりますので注意すること。
- CEFR (欧州評議会が定めた「ヨーロッパ言語共通参照枠」) の運用能力指標に準拠した試験は、B1, B2, C1, C2の順に上級となります (初級のA1 およびA2は本学の単位認定からは除外します)。
- 申請時期は4月上旬と10月上旬の2回です。申請期間等は別途掲示します。

iii 日本語科目

①目的と内容

外国人留学生が教育研究上の活動や日常生活を円滑に行うためのコミュニケーション能力を身につけることを目指します。初級, 初級ステップアップ, 中級, 中級ステップアップ, 上級, 上級ステップアップの6科目で構成されており、それぞれレベルに合わせた会話力, 聴解力, 読解, 作文力を育成します。初級では、基礎的な日本語力を身につけることを目指し、コミュニケーション活動を中心に学習します。中級では、会話・聴解練習に加えて、読解活動や作文活動も取り入れます。上級では、専門授業にも役立つ読解・作文力をつけるとともに、専門的な分野の口頭発表能力も育成します。

②履修方法と単位の認定

外国人留学生のための科目です。各科目それぞれ1単位であり、2単位まで第二外国語の科目に振り替えることができます。それ以上履修した場合の単位は自由選択単位として卒業要件単位数に加算できます。

③履修上の留意点

- ・日本語科目の履修を希望する留学生は、担当教員まで連絡してください。
- ・高専からの編入生（留学生）が、日本語科目の履修を希望するときは事前に担当教員まで相談してください。

4) グローバル展開科目区分

基礎的な学びがどのように先端研究、実社会の課題解決、国際的な活動に結びつくのかを考え、広い視野の中で大学における学びや研究の意義を理解する機会を提供する科目区分です。教養科目や専門基礎科目で得られた多様な学術分野の知識を実践的に展開させ、自発性と協働性の発揮を促し、的確な判断力と知識の柔軟な運用能力を鍛えることで、課題探求と問題解決に必要な複合的な力を育成することを目指します。

この科目区分は、次の5つの科目グループに分けられています。東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学による三大学協働共通教育プログラムが提供する科目も含まれます。

i グローバル先端科目

①目的と内容

グローバルイノベーション研究院の外国人研究員による授業で世界水準の先端研究を英語で学び、研究の国際展開について考えます。科学の基礎的な学びがどのように先端研究に結びつくのかを示す事例、また、研究者を取り巻く国際的な環境についても知ることができます。具体的な授業内容については、開講年度のシラバスを参照ください。

ii 農工協働科目

①目的と内容

農学と工学の融合を実現している具体例から、学際研究の意義や研究展開の多様性、知の創造を考えます。そして、研究の複合化に対応する応用力、柔軟な発想力、幅広い理解力を育むことを目的としています。具体的な授業内容については、開講年度のシラバスを参照ください。

iii 産学連携科目

①目的と内容

実社会の課題に挑み、科学的または技術的な解決方法の設計や背景事情の調査、配慮すべき検討事項の分析、チーム活動を通して、課題解決に必要な複合的な力を知ることができます。企業目線の厳しい評価や、社会や企業の事情による制限の中で成果を出すことを体験します。具体的な授業内容については、開講年度のシラバスを参照ください。

iv 教養発展科目

①目的と内容

教養と専門基礎知識の運用，多元的な視野からの検討が必要となる科目で構成されています。この区分に含まれる三大学協働基礎ゼミでは，文理協働が目的とされ，専門が異なる東京外国語大学，電気通信大学の学生と協働して課題に取り組むことが求められます。

農学部，工学部の両学部で開講される科目，いずれかの学部でのみ開講される科目がありますので注意してください。自学部，他学部を問わず受講することが可能です。

両学部で開講される科目： マーケティング，プロフェッショナル実践法（遠隔授業による同時開講），三大学協働基礎ゼミ*

工学部で開講される科目： 標準化**，ベンチャービジネス論

* 西東京三大学連携による文理協働型グローバル人材育成プログラムの一環であり，東京外国語大学，東京農工大学，電気通信大学のいずれかの大学で開講されます。

<<http://www.tufs-tuat-uec.jp/page/gakubu.html>>

**多摩地区国立大5大学単位互換制度のもとで，東京外国語大学，東京学芸大学，東京農工大学，一橋大学，電気通信大学のいずれかの大学で開講されます。

v Multidisciplinary Courses

①目的と内容

国際教養科目や自然科学系基礎科目の英語による授業です。留学生や他大学の学生との合同授業も含まれ，扱われる学術分野は多岐に渡ります。いずれも国際的な環境で活躍する人材に必要なと思われる内容で構成されており，学部留学や研究の現場で，英語を使って教養的トピックまたは科学的トピックを理解し議論することに備えることを目的としています。

この区分には，西東京三大学連携による文理協働型グローバル人材育成プログラムの一環で開講される科目「三大学連携特別講義」も含まれます。三大学連携特別講義I及びIIの科目リストについては下記QRコードをご参照ください。農学部や工学部，東京外国語大学，電気通信大学のいずれかのキャンパスでのみ開講される科目や，遠隔システムを利用して授業が行われる科目もありますので注意してください。自学部，他学部，自大学，他大学を問わず受講することが可能です。

文理協働型グローバル人材育成プログラム

<<http://www.tufs-tuat-uec.jp/page/gakubu.html>>



②グローバル展開科目区分の履修方法と単位の認定

グローバル展開科目区分の中から，2単位以上を修得することが必要です。グローバル先端科目，農工協働科目については，3年次学生を対象とした集中講義として開講され，各科目1単位にな

ります。産学連携科目は、2年次学生と3年次学生を対象とした集中講義となり、各科目1単位になります。教養発展科目とMultidisciplinary Coursesにおいては、講義科目は2単位、演習科目（三大学協働基礎ゼミの各科目を含む）は1単位として設定され、対象年次は科目によって異なりますので注意してください。なお、三大学協働基礎ゼミについては毎年6科目設定され、各科目における農工大生の定員は4名程度になります。

③グローバル展開科目区分の履修上の留意点

各科目の開講状況、日程、シラバスは年度ごとに決定されます。web掲示板などに掲載される通知や案内に注意して科目選択、履修登録を行ってください。

5) スポーツ健康科学科目区分

①目的と内容

スポーツ健康科学科目区分では、社会生活を送るうえで身に付けておくべき基本的知識および技能の一環として、人間の身体や健康、スポーツに関する正しい知識を学び、自らの体力とその維持増進方法を実践的に理解するとともに、個々人の目的に応じた身体運動・スポーツ活動を実践する能力の修得を目的とします。さらに、身体活動・スポーツの実践に伴う文化的側面の理解、ルールの遵守や他者との協調等の課題を通じて、集団の中での個人の正しい振る舞いを学び、将来の社会形成に貢献する能力を身に付けることも目的です。

これらの目的を達成するため、スポーツ健康科学科目区分の3科目（スポーツ健康科学理論、体力学実技、生涯スポーツ実技）はそれぞれの独自性を保ちつつ、有機的に連携しています。各科目の詳しい内容はシラバスを参照してください。

②履修方法と単位の認定

必修科目である体力学実技の1単位のほか、生涯スポーツ実技、スポーツ健康科学理論のいずれか1単位が選択必修となり、合計2単位が卒業に必要な最低修得単位数となります。なお、2単位を超えて修得した単位は自由選択単位として卒業要件単位数に加算できます。教職免許を取得するためには「体育」科目として2単位が必須です。「体育」科目の履修方法・単位の修得方法については別途授業時間内に教員が説明します。

各科目の第1週目はオリエンテーションとして、科目の説明、受講クラスや種目等の選択を行います。欠席すると希望のクラス、種目等を選択できない場合があります。

さらに毎年4月に実施される学生定期健康診断を必ず受診してください。未受診の学生は、実技科目（体力学実技と生涯スポーツ実技）の履修を認められないことがあります。

③履修上の留意点

実技科目の履修に際しては、次のことに留意してください。

- 身体的条件を整えたくて授業に臨むようにしましょう。生理的に不適切な状態（不眠、過労、病気等）のとき、心理的に不適切な状態（無気力、意欲減退、協調できない等）のときは、授業への参加を認めないことがあります。
- ケガをしたらすぐに担当教員に申し出てください。一見軽くても重大な障害は少なくありません。申し出がないと傷害保険が適用されないことがあります。

- 体育館用のシューズが必要です。屋外用のシューズと区別して使用してください。なお、服装や用具について大学の指定するものではありません。運動に適したものを着用し、清潔を保つよう心がけてください。
- 貴重品は各自で保管・管理し、盗難に遭わないよう注意してください。更衣室は授業開始10分前を開き、最終授業終了10分後に施錠します。

(3) 教養科目教育課程表（共同獣医学科を除く）

区分	授業科目	単位数	開講年次								生物生産学 科	応用生物 科学科	環境資源 科学科	地域生態 システム 学 科			
			1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	3年次 前	3年次 後	4年次 前	4年次 後							
新入生科目	新入生科目Ⅰ	アカデミックライティング入門	1	*								◎		◎		◎	
	新入生科目Ⅱ	農学基礎ゼミ	2	*								◎		◎		◎	
グローバル教養科目	人文・社会科学科目	現代倫理論	2	*													
		現代宗教論	2	*													
		多文化共生論	2	*													
		共生社会政策論	2					*									
		国際平和論	2					*									
		哲学	2					*									
		文学・芸術学	2					*									
		心理学	2					*	*								
		教育学	2					*									
		日本国憲法	2	*	*												
	経済学	2	*	*													
	社会学	2	*	*													
	歴史学	2	*														
	理系教養科目	科学史	2						*								
		農業史	2	*													
		食料・環境問題	2	*													
		技術者倫理	2						*	*							
		知的財産権・特許法	2						*	*							
生命倫理		2						*	*								
動物と人間の行動		2						*	*								
安全工学 (T)		2	*	*		*	*	*	*								
キャリア・プランニング	2	*	*		*	*	*	*									
グローバル言語文化科目	英語科目	Integrated English	1	*								◎		◎		◎	
		Paragraph Writing	1	*									◎		◎		◎
		English Discussion	1	*									◎		◎		◎
		Essay Writing	1		*								◎		◎		◎
		English Presentation	1		*								◎		◎		◎
		English Reading	1			*							◎		◎		◎
		English Exam Preparation Course I	1	*									◎		◎		◎
		English Exam Preparation Course II	1		*	*	*	*	*	*	*		◎		◎		◎
	English Exam Preparation Course III	1		*	*	*	*	*	*	*		◎		◎		◎	
	Academic Reading	1				*	*										
	Academic Communication	1					*	*									
	第二外国語科目	ドイツ語Ⅰ	1	*													
		ドイツ語Ⅱ	1	*													
		異文化理解のためのドイツ語	1	*	*		*	*	*	*							
		フランス語Ⅰ	1	*													
		フランス語Ⅱ	1	*													
		異文化理解のためのフランス語	1	*	*		*	*	*	*							
		スペイン語Ⅰ	1	*													
スペイン語Ⅱ		1	*														
異文化理解のためのスペイン語	1	*	*		*	*	*	*									
日本語科目	中国語Ⅰ	1	*														
	中国語Ⅱ	1	*														
	異文化理解のための中国語	1	*	*		*	*	*	*								
	日本語初級	1	*	*	*	*	*	*	*								
	日本語初級ステップアップ	1	*	*	*	*	*	*	*								
グローバル展開科目	グローバル先端科目	グローバル先端科目 ()	1				*										
	農工協働科目	農工協働科目	1				*										
	産学連携科目	産学連携科目 ()	1		*		*										
	教養発展科目	標準化	2					*	*								
		マーケティング	2				*	*	*	*							
		ベンチャービジネス論(T)	2				*	*	*	*							
		プロフェッショナル実践法	2				*										
	Multidisciplinary Courses	3大学協働基礎ゼミ	1	*													
		Intercultural Communication(T)	2	*	*		*	*	*	*							
		Japanese Culture	2	*	*		*	*	*	*							
Japanese Science and Technology(T)		2	*	*		*	*	*	*								
International Cooperation of Science and Technology		2	*	*		*	*	*	*								
スポーツ健康科学科目	三大学連携特別講義Ⅰ ()	1															
	三大学連携特別講義Ⅱ ()	2															
	スポーツ健康科学理論	2	*														
体力学実技	1	*															
生涯スポーツ実技	1	*															

(1) ◎の授業科目は必修とする
 (2) 授業科目名 (T) は、小金井キャンパス開講

教育課程等
 教養科目
 (Vn以外)

2. 専門科目（共同獣医学科を除く）

(1) 学部共通専門基礎科目

1) 学部共通専門基礎科目の理念・目標

学部共通専門基礎科目は、本学の出身者として必ず身につけておくべき大学レベルの自然科学系科目（数学、物理学、化学、生物学および地学）であり、高大接続と専門基礎を融合した科目です。加えて、直接専門とのつながりはなくても、幅広い自然科学基礎学力（数学、物理学、化学、生物学および地学）を育成するための科目でもあります。

2) 科目区分について

i 数学

①教育の目標と内容

微分積分学，線形代数学，数理統計学を学ぶことによって，農学系の諸分野に進むための数学基礎学力を身に付け，社会科学やその他の分野にも応用が出来ることを目標にしています。具体的な内容は以下の通りです。

- ・微分積分学Ⅰ：いろいろな関数の微分，テイラー展開，不定形の極限值，有理関数の不定積分，広義積分。
- ・線形代数学Ⅰ：行列，行列の階数，連立1次方程式，行列式，逆行列。
- ・微分積分学Ⅱ：多変数関数，偏微分，2変数関数の極値，重積分，体積・曲面積，級数。
- ・線形代数学Ⅱ：ベクトル空間と線形写像，1次独立と1次従属，基底と次元，固有値と固有ベクトル，実対称行列の対角化。
- ・数理統計学：平均，分散，正規分布，標本，推定，検定。

②履修方法と単位の認定について

微分積分学Ⅰと線形代数学Ⅰは共同獣医学科を除く農学部全学科必修です（共同獣医学科は学科の指示に従うこと）。微分積分学Ⅱ，線形代数学Ⅱおよび数理統計学は各学科の指定に基づいて選択する科目です。単位の認定および評価方法については，科目ごとにシラバスで公表されます。

③履修上の留意点

クラス編成に従って，SPICAで履修登録を行ってください。指定されたクラス以外での履修は認められません

ii 物理学

①教育の目標と内容

「今日，我々の生活のいたるところに物理学はしみ込んでいます。」これは朝永振一郎『物理学とは何だろうか』の書き出しです。物理学は技術と相互に影響を及ぼしながら発展し，現代文明はその恩恵に浴しています。また，物理学は素粒子から宇宙創成にまでその領域を広げ，人間の自然観にも大きな影響を与えています。

この科目では力学と電磁気学の分野から代表的な現象を取り上げ，それらを数量的に取り扱うことを通して，現象の観察結果からその現象の奥に潜む法則性を理解し，物理学の考え方や方法を

身につけることを目標とします。

②履修方法と単位の認定について

「物理学」は4クラスを開講しますが、クラス分けについては掲示板で周知します。

「電磁気学」「物理学実験」の履修については、学科ごとの指定に従ってください。成績は、授業中に行う小テストやレポート、期末試験の結果で評価します。

③履修上の留意点

「物理学」の履修登録は、クラス編成に従って行ってください。指定されたクラス以外での履修は認められません。本科目は「物理学実験」の基礎となる科目です。

また、「物理学」は理科の中学校教諭1種免許状および理科の高等学校教諭1種免許状取得のための必修科目となっています。理科の中学校教諭1種免許状を取得しようとする学生は、「物理学実験」も併せて履修してください。

iii 化学

①教育の目標と内容

自然科学系の大学生として必ず身につけておくべき化学の基礎を学習します。学部専門基礎科目として、農学部に通じて必要とされる3つの講義科目、すなわち物理化学、無機化学、有機化学、および化学実験が開講されます。また、学部専門基礎科目よりもさらに基礎的な内容を学ぶ目的で、学部補習科目(P.76)の化学基礎も開講されます。

②履修方法と単位の認定について

学部専門基礎科目は、学科ごとに指定された科目および単位数を履修してください。

全ての科目は、必ず時間割で指定されたクラスで履修してください。再履修者も例外ではありません。単位の認定および評価方法については、科目ごとにシラバスで公表されますので、履修登録するにはシラバスに必ず目を通して下さい。

③履修上の留意点

学部専門基礎科目に関しては、特にありません。学部補習科目の化学基礎は、主に本学の入学試験で化学を選択しなかった人を対象としますが、化学の実力に不安がある人や化学の基礎を復習したい人も対象とします。卒業に必要な科目とはなりません、積極的に活用することを強く推奨します。

iv 生物学

①教育の目標と内容

生物は環境に適応し、様々に進化してきました。生命現象を物質から遺伝子、細胞、個体、集団、生態系、様々なレベルで学ぶことで、現代の生命科学の基礎知識に根差した幅広い教養、より専門的な学問領域を理解でき将来に生かせる学識や能力を養うことを目標とします。1年次前期「細胞・遺伝学」では、分子、遺伝子、細胞レベルの生命現象、メンデル遺伝学など細胞生物学と現代遺伝学の基礎を学びます。1年次後期の「生態・進化学」では、個体から個体群、群集、生態系レベルの生態学、生物の系統進化と進化の仕組みを学びます。1年次後期の「動物・植物

科学」では、動物と植物の形と生きるしくみ、人間との関わりを学びます。2年次前期の「微生物学」では、微生物学の基礎から人間との関わりまで、様々なトピックスを学習します。学科により1年次1・3学期または2年次1学期に開講される「生物学実験」では、実際に生物を扱った様々な実験を通して、技術や手法の基礎を習得しながら生命現象への理解を深めます。また、学部専門基礎科目よりも、さらに基礎的な内容を学ぶ目的で、学部補習科目の生物学基礎もEラーニングで開講されます。

②履修方法と単位の認定について

学科により必修科目、選択必修科目、学科推奨科目の指定があります。成績評価の方法などについては、各科目のシラバスを参照してください。

③履修上の留意点

同じ科目名でクラスが複数存在します。SPICAで履修登録する際には、時間割表や掲示で指定されたクラスで正しく登録するよう注意してください。

v 地学

①教育の目標と内容

地学系科目は広い意味で農学や環境科学に深く関わる領域です。アグリサイエンスやエコサイエンスの基礎をかたち作る教養として、最近大きく体系化が進められている地球惑星科学という骨組みに立って、地学分野の科学的知識と考え方を身につけることを目標とします。

講義科目は、「地学」と「地球環境地学」が設定されており、前者は地球内部や宇宙までの範囲、後者は地球表層の範囲を対象にして現在の地球環境に関係する内容を講義します。また実験科目として、「地学実験」を開講します。

②履修方法と単位の認定について

「地学」および「地球環境地学」は定期開講科目ですが、「地学実験」は集中で開講します。各科目の履修方法、評価方法はそれぞれのシラバスを参照して下さい。

③履修上の留意点

「地学実験」の履修希望者は、1年次に開講の地学を修得しておくことを推奨します。「地学」は理科の中学校教諭1種免許状の必修科目、理科の高等学校教諭1種免許状の選択必修科目となっています。理科の中学校教諭1種免許状の取得を希望する学生は、併せて地学実験も履修する必要があります。なお、環境資源科学科はこの地学実験のかわりに、「環境資源科学実験Ⅳ（地学）」を履修してください。

3) 学部共通専門基礎科目 教育課程表

区分	授業科目	単位数	クラス数	開講年次				生物生産学 学 科	応用生物科学 学 科	環境資源科学 学 科	地域生態システム学 学 科	
				1年次		2年次						
				1学期	3学期	1学期	3学期					
学部共通専門基礎科目	線形代数学Ⅰ	2	4	*				◎	◎	◎	◎	◎
	微分積分学Ⅰ	2	4		*			◎	◎	◎	◎	◎
	線形代数学Ⅱ	2	1				*					
	微分積分学Ⅱ	2	3			*				2単位以上修得すること		2単位以上を修得すること。
	数理統計学	2	3				*		◎	※		※
	物理学	2	4	*				※	◎	◎	◎	◎
	電磁気学	2	2			*					必修3単位を含めて3単位以上修得すること	◎印以外の授業科目から2単位以上修得すること。
	物理学実験	1	2		*	An,Rn	Bn,En			◎	◎	◎
	物理化学	2	4		*			※		※		※
	有機化学	2	2			*		※	注2	※	必修1単位を含めて5単位以上修得すること	◎印以外の授業科目から2単位以上修得すること。
	無機化学	2	3				*	◎		◎	◎	◎
	化学実験	1	4		*	*		◎	◎	◎	◎	◎
	細胞・遺伝学	2	3	*				◎	※	※		
	動物・植物科学	2	3		*			※		※	必修1単位を含めて5単位以上修得すること	◎印以外の授業科目から2単位以上修得すること。
	微生物学	2	3			*		※	※			※
生態・進化学	2	3		*			※				※	
生物学実験	1	4		*	*		◎	◎	◎	◎	◎	
地学	2	1		*						※		
地球環境地学	2	1				*	※			2単位以上修得すること	◎印以外の授業科目から2単位以上修得すること。	
地学実験	1	1				*			注1		◎	

備考 (1) ◎印の授業科目は必修科目とする。

(2) ○印の授業科目は選択必修科目とする。

(3) ※印の科目は学科推奨科目とする。

注1…環境資源科学科で理科の中学校教諭1種免許状の取得を希望する学生は、「地学実験」のかわりに「環境資源科学実験Ⅶ(地学応用)」を履修すること。

注2…応用生物科学科は「有機化学」の単位を卒業に必要な単位に含めない。

教育課程等
共通専門
基礎科目
(Vn以外)

◎印の必修科目6単位と○印の選択必修科目の中から2単位以上修得し、合わせて22単位以上修得すること。
※は学科推奨科目を示す。

(2) 生物生産学科 (An)

1) 学科の教育理念・目標

農業生産は、食料・飼料・バイオマスエネルギーや繊維・医薬品等の多彩な原料を供給することによって人間の生存および生活を広く支えています。また、農地とそこに形成される生態系は、自然と深く結びついた環境構成要素であり、国土や環境の保全に多面的な役割を果たしています。生物生産学科では、植物生産、動物生産（家畜・昆虫）、生産技術と生産環境に関する最先端の基礎的知識を身につけるとともに、農業経営経済の知識により統合化・総合化を行います。

この目的のために、生産技術と生産環境、植物生産、動物生産および農業経営経済の4分野の基礎的事項、相互の関係をすべての学生が理解し、そのうえで、学生個々人の選択に基づき個別分野に重点を置いた履修や全分野型の履修を進めます。これらの教育は、問題解決の能力や独創的発想を生み出す个性的な能力を伸ばし、実践的かつ最先端の農業科学技術を着想することを意図しておこなわれます。

この教育を通じて、学問領域や実社会において農業生産、とくに食料生産技術の開発および普及に携わる人材、食料自給率の向上、食料問題などの国内外の地域に立脚した社会的課題を解決し、アグリビジネスをグローバルに展開する人材、生物の多面的な生産機能の活用、環境と調和した持続可能な食料・農業生産の確立に貢献する人材を養成します。

2) 学科の教育内容

生物生産学は、農作物の生産から消費までの人と自然に関わる総合科学です。

すなわち生物生産学は、生物学の基礎から、土壌・作物・昆虫・家畜の生物生産機能の解析、農業生産技術の改良、農業経営・経済、農産物の流通・消費システムの理解など、多岐にわたる内容により体系的に構成されています。これらの内容に関する講義と並行して、実際の題材を用いた生物生産学実験・生物生産学実習・農業経営経済学総合演習・卒業論文等がおこなわれ、理論と実際を効果的に学ぶことができます。

3) 履修方法

本学科の授業科目は、教養科目および専門科目のいずれにおいても特に基礎的なもの以外はすべて選択科目となっています。これは、個々の学生が自分自身の学問的関心や進路に合わせて必要な科目を履修できるように配慮しているためです。また、履修科目を選択する際の道標として、いくつかの履修プログラムを用意しており、これについては入学後のガイダンスで詳しく説明します。

i 学科専門科目

学科専門科目は6つに分類されていますが、特に学科共通科目は生物生産（農業）の概要を理解するために必要な授業であり、できるだけ多く履修してほしい科目群です。卒業には、これらの専門科目の中から必修の10単位を含めて、60単位以上修得することが必要です。

ii 実験・実習・演習科目の履修について

基礎的な知識がないまま専門科目を履修しても、十分に理解することはできません。2年次以降に開講される実験・実習・演習科目の履修には1年次において、全学共通科目である生物学実験と化学実験並びに学科科目である生物生産学原論とフィールド実験実習Ⅰ・Ⅱを修得していることが望ましいので必ず履修して下さい。

iii 卒業論文履修と研究室所属

卒業論文を選択する学生は、生物生産学科の研究室からなる16研究室のいずれかに3年次後学期から分かれて所属し、卒業論文作成の指導を受けます。

3年次後学期からの卒業論文履修にあたっては、原則として、希望する研究室で指導を受けることができます。ただし、研究室には収容しうる学生数に制限があるため、著しい偏りが生じないように、学生間で調整してもらうことがあります。学生間での調整が困難な場合には、所属希望先の教員による面接・試験等による選抜が行われることもあります。研究室への所属に際しては、別にガイダンスを行います。

生物生産学科には以下の4つの科目系があります。

①生産技術環境系（土壌学，植物栄養学，農業生産技術学，国際生物資源学）

環境と調和した持続的な農業植物・動物生産のため、土壌環境，作物への養分供給，病害虫などの物理，化学，生物的な生産環境制御に関わる科学と技術について教育と研究を行います。

②植物生産系（作物学，園芸学，植物育種学，遺伝子細胞工学）

持続的な植物生産，品種改良の基盤となる農業植物の生態，生理，栄養，遺伝，育種，バイオテクノロジーなどの基礎と応用の科学と技術について教育と研究を行います。

③動物生産系（畜産学，蚕学，昆虫機能生理化学，動物生化学）

家畜，家蚕，およびその他有用農業動物の持続的な生産と利用をめざし，これら動物の遺伝，発生，生理，栄養，繁殖，生態，バイオテクノロジーなどの基礎と応用の科学と技術について教育と研究を行います。

④農業経営経済系（農業経済学，農業経営・生産組織学，農業市場学，国際地域開発学）

農業における生産，経営，市場，多面的機能および食糧消費構造等に関する経済学的基礎，政策，国際関係および歴史について教育と研究を行います。

4) 取得できる資格など

本学科には、普及指導員の筆記試験に必要な専門科目の講義が充実しているため、その資格が得やすくなります。これは従来の農業改良普及員に代わる資格で、国が実施する試験によって資格が得られます。ただし、受験には、大学卒業後4年以上または大学院修了後2年以上の実務経験が必要で、都道府県や農協等の職員として、試験研究，教育・普及指導などに一定期間従事したのちに、資格試験を受けることになります。

また、本学科では家畜人工授精師の資格を得るために必要な履修科目（講義・実験）の大部分を開講しているため、卒業後にその資格を得やすくなります。詳細については畜産学教育分野担当教員に問い合わせて下さい。

【コースツリーの説明】

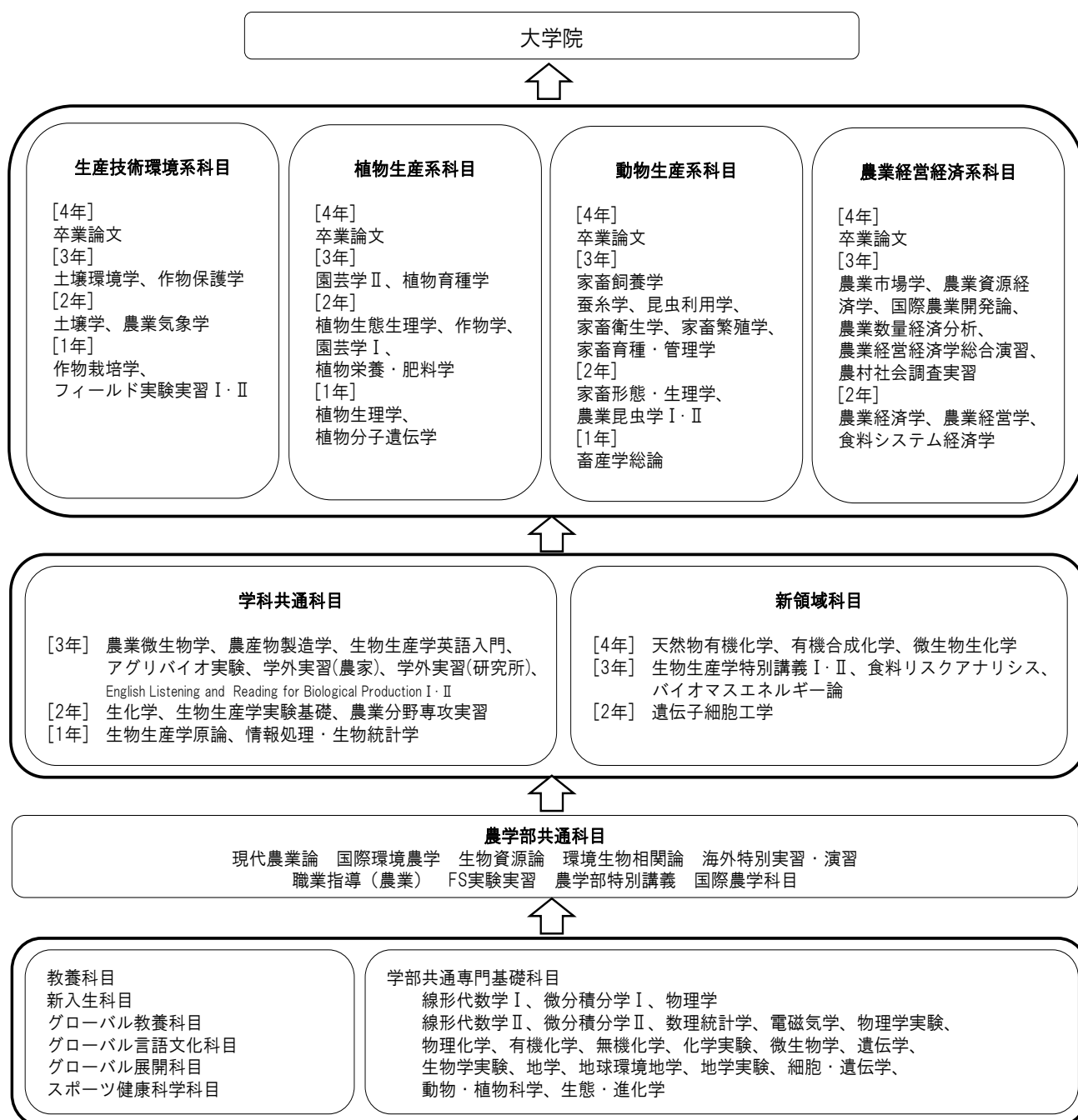
生物生産学科の授業科目相互の関係を説明します。本学科では、3年次後学期から希望する研究室に所属して卒業論文研究を開始します。研究室はおおまかに授業科目と同様、生産技術環境系，植物生産系，動物生産系（家畜系と昆虫系）および農業経営経済系の分野に分かれています。しかし、入学時から1つの分野の授業科目のみを履修したのでは生物生産学（農学）を理解したとはいえません。教育方針にもあるように、広い分野を理解できる知識，専門分野における確かな技術，優れた問題解決能力の3つ

が本学科の教育目標です。

本学科では学部共通専門基礎科目のうち化学実験および生物学実験を必修としていますが、これらは学科専門実験の理解に必要であるためです。教養科目には、哲学や心理学などの人文社会科学系科目、数学や理科などの自然科学系科目、外国語科目、スポーツ科目等、健全な精神と健全な肉体を維持・向上することにより、人格形成の糧となる科目があります。また、専門分野にやや近い教養科目（学部共通専門基礎科目）も数多く設けられています。

これらの科目を学びながら、学科専門科目を基礎的なものから応用的なものへと順に履修していきます。専門科目では、生物生産学の全体を理解するために学科共通科目があり、そのうえに、卒業論文研究を行う比較的狭い専門分野の科目が配置されています。

生物生産学科授業科目のコースツリー



5) 生物生産学科専門科目教育課程表

区分	授業科目	単位数	担当教員	開講予定学期								開講形態 ・ 合併学科	履修要件	
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
学科共通科目	◎ 生物生産学原論	4	学科教員	*	*									
	※ 情報処理・生物統計学	2	(非常勤)	*									一部集中	
	生化学	2	(非常勤)			*								
	農業微生物学	2	岡崎ほか				*							
	農産物製造学	2	佐藤(幹)ほか					*					一部集中	
	生物生産学英語入門	2	学科教員					*						
	農業分野専攻実習	2	FS教員ほか			*	*						一部集中	
	◎ 生物生産学実験基礎	4	学科教員				*							
	アグリバイオ実験	2	学科教員					*						
	学外実習(農家)	1	本林ほか					*					集中	
学外実習(研究所)	1	学科教員					*					集中		
卒業論文	8	学科教員						*	*	*				
生産技術環境系科目	※ 作物栽培学	2	学科教員	*										
	※ 土壌学	2	田中(治)			*								
	農業気象学	1	(非常勤)			*							集中	
	土壌環境学	2	杉原					*						
	※ 作物保護学	2	本林・佐々木(信)					*						
	◎ フィールド実験実習Ⅰ	1	学科教員	*										
◎ フィールド実験実習Ⅱ	1	学科教員		*										
植物生産系科目	※ 植物生理学	2	金勝	*										
	植物分子遺伝学	2	山田(哲)		*									
	植物生態生理学	2	大川・(非常勤)			*								
	※ 作物学	2	大川・(非常勤)				*							
	※ 植物栄養・肥料学	2	大津				*							
	※ 園芸学Ⅰ	2	鈴木(栄)・伴・(非常勤)				*							
	園芸学Ⅱ	2	鈴木(栄)・伴・(非常勤)					*						
※ 植物育種学	2	山田(哲)・金勝					*							
動物生産系科目	※ 畜産学総論	2	佐藤(幹)ほか		*									
	※ 農業昆虫学Ⅰ	2	横山・本林・天竺桂・伊藤			*								
	家畜形態・生理学	2	新井(克)・竹村				*							
	農業昆虫学Ⅱ	2	横山ほか				*							
	家畜飼養学	2	佐藤(幹)					*						
	家畜繁殖学	2	杉村					*						
	家畜育種・管理学	1	新村・(非常勤)					*						
	蚕糸学	2	横山・伊藤・(非常勤)						*					
	昆虫利用学	2	天竺桂・(非常勤)						*					
	家畜衛生学	2	竹原・林谷						*				Vn	
農業経営経済系科目	※ 農業経済学	2	山崎			*								
	※ 農業経営学	2	草処・千年				*						Rn	
	食料システム経済学	2	観山・野見山				*							
	農業市場学	2	(野見山)					*					Rn	
	国際農業開発論	2	山田(祐)・千年					*						
	農業数量経済分析	2	草処						*					
	農業資源経済学	2	新井(祥)						*					
	農業経営経済学総合演習	1	新井(祥)・草処・観山・岡山						*					
農村社会調査実習	2	新井(祥)ほか							*					
新領域科目	バイオマスエネルギー論	2	大川・千年・山田(祐)・岩岡・東城					*					Rn	
	遺伝子細胞工学	2	梅澤					*						
	生物生産学特別講義Ⅰ	0.5	(非常勤)						*		*		集中	
	生物生産学特別講義Ⅱ	0.5	(非常勤)						*		*		集中	
	食料リスクアナリシス	2	(非常勤)						*				集中	
	天然物有機化学	2	川出						*				Bn	
	有機合成化学	2	千葉						*				Bn	
微生物生化学	2	山形						*				Bn		

備考 (1) ◎印の授業科目は、必修とする。
 (2) ※印の授業科目は、学科推奨科目とする。
 必修10単位を含め、65単位以上を修得すること。

教育課程等
 生物生産
 学科
 (An)

(3) 応用生物科学科 (Bn)

1) 学科の教育理念・目標

近年のバイオサイエンス、バイオテクノロジーに関する最先端科学と技術のめざましい発展によって、生物自身の生命維持活動、生物間の相互作用、生物が生み出す物質の特性や機能などについて、それらの解明および利用が可能になってきました。人類を含めて生物は互いに無関係ではなく、食物連鎖を含めあらゆるレベルで関係をもって共存しています。生物のもつ生命現象や生物個体間相互作用と共存様式の解明は、人類が「持続可能な発展 (Sustainable Development)」を成し遂げていくために必要不可欠であり、これらの応用への道を拓くことは新しい時代の要請です。

本学科は、化学と生物学を基盤科学とし、分子、細胞、個体から生物群集の活動、相互作用にいたる一連の生命現象と生物機能を解明、応用、発展させることをめざした教育と研究を行い、バイオサイエンス、バイオテクノロジーの分野で活躍できる基礎と応用能力、さらには開発能力を備えた指導者となりうる人材を養成することを目標としています。

1, 2年次では、人文・社会科学、グローバル言語文化科目群などの教養科目、自然科学系の学部共通専門基礎科目、および学科専門科目のうちの基礎的な科目(「有機化学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」,「生化学Ⅰ,Ⅱ」,「分析化学」,「分子生物学」など)を履修して、広く豊かな教養を身につけるとともに専門教育の基礎力を養います。

学生実験は、1年次3学期に基礎的な実験(化学実験・生物学実験)を履修し、2年次3学期からは学科の専門的な実験(応用生物科学共通実験Ⅰ・Ⅱ, 応用生物科学専門実験Ⅰ～Ⅵ)を履修します。本学科では実験を特に重視していることから、2年次3学期と3年次1学期は、午前中は講義、午後は学生実験という生活を送ることになります。

学科専門科目は、1年次から3年次までに基礎的な科目から次第により専門的な科目へ、また時間数も徐々に多くなるように配置されています。

4年次は、「卒業論文」の履修が中心になります。3年次までの学習によって形成された各自の関心を基礎に、分子生命化学講座、生物機能化学講座、生物制御学講座のいずれかの教育研究分野に属して、教員から指導を受けながらほぼ1年間にわたって研究に取り組み、論文を作成し、発表します。本学科の専門教育の総仕上げである「卒業論文」には、8単位があてられ、毎日の大半を研究室で過ごします。具体的なカリキュラムは学科課程表(履修案内P.38)およびコースツリー(履修案内P.42)を参照してください。

2) 履修上の注意

卒業には、応用生物科学共通実験Ⅰ・Ⅱを含めて、本学科専門科目66単位以上の修得が必要です。また、応用生物科学共通実験および専門実験の履修申告には、2年次1学期終了時に次の要件を満たしていることが必要です。

- i 教養科目を14単位以上、ただし、グローバル言語文化科目群は5単位以上を修得していること。
- ii 専門科目のうち、化学実験、生物学実験を含めて学部共通専門基礎科目を10単位以上(但し有機化学は除く)、学科専門科目は、20単位以上を修得していること。
- iii 応用生物科学共通実験Ⅰ・Ⅱ, 応用生物科学専門実験Ⅰ～Ⅵの単位を修得していないと、研究室に所属して卒業論文を履修できません。

学科専門科目の実験は、2年次3学期と3年次1学期に行われます。応用生物科学共通実験ⅠおよびⅡは必修科目で、卒業までに必ず履修する必要があります。また、共通実験ⅠおよびⅡの単位を修得していないと、3年次1学期の専門実験は履修できません。2年次での実験の履修は卒業論文を履修して4年間で卒業するための条件の一つとなります。注意して履修計画を立ててください。

なお、実験(応用生物科学共通実験・専門実験)の履修に関しては、施設・設備の制約から2クラスに分けます。

3) 講座の研究・教育分野と講座への所属

本学科には3つの講座があり、共同して学科の教育を担当しています。卒業論文作成のために所属する講座を、学生は決定することができます。ただし、施設・設備・教員数等による制約から、各講座に入室可能な学生数には上限が設けられています。

i 分子生命化学講座

生命を維持する上での生体物質の動的役割、すなわち、生物の代謝・生理、生物による物質変換、遺伝情報と発現・調節、蛋白質の構造と機能などに関する教育を行います。この講座は、生物化学、遺伝子機能制御学、発酵学、植物工学、遺伝子工学等の教育研究分野で構成されています。蛋白質・糖鎖の生理機能と生物工学、酵素の構造と機能と蛋白質工学、遺伝子の構造と機能・発現調節機構の解明、微生物が生産する新しい生理活性物質（医薬など）と酵素の検索およびその生化学、などの教育と研究を行います。

ii 生物機能化学講座

生体物質（生理活性物質、脂質、糖、蛋白質、酵素、遺伝子）などの構造と機能、生物との相互作用などに関する教育を行います。この講座は、生物制御化学、生物有機化学、食品化学、栄養生理化学、応用蛋白質化学、代謝機能制御学、応用植物生化学等の教育研究分野で構成されています。生理活性物質の構造、活性、合成、生体高分子の構造・物性・機能改変、栄養素による機能調節・疾病改善作用、およびこれらの分野と密接に関連した応用分野（医薬、農薬、香料、食品、生体高分子材料など）に関する教育と研究を行います。

iii 生物制御学講座

生物の調節機能と生物間相互作用のしくみ、および生物の生存様式について教育を行います。この講座は、植物病理学、応用昆虫学、応用遺伝生態学、細胞分子生物学、相関分子生物学、分子環境生物学等の教育研究分野で構成されています。生物集団の動態、動植物と微生物の相互作用およびこれらの生理機能、発生、遺伝子発現、生殖のしくみなどについて蛋白質、遺伝子、細胞、個体、個体群、群集などのさまざまなレベルで教育と研究を行います。

4) 卒業論文履修上の注意

卒業論文の履修は4年次からですが、所属する講座の決定は3年次3学期に行います。履修には、3年次1学期終了時点で次の条件を満たしていなければなりません。

- i 全学共通教育科目を19単位以上、ただし、グローバル言語文化科目群は7単位以上を修得していること。
- ii 専門科目のうち、学部共通基礎科目を20単位以上（但し有機化学は除く）、学科専門科目は実験も含めて41単位以上を修得していること。
- iii 化学実験、生物学実験、応用生物科学共通実験Ⅰ・Ⅱ、および応用生物科学専門実験Ⅰ～Ⅵをすべて履修していること。

また「科学英語論文演習Ⅰ」と「科学英語論文演習Ⅱ」は、卒業論文を履修した者に対して講座において開講される科目であるため、卒業論文を履修しない者は選択することが出来ません。

5) 取得できる資格

- i 別表の「食品衛生コース」カリキュラムを修めた者は、食品衛生監視員、食品衛生管理者の資格が得られます。この資格は就職後、地方公共団体あるいは企業等を介し必要書類（成績証明書とコース修了証明書）を添えて保健所等へ申請し、実務につくものです。但し編入学生は、「食品衛生コース」の履修が原則不可能です。

東京農工大学農学部応用生物科学科「食品衛生コース」カリキュラム

(平成31年度改正)

区分	授業科目	単位	備考	区分	授業科目	単位	備考
必修科目	無機化学	2	学部専門基礎科目	選択必修科目	植物生理学	2	学科専門科目
	細胞・遺伝学	2			分子細胞生物学	2	
	微生物学	2			微生物生化学	2	
	有機化学Ⅰ	2	生体高分子化学		2		
	生化学Ⅰ	2	応用微生物学		2		
	有機化学Ⅱ	2	栄養化学		2		
	分子生物学	2	細胞工学		2		
	有機化学Ⅲ	2	植物工学		2		
	生化学Ⅱ	2	食品工学		2		
	分析化学	2	公衆衛生学総論		1	共同獣医学科 応用獣医学科目群	
	天然物有機化学	2	疫学		2		
	機器分析化学	2	選択必修科目については4科目8単位以上修得すること				
	食品化学Ⅰ	2					
	遺伝子工学	2					
	食品化学Ⅱ	2					
	食品製造学	2					
	食品衛生学	2					
	応用生物科学共通実験Ⅰ	1					
	応用生物科学共通実験Ⅱ	1					
	応用生物科学専門実験Ⅰ	1					
	応用生物科学専門実験Ⅱ	1					
	応用生物科学専門実験Ⅲ	1					
	応用生物科学専門実験Ⅳ	1					
応用生物科学専門実験Ⅴ	1						
応用生物科学専門実験Ⅵ	1						
小計	42						
①	必修科目及び選択必修科目合計					50単位以上	
選択科目②	別添「応用生物科学科教育課程表」に記載されている次の科目 ・本カリキュラム選択必修科目で8単位を超えて修得した科目 ・本カリキュラム以外の科目					32単位以上	
	上記 ① ② 合計					82単位以上	

応用生物科学科コースツリー

農学府農学専攻
・生物生産科学コース
・応用生命化学コース

生物システム応用科学府

卒業論文

科学英語論文演習 I - II

学科専門科目

食品衛生学	食品製造学	農業科学
食品工学	国際展開力科目 I - II	機器分析化学
生体高分子化学	応用生物科学専門実験 I - VI	動物生理学
有機合成化学	応用生物科学共通実験 I - II	植物病理学
栄養化学	生物統計学	バイオリジカルコントロール
食品化学 I - II	細胞工学 植物工学	植物病理学
応用微生物学	遺伝子工学 分子生物学	生物相関学
微生物生化学	分子細胞生物学 情報処理学	植物保護学
天然物有機化学	農場実習 分析化学	植物生理学
生化学 I - II		応用昆虫学
有機化学 I - III		

学部専門基礎科目・学部共通専門科目

線形代数学 I - II 微分積分学 I - II 数理統計学 物理学 電磁気学 物理学実験 物理化学
無機化学 化学実験 細胞・遺伝学 動物・植物科学 微生物学 生態・進化学 生物学実験
地学 地球環境地学 地学実験

教養科目

新入生科目 人文・社会科学科目 理系教養科目 英語科目 第2外国語科目
グローバル先端科目 農工協同科目 産学連携科目 教養発展科目
Multidisciplinary Courses スポーツ健康科学科目

1. 1年次および2年次前期までは、教養科目を通じて、幅広い教養および基礎的な専門分野を学ぶ。
2. 2年次後期から3年次にかけて学科専門科目や専門実験を履修し、専門分野を学ぶ。
3. 3年次後期に研究室の決定を行い、4年次から卒業論文を履修し、卒業論文を作成する。
4. 本学科を卒業した者の多くは、農学府農学専攻と生物システム応用科学府(大学院修士課程)に進学し、より深くそれぞれの専門分野について履修する。

教育課程等
応用生物科
学科
(Bn)

6) 応用生物科学科専門科目教育課程表

区分	授業科目	単位数	担当教員	開講予定学期								開講形態 ・ 合併学科	履修要件	
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
学科共通科目	情報処理学	2	(非常勤)	*										
	有機化学Ⅰ	2	千葉・笠原	*										
	生化学Ⅰ	2	西河・殿塚	*										
	有機化学Ⅱ	2	梶田		*									
	分子生物学	2	佐々木(信)		*									
	植物生理学	2	福原		*									
	植物保護学	2	学科教員・(非常勤)		*								一部集中	
	有機化学Ⅲ	2	北野			*								
	生化学Ⅱ	2	殿塚・木村			*								
	分析化学	2	(非常勤)			*								
	分子細胞生物学	2	森山・福原			*								
	動物生理学	2	三浦・(非常勤)			*								
	有機合成化学	2	千葉				*							
	微生物生化学	2	山形				*							
	天然物有機化学	2	川出				*							
	機器分析化学	2	夏目				*							
	食品化学Ⅰ	2	服部(誠)				*							
	生物相関学	2	佐藤(令)・鈴木(丈)				*							
	バイオロジカルコントロール	2	仲井・井上				*							
	生体高分子化学	2	野村・西河・殿塚					*						
	遺伝子工学	2	松下					*						
	応用微生物学	2	蓮見・鈴木(絵)					*						
	食品化学Ⅱ	2	好田					*						
	栄養化学	2	三浦					*						
	植物病理学	2	有江・小松					*						
	応用昆虫学	2	平岡					*						
	細胞工学	2	三浦・森山						*					
	植物工学	2	川合						*					
	食品工学	2	野村						*					
	食品製造学	2	(非常勤)						*					
	食品衛生学	2	(非常勤)						*					
	農業科学	2	夏目						*					
	生物統計学	2	(非常勤)							*			集中(2学期)	
	国際展開力科目Ⅰ	2	学科長										AIMS留学生	
	国際展開力科目Ⅱ	2	学科長										AIMS留学生	
	科学英語論文演習Ⅰ	1	学科教員								*		不定期開講	
科学英語論文演習Ⅱ	1	学科教員									*	不定期開講		
農場実習	1	FS教員		*								集中		
◎ 応用生物科学共通実験Ⅰ	1	学科教員				*								
◎ 応用生物科学共通実験Ⅱ	1	学科教員				*								
応用生物科学専門実験Ⅰ	1	学科教員				*								
応用生物科学専門実験Ⅱ	1	学科教員					*							
応用生物科学専門実験Ⅲ	1	学科教員					*							
応用生物科学専門実験Ⅳ	1	学科教員					*							
応用生物科学専門実験Ⅴ	1	学科教員					*							
応用生物科学専門実験Ⅵ	1	学科教員					*							
卒業論文	8	学科教員							*	*				

- 備考 (1) ◎印の授業科目は、必修とする。
(2) 学科共通科目群から必修2単位を含めて、66単位以上を修得すること。

(4) 環境資源科学科 (En)

1) 学科の教育理念・目標

近代科学のめざましい発展と技術革新は、私たちの生活に豊かさを生み出しました。しかしながら、急激な人口増加と化石資源に依存した大量生産・大量消費・大量廃棄は、大気・水・土壌など生物圏の環境悪化を引き起こしています。その結果、地球上の生物は生存が脅かされる種々の難問に直面しています。

本学科は、環境と資源に関する教育と研究を通じ、人類が地球環境と調和しながら持続的に共存するための自然科学に貢献できる人材や、物質を循環させるメカニズムを総合的に理解して地球環境に関する種々の問題の解決に貢献できる人材の育成を目指しています。

2) 学科の教育内容

本学科は、「環境と資源」というキーワードを機軸としています。生物学・物理学・化学および地学の基礎知識を土台に、地球環境に関する基礎的な内容から、より専門性の高い内容まで、幅広く教育を行っています。近年重要性がますます増大している環境や資源に関する問題を理解するためには、自然科学を広く、かつ、深く理解していることが不可欠です。本学科では、自然科学の基礎知識を豊富に身につけ、それらを応用して人類が直面する環境と資源にかかわる諸問題を理解して解決への道筋を組み立てる思考力を養成するための教育を実践しています。また、知識と思考力だけでなく、それらの実践に必要な技能・技術も重視しており、そのために専門科目では実験科目と実習科目を採り入れています。具体的なカリキュラムは、教育課程表 (P.43～44) とコースツリー (P.48) およびカリキュラムマップ (HP) を参照して下さい。

1年次と2年次では、主に新入生科目、グローバル教養科目、グローバル展開科目等の教養科目や専門科目のうち学部共通専門科目を履修して、理科系の大学生としてふさわしい広い教養を身につけるとともに、学科の専門教育に必要な基礎学力を養成します。

専門科目は、学科基礎科目と学科専門科目という2つの科目区分に分類されます。学科基礎科目は基礎的な性質のより強い科目で、広範囲に及ぶ環境資源科学のどの分野に進むにしても基礎として必要とされる科目が該当します。一方、学科専門科目は応用的な性質が強い科目で、環境資源科学の中の特定の専門領域を深く学ぶことができる科目が該当します。これらの専門科目は主に2年次以降に配置されていますが、一部は1年次にも配置されたくさび形のカリキュラムをとっており、1年次から学科の専門分野に触れることができるように配慮されています。

学科専門科目には特別講義が6科目含まれています。これらの科目では、学科の各分野に関係する専門家を他大学や研究機関から講師としてお招きして、それぞれの専門分野を講義していただきます。これらを受講することで、最先端の研究に触れて最新の知識を身につけることができます。

理科系の大学の多くがそうであるように、本学科でも実験科目を重視しています。まず1年次から2年次では、学部共通基礎専門科目の物理学実験、化学実験および生物学実験の3科目を履修し、環境資源科学を学ぶ以前に理科の専門家ならば誰でも修得していなければならない実験の基礎を学びます。これら3科目は必修科目です。次に2年次から3年次では、学科専門科目の実験科目である環境資源科学実験ⅠからⅣの4科目を学びます。これらは必修科目ではありませんが、環境資源科学にお

ける実践能力を身につけるために不可欠ですので、すべてを履修することが強く推奨されます。

大部分の学生は、4年次には卒業研究に取り組みます。3年次までに培った知識や経験をもとにして、各自が関心をもつ分野のいずれかの教員の指導のもとで1年間、卒業研究に取り組みます。研究して得られた成果は卒業論文にまとめ、発表会で発表します。卒業論文は必修科目ではありませんが、専門科目の総仕上げであり、学力だけではなく自発的に学ぶ姿勢、直面する問題を打開する能力、プレゼンテーションの技術を身につける絶好の機会です。履修することが強く推奨されます。

本学科のカリキュラムの大きな特徴に、物理学・化学・生物学・地学の4科目を基幹科目として位置づけている点があげられます。専門科目ではこれら理科4科目をまんべんなく学ぶことができますので、本学科の用意するカリキュラムを履修すれば、総合理科の専門家として社会で十分に通用する能力が身につくはずで

3) 専門科目の履修方法

卒業するためには、学科基礎科目の環境資源科学実験Ⅰ～Ⅳから2単位以上、それ以外の学科基礎科目から29単位以上、さらに学科専門科目から32単位以上を修得しなければなりません。

教育課程表に用意されている多くの科目の中には、相互に密接に関係している科目があります。すなわち、ある科目にとって別の科目を履修しておいた方が理解しやすい、という場合があります。こうした科目間の相互関係を示すために、科目相関表(P.49)がありますので、履修計画を立てる際には活用して下さい。

4) 卒業論文の履修方法

i 履修方法

3年次に卒業論文の履修のためのガイダンスを開催し、教育研究分野の概要と卒業論文の履修方法・要件について説明します。卒業論文の履修を希望する学生は、ガイダンスの内容に基づき希望する教育研究分野を選び、その教員の指導のもとで研究を行います。4年次後学期の所定の期日の卒業論文発表会で口頭発表し、卒業論文を作成して提出した学生は、単位が認定されます。

ただし、卒業論文の履修を申請するためには、3年次後学期終了までに以下の要件を満たしていなければなりません。

ii 履修要件

卒業に必要な130単位のうち102単位以上を修得していること。

5) 教育研究分野

本学科には次の7つの教育研究分野があり、各教育研究分野はそれぞれ数名の教員から構成されます。卒業論文を履修する学生はその中の一人を指導教員として選んで卒業研究に取り組み、卒業論文を作成します。

環境物質科学分野

物理化学、有機化学、無機化学、生物化学などの基礎化学を基盤として、以下の各項目についての教育と研究を行う。①さまざまな物質が自然界で状態や構造を変える機構の解明。②環境にやさしい材料の開発と利用。③環境や資源の新しい分光分析手法の開発。④環境中で光によって誘発され

る有機化学反応の発見と反応機構の解明。環境汚染解析分野

国内からアジア、南北アメリカ、アフリカにまでわたる地球規模での、人間活動による汚染物質の発生メカニズム、大気・水・土壌・生物圏における輸送過程と分布、それらの生物への蓄積・代謝や影響を、化学的な手法により解析する教育研究を行う。主な研究対象は、①大気汚染物質、特にエアロゾル（粒子状物質）、②石油汚染、残留性有機汚染物質（POPs）、環境ホルモン、医薬品・抗生物質等の有機汚染物質、③重金属類や放射性元素など微量元素。

生物圏変動解析分野

地球生物圏に起こりつつある温暖化、大気汚染、酸性雨、内分泌攪乱物質による水域汚染等の重大な環境攪乱について、温室効果ガスをはじめとする炭素、窒素等の生元素循環、大気や水域における汚染物質の広域的な挙動、気候変動や大気汚染の陸上生態系への影響、人工化学物質による海洋生態系へのインパクトの点から解明し、地球環境問題の解決に貢献する教育研究を行う。

環境修復分野

地圏・水圏・大気圏からなる生物圏における様々な生態系が有する回復力のメカニズムを、微生物学および土壌学の視点から明らかにし、それらの知見をもとにして、汚染された生態系、そして人間活動による過度の利用のために劣化した生態系を修復すること、ならびに我々の生存にとって不可欠である土壌資源・水資源の持続可能な利用に関する教育研究を行う。

植物環境分野

植物（農作物、樹木および絶滅危惧植物）に対する環境ストレス（大気汚染ガス、エアロゾル、酸性降下物、地球温暖化など）の影響とそのメカニズムなどに関する教育研究を行う。植物バイオマス、特に木質バイオマスの特性や形成機構の細胞生物学的解析、組織培養法による有用樹木の開発、環境変動下における樹木の適応性の生理学的解析などに関する教育研究を行う。

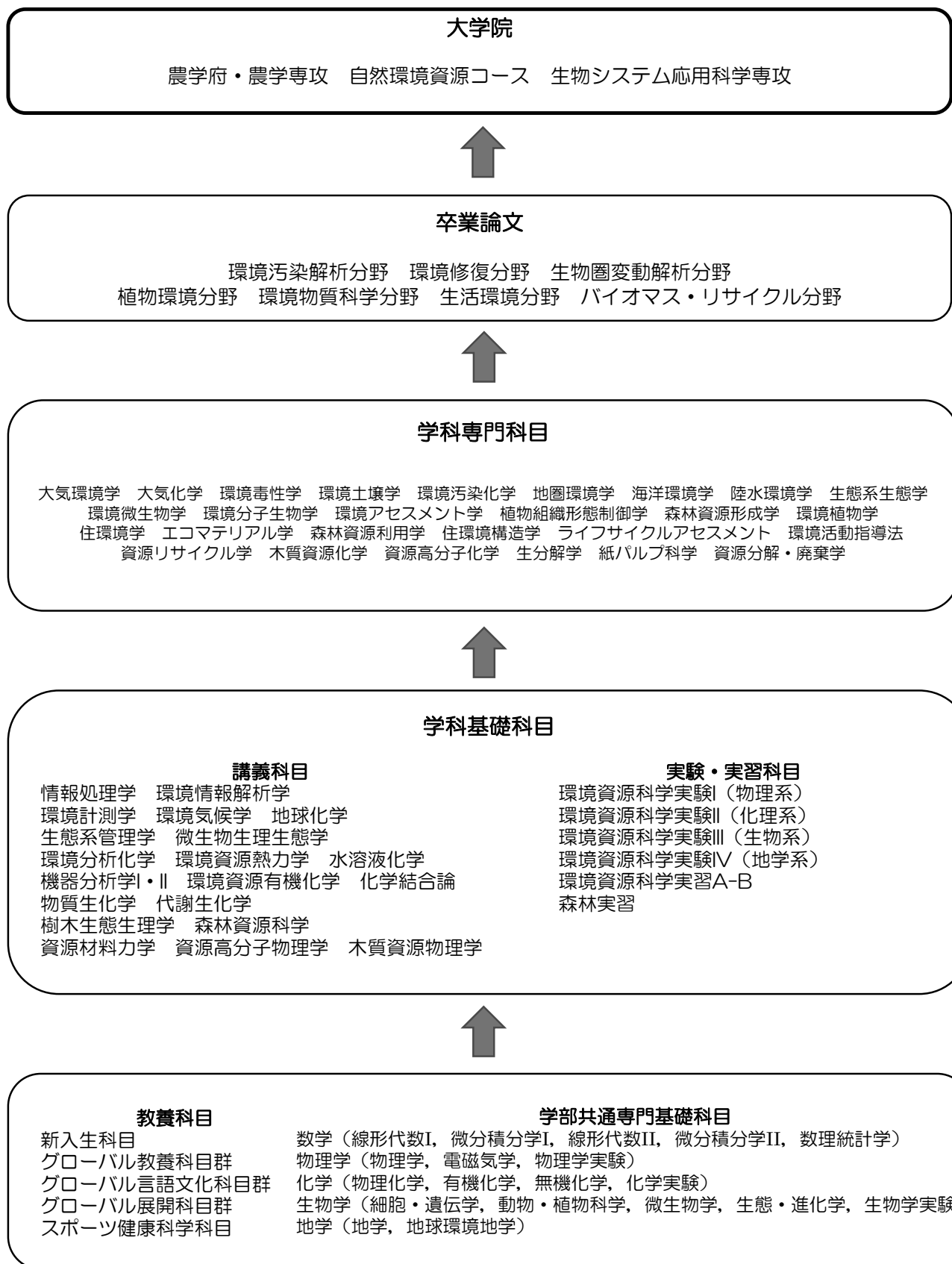
生活環境分野

生活環境、特に住環境で使われる木材を主とする森林資源材料について、その物性と機能の解析、それら材料の物理的・工学的な先端加工技術、複合化・機能化等に必要な接着性・耐久性・寸法安定性を旨とする化学加工とそれらの応用による機能性植物資源材料の開発、循環型利用法の開発、さらにこれらの材料のライフサイクルにおける環境負荷やライフスタイルからみた評価と利用啓発のための環境教育に関する教育研究を行う。

バイオマス・リサイクル分野

植物バイオマスの有効利用およびリサイクルに関する科学技術を基盤として、植物細胞壁由来の高分子資源から石油系高分子に代替可能な特性・機能をもつ高分子材料の開発、植物の生分解機構を利用したバイオマスからの有用物質生産、木造建築物の腐朽防止技術の開発、植物繊維資源の新規利用・リサイクル技術および文化資源としての紙資料の保存処理技術の開発に関する教育研究を行う。

環境資源科学科コースツリー



科目相関表

科目名	関連する科目
学科基礎科目	
環境分析化学	有機化学, 物理化学
環境計測学	情報処理学, 環境分析化学*
環境資源熱力学	微分積分学I, 微分積分学II, 物理学,
化学結合論	物理化学, 物理学
環境気候学	線形代数学I, 微分積分学I, 物理学, 物理化学, 情報処理学
物質生化学	有機化学, 物理化学
資源材料力学	物理学, 物理学実験
代謝生化学	有機化学, 物質生化学, 物理化学
機器分析学I	有機化学
水溶液化学	無機化学
資源高分子物理学	資源高分子化学
環境資源有機化学	有機化学, 無機化学, 物理化学
木質資源物理学	物理学実験, 資源材料力学, 森林資源利用学*
微生物生理生態学	微生物学, 環境微生物学, 物質生化学, 代謝生化学*
機器分析学II	無機化学, 機器分析学I
生態系管理学	地球化学, 物理学, 地学
環境資源科学実験I	物理学実験, 物理学
環境資源科学実験II	化学実験, 有機化学, 無機化学*
環境資源科学実験III	生物学実験, 微生物学
学科専門科目	
住環境学	物理学
地圏環境学	地球化学
大気環境学	線形代数学I, 微分積分学I, 物理学
海洋環境学	地球化学, 地学*, 物理学, 細胞・遺伝子, 動物・植物科学, 生態・進化学*
大気化学	大気環境学
木質資源化学	有機化学*
環境毒性学	地学
エコマテリアル学	有機化学, 木質資源化学
環境土壌学	化学, 無機化学*, 地圏環境学, 生物学, 環境微生物学*
環境微生物学	微生物学, 生態系管理学
生態系生態学	環境毒性学, 陸水環境学, 大気環境学, 海洋環境学
生分解学	木質資源化学
森林資源利用学	物理学, 有機化学, 木質資源化学, 木質資源物理学*
環境植物学	生物学実験, 大気化学, 大気環境学, 環境土壌学, 樹木生態生理学*, 環境資源科学実験III*
紙パルプ科学	木質資源化学, 資源リサイクル学, 環境資源科学実験I
住環境構造学	住環境学, 森林資源科学, 資源材料力学, 木質資源物理学
ライフサイクルアセスメント	情報処理学, 森林資源利用学, 資源リサイクル学, エコマテリアル学
資源分解・廃棄学	資源リサイクル学, 生分解学
森林・林業論	森林実習

注) *をつけた科目は、対象科目と同学年の同学期に開講されることを示す。

(5) 地域生態システム学科 (Rn)

1) 学科の教育方針と教育内容

地域生態システム学科では、森林と田園や公園、農山村と都市など空間や関係性を一つの連続した「地域」として捉え、その地域に広がる生態系や人間の関わりに着目した新しい教育研究を行っています。具体的には、都市、田園、農地、森林、河川や、そこに生きる野生生物などの地域資源と人間の関わりについての基礎的教育をベースに、人と自然が共生し、持続可能な生産・資源管理を行うための計画・設計・管理手法に関する教育、人々が快適に暮らし、持続可能な新しい産業を生み出すためのシステムを発展させる教育を行います。また、近年社会的ニーズの高い、地域における政策立案や環境評価、地域連携・国際協力のあり方などについて総合的に理解し、それぞれの地域で主体的に活躍できる人材の育成を目指しています。

こうした理念を達成するため、関連するさまざまな知識や技術を基本的な素養として身につけて地域社会の中で実際に応用できる能力を開発していくことが本学科の教育目的となります。すなわち、本学科の教育課程は、2年次前学期までは学科共通科目を中心に基礎的な専門教育を行い、2年次後学期から学生自身が受講する科目を選択することでその関心や希望する進路に沿って専門的な学習を深められるようにできています。また、3年次からは皆さんが興味を持った教育研究分野を選び、演習や実験・実習などの形で教員の指導による卒業研究を行い、4年次の所定の期日にその成果を発表します。具体的なカリキュラムは学科課程表（履修案内P.56～58）およびコースツリー（履修案内P.55）を参照してください。

2) 履修方法

i パッケージ・プログラムとは

本学科では、学科専門科目を組み合わせた独自のパッケージ・プログラム制による教育を行います。パッケージとは、複数の授業にまたがる内容を系統的に学ぶことを容易にするため、2～3の講義科目と実験・実習・演習科目を一組にしたものです。プログラムは、これらのパッケージを基本単位として積み上げ（基本パッケージ）、それらに関する学習の理解を広げる推奨科目を加えて構成されています。基本パッケージ科目と推奨科目の履修指定はプログラムごとに異なりますが、指定された要件を満たすとそのプログラムを修了したと認められ、本学科の卒業と同時にプログラム修了認定証が授与されます。

学生は設定されたプログラムの中から1つ以上を選択し、卒業するまでの間に指定された要件に従って履修します。プログラム登録は、2年次前期に行います。プログラム登録のためのガイダンスは2年次前学期から開催し、具体的に説明します。

ただし、3年次編入生については、卒業単位の修得はおおよそ可能ですが、プログラムの履修は難しい場合があります。

ii 本学科のプログラム

本学科には、学科の教育内容の根幹をなす4つの主プログラムと、分野横断的な3つの副プログラムの全部で7つのプログラムがあります。プログラムは、現実に生じている地域の複雑な問題を多様な視点から捉え、的確に対応できる人材を養成するために設けたもので、社会の多様なニーズに応えるとともに、皆さんの将来の進路・職業選択にも役立つように設計されています。

〔主プログラム〕

- ・生態系保全プログラム：自然生態系の保全と管理に関わる諸問題の現場解決能力（情報収集、解

析、デザイン)を養うと同時に、自然環境保全、野生生物管理を実践する専門家を養成するための教育を行います。

- 森林科学プログラム：森林と森林環境の創造および設計ができる森林・林業の知識と技術を修得し、森林をとりまく諸問題の現場解決能力(情報収集、解析、デザイン)を養うと同時に、森林を様々な側面から理解できる豊かな人間性と国際感覚を養成するための教育を行います。
- 農業環境工学プログラム：都市・農村における生産環境、自然環境、生活環境の調和を図る地域環境整備、及び生産性向上と環境保全を同時に解決する持続的食料生産システム構築を担う農業環境工学の専門家を養成するための教育を行います。
- 共生持続社会プログラム：共生のあり方をめぐるあるべき理念と、現にある社会や文化の分析・検討を多元的な方法論から体感することを通して、人文社会科学的な分析眼と思考力・想像力をもって、人と自然・人と人との共生のあり方を考え、そのビジョンを示すことのできる能力を養成するための教育を行います。

〔副プログラム〕

- 人と動物の共生プログラム：人の生活圏から離れたところに生活する野生動物の保護管理、飼育動物など人の生活圏の中にある動物との関係性の再認識等を通じて、動物と人との共生社会の実現を担う人材の育成を目指します。
- 地域資源とガバナンスプログラム：地域における生態系と社会の持続可能性の維持のためには、様々な主体の合意のもとに自然資源管理計画・景観計画・土地利用計画・地域振興計画を策定し、様々な主体の連携・協働によって諸政策を実行する能力が必要となります。そのために地域の持つ歴史的・文化的・生態的特性を認識し、ガバナンスの各過程を主導的に担う人材の育成を目指します。
- 地域防災・復興プログラム：大震災、台風や集中豪雨などによる自然災害に対し脆弱な地域社会において、災害に強く、被災後に社会機能の回復が速やかに進む地域構築のために、自然科学および社会科学の素養をもち、幅広い視野と実行力をもつ人材の育成を目指します。

<http://web.tuat.ac.jp/~region/organization.html#list05>



iii コースツリー

本学科での授業科目の履修の流れを模式的に示したものがコースツリーです。授業科目は全学共通教育科目、学部共通専門科目と学科専門科目があり、学科専門科目には学科共通科目とパッケージ・推奨科目群があります。全学共通教育科目、学部共通専門科目の多くは1年次、2年次に開講され、専門科目を履修するための基礎や、専門に直結する教養を身につけます。学科専門科目のうち、学科共通科目と多くのプログラムで共通する授業科目は全学共通教育科目、学部共通専門科目と並行して1、2年次に履修できるようにカリキュラムが作られています。より専門性の高い学科専門科目は2年次後学期以降に開講されます。3年次後学期からはゼミ形式の特別演習を履修し、4年次終了までの間に卒業研究を行います。希望する場合は卒業論文を作成することができます。さらに進んで教育・研究を目指す人には、本学科の教育・研究をより専門的に学ぶために大学院農学府のカリキュラムが用意されています。

3) 実習科目の履修について

本学科の実習はフィールドで行われることが多く、安全管理の知識が不可欠であるため、1年次前期のフィールド安全管理学は必ず履修してください。

4) 地域生態システム学セミナー、

地域生態システム学特別演習Ⅰ～Ⅲ および卒業論文の履修について

i 地域生態システム学セミナーおよび教育研究分野の所属決定

地域生態システム学の様々な研究領域を知り、自分の専門分野を方向づけるための科目です。学科教員全員が学科の理念に基づいてどのような活動をしているかについて紹介します。履修にあたっては、履修登録時に卒業に必要な単位のうち56単位以上（全学共通教育科目は27単位以上、学科共通必修科目は7単位、学科専門科目は22単位以上）を修得していなければなりません。（ただし、3年次編入学生、転学科生等にはこの基準を適用しない）

また、3年次後期より始まる地域生態システム学特別演習Ⅰ～Ⅲに先立っていずれかの教育研究分野（研究室あるいは研究グループ）に所属する必要がありますが、地域生態システム学セミナーの履修要件を満たしていないと教育研究分野への所属はできません。なお、施設設備・教員数等による制約から、各教育研究分野に所属可能な学生には上限が設けられています。3年次の前学期に教育研究分野への所属についてのガイダンスを開催し、具体的に説明します。

ii 地域生態システム学特別演習Ⅰ～Ⅲ

本学科では、さまざまな教育研究分野の教員が共同で授業を担当しています。学生は、3年次の後学期から教育研究分野（研究室あるいは研究グループ）のいずれかに所属して「地域生態システム学特別演習Ⅰ～Ⅲ」を履修します。この特別演習は、所属した教育研究分野でのゼミを通して学生が主体的に進める卒業研究です。学生は、その卒業研究の成果を4年次後学期の所定の期日に発表します。

iii 卒業論文の履修方法・要件

自ら進めてきた卒業研究を卒業論文の形でまとめることを希望する学生は、4年の後学期に「卒業論文」を履修することができます。卒業論文は原則として所属する教育研究分野の指導教員のもとで作成して提出します。4年次の前学期に卒業論文履修のためのガイダンスを開催し、卒業論文の履修要件・方法について具体的に説明します

iv 本学科の教育研究分野

本学科を卒業し、専門分野についてさらに深く学ぼうとする学生は、本学大学院（修士課程）を受験することができます。本学科の教育研究分野と、関連する大学院の専攻は次のとおりです。

地域生態システム学科教育研究分野	大学院（修士課程） 関連する専攻
景観生態学、野生動物保護管理学、植生管理学、健康アメニティ科学、森林土壌学、森林生態学、森林生物保全学、森林水文学、森林環境工学、森林－人間系科学、森林計画学、森林利用システム学、森林資源管理学、山地保全学	農学専攻 自然環境資源コース
水利用学、生産環境システム学、生産環境制御学、地水環境工学、耕地栽培システム学、エネルギー利用学、農村地域計画学、ファイトテクノロジー、農業情報工学、水資源計画学、地域空間情報学	農学専攻 食農情報工学コース
環境哲学、農村社会学、比較心理学、環境文化史、環境公法学、国際関係学、環境情報科学、環境教育学、共生福祉論	農学専攻 地球社会学コース
水利環境保全学、環境地盤工学、環境地域社会学、国際比較経済開発論、農薬動態学、流域環境修復保全学	農学専攻 国際イノベーション農学コース
土壌生態管理学	生物システム応用科学府 食料エネルギーシステム科学専攻 (博士前期課程)

5) 取得できる資格など

地域生態システム学科の所属学生または卒業生は次のような資格を得ることができます。その取得要件を示します。

i 測量士，測量士補

測量に関わる科目（測量学，空間情報学，基礎測量学実習，山地測量学実習／空間情報学実習，リモートセンシング論）を履修し，かつ，所定の履修プログラムを修了した者は，測量士補の資格が得られます。さらに1年間以上の測量実務経験により，測量士の資格が得られます。

ii ビオトープ管理士資格試験の筆記試験一部免除

指定された学科授業科目を履修しているか，年度内に履修見込みの場合，資格試験科目の受験が一部免除されます。ビオトープ管理士資格試験の詳細は財団法人日本生態系協会のホームページ（<http://www.ecosys.or.jp/>）で確認してください。なお，該当する講義科目は別に定められています。

iii 樹木医補

農学部の教育課程を修め，かつ樹木医に関わる講義分類8分野から6分野以上を選び14単位以上の履修，かつ，実験・実習において4科目を履修した者は，樹木医補の資格が得られます。さらに1年間以上の実務経験を経て樹木医の受験資格が得られます。なお，該当する講義科目および実験・実習科目は別に定められています。

iv 自然体験活動指導者

「インタープリテーション技術」を履修して最後の確認試験に合格し，所定の登録手数料を支払うことで全国体験活動指導者認定制度の「自然体験活動指導者リーダー」の資格を取得できます。本資格の詳細は，NPO法人・自然体験活動推進協議会（CONE）のホームページ（<http://cone.jp/>）で確認してください。

v 森林情報士2級

森林学の一般科目および森林情報士部門別科目を所定の分野および単位数を習得した者は，森林情報士2級の資格が得られます。さらに2年間以上の実務経験を経て森林情報士1級の養成研修の受講資格が得られます。なお，該当する講義科目および実験・実習科目は別に定められています。

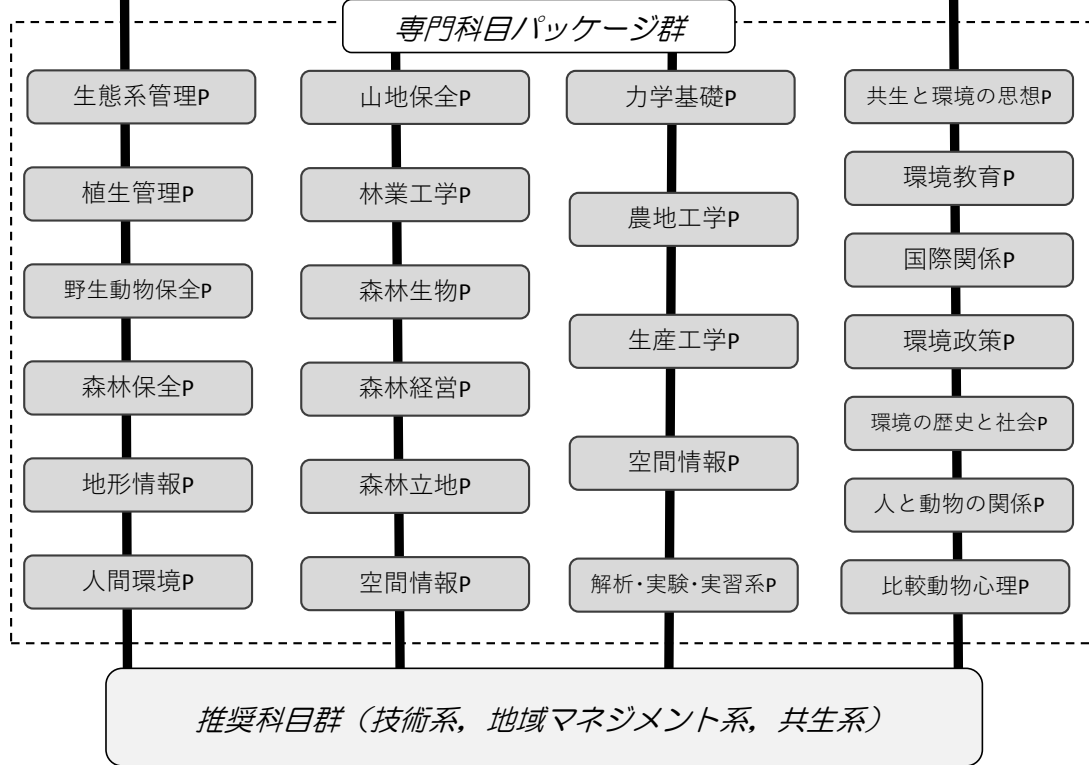
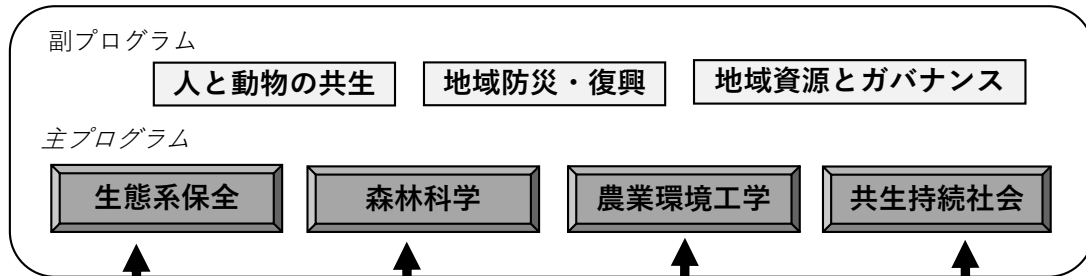
vi 自然再生士補

「自然再生士」は，自然再生に必要な知識・技術・経験を有する，自然再生の推進者です。自然再生に係る事業全体を把握し，調査・計画・設計・施工・管理の，各々の事業段階において行われるべき業務や活動において，これらをコーディネートして自然再生を実行します。地域生態システム学科は，自然再生士補資格養成機関として認定され，所定の科目の履修状況によって，自然再生士補の認定を受けることができます。

自然環境資源コース 食農情報工学コース 地球社会学コース 国際イノベ農学コース

大学院農学府

地域生態システム学特別演習 I, II, III, 卒業論文



学科共通必須科目

地域生態システム学 I, II, III
地域生態システム学実習 I, II
フィールド安全管理学
情報処理学

教養科目+学部共通専門基礎科目

教養科目
グローバル教養科目
グローバル言語文化科目
グローバル展開科目
スポーツ健康科学科目
学部共通専門科目
数学・物理・化学・生物学・地学

地域生態システム学科コースツリー

6) 地域生態システム学科専門科目教育課程表

区分	授業科目	単位数	担当教員	開講予定学期								開講形態 ・ 合併学科	履修要件	
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
学科共通科目	◎ 地域生態システム学Ⅰ	2	学科教員	*										
	◎ 地域生態システム学Ⅱ	1	学科教員		*									
	◎ 地域生態システム学Ⅲ	1	学科教員			*								
	◎ 地域生態システム学実習Ⅰ	1	学科教員	*									集中	
	◎ 地域生態システム学実習Ⅱ	1	学科教員		*								集中	
	◎ 地域生態システム学セミナー	1	学科教員				*							
	◎ 地域生態システム学特別演習Ⅰ	1	学科教員					*					集中	
	◎ 地域生態システム学特別演習Ⅱ	1	学科教員						*				集中	
	◎ 地域生態システム学特別演習Ⅲ	2	学科教員							*			集中	
	◎ フィールド安全管理学	1	下田（政）ほか	*									一部集中	
	◎ 情報処理学	2	未定	*										
	インターンシップ	1	学科教員（インターンシップ委員会）										2～4年次	
	卒業論文	8	学科教員										4年次後期	
パッケージ科目・推奨科目	生物多様性保全学	1	岩井		*									
	水資源管理論	2	加藤・（非常勤）		*									
	地域社会システム計画論	2	朝岡・中島・竹本・高橋・榎本・澤		*									
	人と動物の関係論	1	武田・鈴木（馨）・金子・小池・吉田		*									
	動物福祉論	1	武田・鈴木（馨）・竹村		*								An	
	地域社会調査法	1	朝岡・竹本・榎本・澤			*								
	バイオマス利用論	2	岩岡・大川・山田祐・千年・（非常勤）			*							An	
	森林生態学	2	戸田・崔・小池・吉田（智）			*								
	環境哲学	2	澤			*								
	測量学	2	山下			*								
	植生管理学	2	星野・吉川			*								
	水文学	2	白木			*								
	環境土壌物理学	2	斎藤			*								
	農業経済学	2	An教員			*							An	
	動物生態学	1	岩井			*								
	共生福祉論	2	甲田				*							
	環境生理生態学	2	下田（政）・福本				*							
	野生動物保全学	2	金子				*							
	森林計画学	2	加用				*							
	空間情報学	2	山下				*							
	土壌生態管理学	2	豊田				*							
	山地保全学	2	五味				*							
	森林生産システム学	2	岩岡				*							
	GISの基礎と演習	2	辰己・赤坂				*						一部集中	
	樹木学	2	崔				*							
	力学Ⅰ	2	未定（MT教員）				*							
	土質力学	2	斎藤				*							
	水理学	2	加藤				*							
	農村地域計画学	2	中島				*							
	農業技術論	1	帖佐				*							
	応用解析・情報学	2	辰己・斎藤・福田				*							
	環境文化史	2	高橋				*							
環境公法	2	榎本				*								
環境経済学	2	吉田（央）				*								
農業経営学	2	An教員				*						An		

備考 ◎印の授業科目は必修とする。

必修14単位を含めて68単位以上修得すること。

パッケージ科目・推奨科目、実験・実習科目については、ガイダンスで提示する履修プログラムごとの履修方法を参考にして修得すること。

教育課程等
地域生態システム
学科
(Rn)

区分	授 業 科 目	単 位 数	担 当 教 員	開講予定学期								開講形態 ・ 合併学科	履修要件	
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
パッケージ科目・推奨科目	比較心理学	1	武田					*						
	比較行動学	1	武田・鈴木（馨）					*						
	農村社会論	2	竹本					*						
	健康アメニティ論	2	下田・福本					*						
	インタープリテーション技術	2	佐藤（敬）他					*						
	景観生態学	2	赤坂・小池					*						
	動物環境生理学	1	鈴木（馨）					*						
	リモートセンシング論	2	五味					*						
	森林施設工学	2	松本					*						
	砂防工学	2	白木					*						
	農地環境工学	2	渡辺（裕）					*						
	環境地盤工学	2	渡辺（裕）・齋藤					*						
	生物生産環境学	1	帖佐					*						
	農用原動機学	1	帖佐					*					集中	
	熱工学	2	東城					*						
	農業情報気象学	2	辰己					*						
	環境教育学	2	朝岡					*						
	国際協力論	1	渡邊（司）					*						
	農業市場学	2	（An教員）					*					An	
	生態水理学	2	福田					*						
	森林施業論	1	戸田・崔					*						
	森林立地学	2	戸田						*					
	力学Ⅱ	2	（非常勤）						*					
	環境倫理学	2	（非常勤）						*					
	野生生物保全技術論	1	金子・佐藤（俊）						*					
	造園学	2	赤坂・（非常勤）						*				一部集中	
	自然誌学	1	吉川						*					
	森林保護学	1	小池・吉田（智）・戸田						*					
	森林政策学	1	（非常勤）						*					
	木質資源利用学	2	En教員						*				En	
	農産プロセス工学	1	帖佐						*					
	灌漑排水工学	2	福田・（非常勤）						*					
	共生社会思想	1	澤						*					
国際農林開発論	1	及川						*						
ライフサイクルアセスメント	2	En教員						*						
環境アセスメント学	2	En教員						*						
持続的森林管理論	1.5	戸田・岩岡・白木・及川・小池・加用							*					
作物栽培学	2	An教員							*			An		

備考 必修14単位を含めて68単位以上修得すること。

パッケージ科目・推奨科目、実験・実習科目については、ガイダンスで提示する履修プログラムごとの履修方法を参考にして修得すること。

区分	授 業 科 目	単 位 数	担 当 教 員	開講予定学期								開講形態 ・ 合併学科	履修要件	
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前	後	前	後	前	後	前	後			
実験・実習科目	基礎測量学実習	1	白木・松本・山下・(非常勤)			*								
	地域社会システム調査実習	1	朝岡・榎本・澤・竹本			*							集中	
	自然体験活動実習	1	朝岡・(非常勤)			*							集中	
	森林計画学実習	1	加用				*						集中	
	山地測量学実習	1	白木・松本				*						集中	
	空間情報学実習	1	山下				*						一部集中	
	植生管理学実習	1	星野・吉川				*						集中	
	育林学実習	1	戸田・崔					*					一部集中	
	山地保全・砂防計画学実習	1.5	白木・五味					*					一部集中	
	樹木学実習	1.5	小池・赤坂					*					一部集中	
	農業環境工学実験	2	MT教員						*					
	農業環境工学実習	2	MT教員						*					
	農村地域計画学演習	1	中島・(非常勤)						*					
	野生動物保全学実習	1	金子・鈴木(馨)						*				集中	
	比較行動学実験・実習	1	武田・鈴木(馨)・佐藤(俊)						*				集中	
	森林保護・樹木医学実習	1	吉田(智)・小池・(非常勤)							*			集中	
	森林土壌学実験・実習	1	戸田・崔・吉田(智)							*			一部集中	
	森林生産システム学実習	2	岩岡・松本							*			一部集中	
	農業環境工学演習	1.5	MT教員							*				
CAD設計演習	2	中島・(非常勤)							*					

備考 必修14単位を含めて68単位以上修得すること。

パッケージ科目・推奨科目、実験・実習科目については、ガイダンスで提示する履修プログラムごとの履修方法を参考にして修得すること。

教育課程等
地域生態システム
学科
(Rn)

3. 共同獣医学科

(1) 共同獣医学科 共通教育科目

1) 共通教育科目の理念・目標

理念

獣医師には、地球上全ての動物生命の健康と繁栄に責任を負う自然科学としての獣医学を背景とし、論理性および倫理性を兼ね備えた高い行動規範が求められます。教養教育科目は、その基盤となる基礎的知識の習得を求め、多様な領域に対する学問的関心を喚起することで幅広く深い総合的な判断力を培い、獣医師として豊かな人間性を涵養することが目的です。共同獣医学科における教養教育科目は、「大学教育導入科目」、「スポーツ健康科目」、「外国語科目」、「人文社会科学科目」、「理数系基礎科目」および「配置大学特色科目」によって構成され、獣医学を学ぶに必要な基礎的知識を習得させるものです。

教育目標

共同獣医学科では、獣医師として動物と人類の健康と福祉に貢献し、高度獣医療の提供、人の健康と食の安全、生命科学研究の発展に国際的な視野を持って活躍できる人材を養成することを目指しています。したがって、教養教育では、獣医学の基盤となる高等動物の生命科学に対する知識とともに、外国語による情報集や思考の素養を身に付け、現代の人間と社会の基本的問題や人文社会科学の諸分野の課題について学ぶことで、獣医師として豊かな人間性を養うことを目的とします。

2) 科目区分について

i 大学教育導入科目区分

① 目的と内容

大学教育導入科目群における科目では、大学教育における学業活動の全般のイントロダクションとして協調性や社会性、創造性や自ら問題解決することの重要性について学びます。

東京農工大学における大学教育導入科目「農学基礎ゼミ」は全学共通の導入部分と、ゼミ形式の学部独自プログラムとで構成されます。

①全学共通プログラム

大学を知り、大学でいかに学ぶかを考える授業です。本学は、20世紀の社会と科学技術が顕在化させた持続発展可能な社会の実現に向けた課題を正面から受け止め、農学、工学およびその融合領域における自由な発想に基づく教育研究を通して、世界の平和と社会や自然環境と調和した科学技術の進展に貢献するとともに、課題解決とその実現を担う人材の育成と知の創造に邁進することを基本理念としています。本学の理念・歴史と共に、研究活動に関する理解を深め、学びへの意欲を増進すると共に、キャリア形成を理解することを目的としています。

②学部独自プログラム

担当教員が用意した特定のテーマに関して少人数で行うゼミ形式の授業で、大学生生活に適応し、自発的な学習習慣を身につけることを目的としています。この授業を通し、大学での学びは問いを立てて理解を深めること、知を開拓する面白さや、主体的に学ぶことにあることを実感

自覚し、大学生活への動機付けを目的としています。

② 履修方法と単位の認定

1年次学生を対象とした必修の授業で、2単位になります。全学共通プログラムの5回は学部または学科単位で行なわれます。6回目以降は学部独自プログラムです。農学基礎ゼミについては、4月の1年次オリエンテーションで履修ガイダンスを開催しますので必ず出席してください。当日、担当教員およびその講義テーマを記載した「農学基礎ゼミ履修案内」を配布します。

③ 履修上の留意点

- ・クラス編成のための希望調査用紙の提出がない場合は履修できないことがあります。
- ・履修登録はクラス編成後にSPICAで履修登録を行ってください。他の科目と同様に履修登録を行わないと希望調査用紙の提出だけでは単位が認定されません。

ii スポーツ健康科学科目区分

① 目的と内容

スポーツ健康科学科目区分における科目では、社会生活を送る上で身に付けておくべき基本知識や技能の一環として、人間の身体や健康、スポーツに関する正しい知識を学び、自らの体力とその維持増進方法を実践的に理解するとともに、各個人の目的に応じた身体運動やスポーツ活動を実践する能力を習得します。

これらの目的を達成するため、スポーツ健康科学科目区分の2科目（体力学実技、生涯スポーツ実技）はそれぞれの独自性を保ちつつ、有機的に連携しています。各科目の詳細な内容はシラバスを参照してください。

② 履修方法と単位の認定

共同獣医学科では、体力学実技の1単位と生涯スポーツ実技の1単位はともに必修科目で、合計2単位が卒業に必要な最低修得単位数となります。

各科目の第1週目はオリエンテーションとして、科目の説明、受講クラスや種目等の選択を行います。欠席すると希望のクラス、種目等を選択できない場合があります。さらに、毎年4月に実施される学生定期健康診断は必ず受診してください。未受診の学生は、履修を認められないことがあります。

③ 履修上の留意点

実技科目の履修に際しては、次のことに留意してください。

身体的条件を整えたくうえで授業に臨むようにしましょう。生理的に不適當な状態（不眠、過労、病気等）のとき、心理的に不適當な状態（無気力、意欲減退、協調できない等）のときは、授業への参加を認めないことがあります。

ケガをしたらすぐに担当教員に申し出てください。一見軽くても重大な障害は少なくありません。申し出がないと傷害保険が適用されないことがあります。

体育館用のシューズが必要です。屋外用のシューズと区別して使用してください。なお、服装や用具について大学の指定するものではありません。運動に適したものを着用し、清潔を保つよう心がけてください。

貴重品は各自で保管・管理し、盗難に遭わないよう注意してください。更衣室は授業開始10分前に開き、最終授業終了10分後に施錠します。

iii 外国語科目区分

① 目的と内容

外国語科目科目区分では、国際的に広く用いられている英語に関する基礎知識を身に付け、獣医学に関わる自発的な思考や情報の収集・発信を行うための素養を身に付けます。

グローバル化した現代社会でのコミュニケーションに必要であるインタラクティブな英語能力を自律的に身につけるため、「ライティング・スキル」、「コミュニケーション・スキル」、「リーディング・スキル」の3つのスキル向上を目指します。

①導入

新入生はまず導入部として、1年次1学期に開講される必修科目Integrated Englishで「読む、書く、聞く、話す」の力を総合的に高め、今後の英語使用の基盤を形成します。各スキルを向上させるのに必要なストラテジーを学び、活用できるようにします。

②ライティング・スキル

必修科目として1年次3学期にParagraph Writing, 2年次1学期にEssay Writingを開講し、自分の考えを英語で的確に表現する力、また一貫した論旨で英語の文章を組み立てる力を身につけます。

③コミュニケーション・スキル

必修科目として1年次3学期にEnglish Discussion, 2年次1学期にEnglish Presentationを開講し、英語で積極的にコミュニケーションをはかる能力を伸ばすとともに、アカデミックな環境で重要となる英語によるディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身につけます。

④リーディング・スキル

必修科目として2年次3学期にEnglish Readingを開講し、大学レベルの高度な読解力を養うとともに、自発的なリーディング活動を身につけます。

⑤その他（他学科履修として受講はできますが、卒業要件には含まれません）

2年次～4年次の2学期及び4学期に、English Exam Preparation Course II, English Exam Preparation Course IIIを、また3,4年次の1学期にAcademic Reading, 3学期にAcademic Communicationを履修することができます。

② 履修方法と単位の認定

英語科目は各1単位であり、上記の必修6科目を含めた6単位以上を修得することが必要です。自らの英語力を知り学習に役立てるため、1年1学期、2年3学期の計2回、全員がTOEFL ITPを受験します。受験日時の詳細については掲示で周知します。Paragraph Writing, Essay Writing, 並びにEnglish Readingは習熟度別クラス編成となります。詳細は掲示板で周知します。

外国語検定試験に基づく単位認定

下記の英語検定試験で単位認定の資格を取得した人には、English Exam Preparation Course I, II, III以外の科目は2単位、全体で3単位を上限として、これまでに単位を取得していない科目の単位を認定します。認定可能な科目、単位数など詳しくは英語教務担当教員に問い合わせ

てください。認定された場合、その科目の成績評価は、単位認定する科目により、下記の要領で90点(S)または80点(A)となります。

認定科目：下記科目から在学中English Exam Preparation Course I, II, III以外の科目は2単位を上限とし、全体で3単位を限度として認定されます。ただし、科目により、認定資格を取得する条件等が異なります。

Integrated English (1単位)	}	1年次必修科目
Paragraph Writing (1単位)		
English Discussion (1単位)		
Essay Writing (1単位)	}	2年次必修科目
English Presentation (1単位)		
English Reading (1単位)		
English Exam Preparation Course I (1単位)	}	他学科科目
English Exam Preparation Course II (1単位)		
English Exam Preparation Course III (1単位)		

単位認定される検定試験、並びにその成績による成績評価

科目	英語検定試験	認定された場合の成績評価	
		S	A
English Exam Preparation Course I	TOEFL iBT	79点以上	78-61点
English Exam Preparation Course II	TOEFL iBT	100点以上	99-79点

科目	英語検定試験	認定された場合の成績評価	
		S	A
Integrated English, Paragraph Writing, English Discussion, Essay Writing, English Presentation, English Reading, English Exam Preparation Course III	TOEFL iBT	95点以上	94-72点
	実用英語技能検定	1級	準1級
	TOEIC L&R + S&W*	1845点以上	1840-1560点

*TOEICの点数は、(L&Rの得点) + (S&Wの得点×2.5)の合計点とする

(注意)

- 他学科科目であるEnglish Exam Preparation Course I, II, IIIは1～6年次のいずれの学年でも認定可能です。(ただし卒業要件には含まれない。)
- 必修科目は、開講年次・時期の早い科目から順次認定します。
- 単位認定の申請には、各機関が発行する正式な書類の添付が必要です。必要書類の詳細は、各学部教務係に問い合わせてください。TOEFL, TOEICは受験日より2年以内に申し出ることとします。またTOEICについては「公開テスト」によるもののみとします。
- 申請時期は4月上旬と10月上旬の2回です。申請期間等は別途掲示します。

iv 人文社会科学科目区分

① 目的と内容

人文社会科学科目区分では、現代の人間と社会の基本的問題および人文社会科学の諸分野の中でも、動物と人類の健康と福祉に貢献する獣医師において極めて重要な内容として、社会ならびに文化が人間にとってどのような意味や機能を持つのかについて考え、現代社会に生きる人間としての「ものの見方・考え方」を養います。

上記の目的を達成するため、現代の人間と社会の基本的問題、人文科学・社会科学の諸分野の中から、本学学生が学ぶにふさわしい基本的内容を精選し、下記の8科目を設定します。

哲学、現代倫理論、日本国憲法、経済学、社会学、心理学、歴史学、共生社会政策論

② 履修方法と単位の認定

1年次開講科目と2年次開講科目とがあります。学生の皆さんの関心に従って、受講科目を選択できます。それぞれの科目は2単位となり、10単位以上を修得することが必要です。単位の認定は、科目ごとの基準に従って行われます。

③ 履修上の留意点

特定科目に履修希望者が過度に集中した場合は、履修人数に制限を設けることがあります。

v 理数系基礎科目区分

① 目的と内容

動物と人類の健康と福祉、高度獣医療の提供、人の健康と食の安全ならびに生命科学研究の発展に貢献する獣医学では、高等動物の生命科学に関する基礎学問の修得が不可欠です。理数系基礎科目区分では、獣医学教育の基盤となる理数系基礎学問を履修し、生命現象の基本原理に関する知識を習得します。

上記の目的のため、本学では細胞・遺伝学、物理化学、微生物学、情報処理学の4科目を設定します。それぞれの科目の内容の詳細はシラバスを参照してください。

② 履修方法と単位の認定

微生物学は2年次開講、それ以外の3科目は1年次開講です。すべて必修科目であり、卒業には4科目8単位の修得が必要です。単位の認定はそれぞれの科目ごとの基準に従って行われます。

③ 履修上の留意点

同じ科目名で複数のクラスが存在します。SPICAで履修登録する際には、共同獣医学科用のクラスを正しく登録してください。誤ったクラスで履修登録した場合、その学期は単位が得られません。

vi 配置大学特色科目区分

地球上全ての動物生命の健康と繁栄に責任を負い、論理性および倫理性を兼ね備えた高い行動規範が求められる獣医師には、獣医学の基盤となる基礎知識ならびに幅広く深い総合的な創造力、判断力、自己解決能力が求められます。配置大学特色科目区分では、上記の教養教育の科目群とは別に学生の皆さんが主体的に履修科目を精選し履修することで、多様な領域に対する学問的関心を促し豊かな人間性を養います。

本学の配置大学特色科目区分はさらに「外国語アドバンス」「持続可能な環境・社会」「理数系アドバンス」の3つの区分に分かれており、配置大学特色科目区分の科目全体で17単位以上の修得が必要な他、それぞれの区分ごとに修得を要する最低単位数が定められています。

① 外国語アドバンス

英語以外に、現在、国際的に広く用いられている言語について学生の皆さんが自ら精選し履修することで、獣医学の関わる自発的な思考や情報の収集・発信に関する多角的素養を身に付けることを目的とします。本学で開講する外国語アドバンス科目には、第二外国語科目と外国人留学生向けの日本語科目があります。

a 第二外国語科目

㊦ 目的と内容：

本学で開講される英語以外の外国語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語を第二外国語と呼びます。初修の外国語には必須である文法の講義を通じて学生が修得した基礎知識を、アクティブ・ラーニングの観点から、実践的かつ能動的な演習を通じて定着させ、実際に役立つ語学能力の養成を目指します。また、英語学習で修得した文法や表現に加え、英語圏とは異なる発想や習慣を有する言語の文化や事情に通暁し、自身の立場や意見を一旦相対化し、冷静かつ客観的な判断ができ、かつ自身の見解を各国語で表現・発信できる人材の養成を目的としています。

それぞれの言語について、「I」、「II」、「異文化理解のための〇〇語」の3科目で構成されています。

㊧ 履修方法と単位の認定

第二外国語科目は各1単位であり、同一言語の「I」および「II」の2単位を修得することが必要です。「異文化理解のための〇〇語」を習得した単位は、自由選択単位として卒業要件単位数に加算することができます。入学手続き時に提出した「第二外国語選択希望調査票」に基づいて、1年次の第一回目の授業までに、各外国語の「I」のクラスが編成され、掲示されます。自分のクラスを必ず確認し、これに従って、履修登録をしてください。

㊨ 履修上の留意点

- ・1クラス40名程度で編成されますので、不本意ながら、第1希望が通らない学生がどうしてもでてきてしまいます。その場合でも、残念ながら、他のクラスを選択することはできませんし、授業を受けても単位はつきません。それでも、指定された以外の外国語を履修したい場合、2年次以上になれば認められますので、2年次以上で履修してください。
- ・辞書の案内を含め、ガイダンスは第一回目の授業で行います。

外国人留学生は、第二外国語として母語を選択することはできません。第二外国語の代わりに日本語（2単位まで）を選択することができます。

- ・外国籍の学生がその国籍の言語を第二外国語として履修することは、原則できません。母語に相当しない等、特別な事情のある場合は、理由書を添えて教務係に申し出てください。

外国語認定試験に基づく単位認定

下記の外国語検定試験で資格を取得した人には該当単位数を認定しますが、認定対象はそれまでに取得していない科目の単位に限られるため、認定可能な単位数が減ってしまう場

合もあります。詳しくは第二外国語専任教員に問い合わせて下さい。認定された場合には、その科目の成績評価は、すべて80点（A）となります。

（国内の団体が実施する外国語検定試験）

- ドイツ語技能検定： 3級以上→3単位, 4級→2単位
- 実用フランス語技能検定： 準2級以上→3単位, 3級・4級→2単位
- 中国語検定： 3級以上→3単位, 4級→2単位
- スペイン語技能検定： 3級以上→3単位, 4級→2単位
（CEFR（欧州評議会が打ち出した「ヨーロッパ言語共通参照枠」）の運用能力指標に準拠した試験）
- ゲーテ・インスティトゥート ドイツ語検定試験：
Goethe-Zertifikat B1 →2単位,
Goethe-Zertifikat B2, C1-C2 →3単位
- TestDaf（外国語としてのドイツ語テスト）：TDN3～5→3単位
- フランス国民教育省・フランス語資格試験（DELF / DALF）：
DELF B1 →2単位,
DELF B2～DALF C1-C2 →3単位
- フランス語学カテスト（TCF）：
B1 →2単位, B2, C1-C2 →3単位
- 中国語標準検定（HSK）：3級→2単位, 4級～6級→3単位
- 外国語としてのスペイン語検定試験（DELE）：
DELE B1 →2単位,
DELE B2, DELE C1-C2 →3単位

（認定例）

1年生の1学期に「ドイツ語Ⅰ」を履修して「B」の成績を得た後、3学期に検定試験で取得した資格に基づき単位認定の申請をした場合

- 独検3級を取得→残りの2科目（「ドイツ語Ⅱ」・「異文化理解のためのドイツ語」）を「A」として認定
- 独検4級を取得→「ドイツ語Ⅱ」1科目のみを「A」として認定

（注意）

- 3単位認定の場合は、各言語の「Ⅰ」「Ⅱ」「異文化理解のための〇〇語」が対象となります。
- 2単位認定の場合、各言語の「Ⅰ」「Ⅱ」が対象となります。
- 国内の団体が実施する外国語検定試験では、級数が小さくなるほど上級ですが、中国語標準検定（HSK）は、級数が大きくなるほど上級となりますので注意すること。
- CEFR（欧州評議会が定めた「ヨーロッパ言語共通参照枠」）の運用能力指標に準拠した試験は、B1, B2, C1, C2の順に上級となります（初級のA1およびA2は本学の単位認定からは除外します）。
- 申請時期は4月上旬と10月上旬の2回です。申請期間等は別途掲示します。

b 日本語科目

㊦ 目的と内容

外国人留学生が教育研究上の活動や日常生活を円滑に行うためのコミュニケーション能力を身につけることを目指します。初級、初級ステップアップ、中級、中級ステップアップ、上級、上級ステップアップの6科目で構成されており、それぞれレベルに合わせた会話力、聴解力、読解、作文力を育成します。初級では、基礎的な日本語力を身につけることを目指し、コミュニケーション活動を中心に学習します。中級では、会話・聴解練習に加えて、読解活動や作文活動も取り入れます。上級では、専門授業にも役立つ読解・作文力をつけるとともに、専門的な分野の口頭発表能力も育成します。

㊧ 履修方法と単位の認定

外国人留学生のための科目です。各科目それぞれ1単位であり、2単位まで外国語アドバンスの修得単位として認めます。

㊨ 履修上の留意点

- ・日本語科目の履修を希望する外国人留学生は、担当教員まで連絡してください。

② 持続可能な環境・社会

a 目的と内容

人間と社会の基本的問題や人文社会科学の諸課題について広く学ぶことは、獣医師として豊かな人間性を養うために極めて有用です。「持続可能な環境・社会」では、「人文社会科学科目群」に挙げた基本的な重要科目の他に、多様性に富んだ各種関連科目を学生の皆さんが自主的に精選し履修することで、現代社会に生きる人間としての「ものの見方・考え方」をいっそう深く洞察する力を身に付けることを目的とします。

上記の目的を達成するため、本学では以下の10科目を設定します。それぞれの科目の内容の詳細はシラバスを参照してください。

農業史、知的財産権・特許法、多文化共生論、動物と人間の行動、キャリア・プランニング、食料・環境問題、技術者倫理、生命倫理、現代宗教論、国際平和論

b 履修方法と単位の認定

1年次開講科目と2年次開講科目、1・2年次いずれも履修可能な科目とがあります。学生の皆さんの関心に従って、受講科目を選択できます。2単位以上を修得することが必要です。

c 履修上の注意点

一部科目においては、履修希望者が過度に集中した場合、履修人数に制限を設けることがあります。

③ 理数系アドバンス

a 目的と内容

「理数系アドバンス」では、「理数系基礎科目群」で学んだ高等動物の生命科学に関する基礎科目の他に、多彩な理数系関連科目を学生の皆さんが自主的に精選し履修することで、動物と人類の健康と福祉、高度獣医療の提供、人の健康と食の安全ならびに生命科学の発展に貢献するための深く幅広い教養知識と洞察力を育みます。

上記の目的を達成するため、本学では以下の9科目を設定します。各科目の内容の詳細はシラバスを参照してください。

アカデミックライティング入門，生態・進化学，動物・植物科学，物理学，線形代数学Ⅰ，微分積分学Ⅰ，数理統計学，有機化学，生物学実験

b 履修方法と単位の認定

1単位の科目と2単位の科目があります。合計で6単位以上修得することが必要です。各科目の単位認定および評価方法についてはシラバスを参照してください。

学生の皆さんの関心に従って受講科目を選択できますが、以降のスムーズな学習のために修得が望ましい科目を学科推奨科目として課程表に示していますので、科目選択の参考にしてください。

c 履修上の注意点

1年次開講科目「アカデミックライティング入門」のみは全8回の授業です。

初回からテキストを使用します。テキストは初回授業で配布します。

いずれの科目も、同じ科目名で複数のクラスが存在します。SPICAで履修登録する際には、共同獣医学科用のクラスを正しく登録してください。誤ったクラスで履修登録した場合、その学期は単位が得られません。

3) 共通教育科目教育課程表 (共同獣医学科)

区分	授業科目	単位数	開講予定学期				卒業要件		
			1年次		2年次				
			前	後	前	後			
大学教育導入	基礎ゼミナール	◎ 農学基礎ゼミ	2	*				必修科目	
	スポーツ健康	スポーツ健康・基盤	◎ 体力学実技	1	*				
		スポーツ健康・発展	◎ 生涯スポーツ実技	1		*			
外国語	基礎英語	◎ Integrated English	1	*					
		◎ Paragraph Writing	1		*				
		◎ English Discussion	1		*				
		◎ Essay Writing	1			*			
		◎ English Presentation	1			*			
		◎ English Reading	1				*		
人文社会科学	哲学	哲学	2			*		10単位以上を修得すること。	
	倫理学	現代倫理論	2		*		*		
	憲法	日本国憲法	2	*	*	*	*		
	経済学	経済学	2	*	*	*	*		
	社会学	社会学	2		*				
	心理学	心理学	2		*				
	歴史学	歴史学	2	*					
	政治学	共生社会政策論	2			*			
理数系基礎	生物学	◎ 細胞・遺伝学	2	*				必修科目	
	化学	◎ 物理化学	2		*				
	細胞学	◎ 微生物学	2			*			
	情報学	◎ 情報処理学	2	*					
教養科目	外国語アドバンス	ドイツ語 I	1	*				同一言語の「I」および「II」の2単位を修得すること。 ※日本語科目は外国人留学生等対象(2単位まで外国語アドバンスの単位として認める)	
		ドイツ語 II	1		*				
		異文化理解のためのドイツ語	1		*				
		フランス語 I	1	*					
		フランス語 II	1		*				
		異文化理解のためのフランス語	1		*				
		中国語 I	1	*					
		中国語 II	1		*				
		異文化理解のための中国語	1		*				
		スペイン語 I	1	*					
		スペイン語 II	1		*				
		異文化理解のためのスペイン語	1		*				
		日本語初級	1		*				
		日本語初級ステップアップ	1		*				
	日本語中級	1		*					
	日本語中級ステップアップ	1		*					
	日本語上級	1	*						
	日本語上級ステップアップ	1		*					
	配置大学特色科目	持続可能な環境・社会	農業史	2	*				2単位以上を修得すること。
			知的財産権・特許法	2				*	
			多文化共生論	2		*		*	
			動物と人間の行動	2				*	
			キャリア・プランニング	2				*	
			食料・環境問題	2			*		
			技術者倫理	2				*	
			生命倫理	2				*	
現代宗教論			2	*		*			
国際平和論			2			*			
理数系アドバンス	理数系アドバンス	※ アカデミックライティング入門	1	*				6単位以上を修得すること。	
		生態・進化学	2		*				
		※ 動物・植物科学	2		*				
		物理学	2	*					
		※ 線形代数学 I	2	*					
		※ 微分積分学 I	2		*				
		※ 数理統計学	2				*		
		有機化学	2			*			
		※ 生物学実験	1	*					

教育課程等
共同獣医
学科
(Vn)

この科目群から合計17単位以上を修得すること。

備考

- ◎印の授業科目は、必修とする。
- ※印の科目は学科推奨科目とする。
- 教養科目(共同獣医学科除く)の科目は他学科科目として履修できるが、卒業要件単位数に参入しない。

(2) 共同獣医学科 (Vn) 専門教育科目

1) 学科の教育理念・目標

共同獣医学科では、本学と岩手大学との緊密な教育連携のもと、獣医師として社会で指導的な立場で活躍できる人材の養成を行います。獣医師は、伴侶動物の診療や産業動物の治療・疾病予防・生産性の向上といった業務を行うだけでなく、乳肉製品の衛生管理などを通して人の健康を守る公衆衛生分野でも中心的な役割を果たしています。さらに、獣医師は、動物園動物や希少動物の診療・繁殖、野生動物保護、動物用および人用医薬品の研究・開発、動物生命科学の基礎研究といった非常に幅広い分野でも活躍しています。

しかし、獣医師免許取得後これらの分野のエキスパートとしてすぐに活躍できるわけではなく、例えば、伴侶動物の臨床分野では、動物病院で研修医として経験を積むとともに、最新の診断法・治療法などについては自ら勉強を続けて行かなければなりません。したがって、本学科では、単に獣医師免許取得のためだけの技術的な教育のみではなく、その基盤となる高等動物の生命科学に対する十分な教育・研究を行い、さらに、最新知識を自ら取り入れる姿勢や問題解決能力を養えるようなカリキュラムを用意しています。

2) 学科の教育内容

共同獣医学科専門教育科目では、基礎・病態科目（基礎獣医学科目）から応用・臨床科目（実証獣医学科目）へと順序よく学んでいけるように授業科目が用意されています。まず1年次の最初に、専門科目への導入として、獣医学概論で獣医学の概略を学びます。1～3年次の基礎獣医学科目では、正常な高等動物の形態・機能や生体と薬物との相互作用について、2～4年次の病態獣医学科目では、高等動物の病態時における形態・機能の変化や病原微生物・寄生虫について学修します。これら基礎・病態獣医学科目を基盤として、3～4年次の応用獣医学科目で、疾病の予防や公衆衛生について学びます。また、4～5年次の臨床獣医学科目では動物の疾病の診断、治療の基礎を学び、5～6年次にかけては実際のフィールドにおいて総合参加型臨床実習を行います。1～4年次に開講される選択科目では、獣医学に密接に関連する科目を中心に学修します。以上の授業科目では、講義と平行して実習が行われますので、各科目の理論と実際を効果的に学修できます。4～6年次の専修科目では、本学（または一部岩手大学）のいずれかの研究室に所属し、それまでに学修した専門知識や技術を用いて、基礎研究あるいは実証研究を行い、卒業研究論文を作成します。この論文作成を通して自ら学んでいく姿勢、問題解決能力、プレゼンテーション能力を養います。具体的なカリキュラムは学科課程表（履修案内P.38～P.39）およびコースツリー（履修案内P.71）を参照して下さい。

3) 履修方法

ⅰ 学科専門科目の履修

共同獣医学科の学科専門科目はほとんどすべて必修科目です（教育課程表◎印）。これは農林水産省が定める獣医師国家試験出題基準の内容が、基礎獣医学科目、病態獣医学科目、臨床獣医学科目、応用獣医学科目のほとんどすべての講義、実習に相当するためです。本学で開講している科目を履修しますが、いくつかの科目では遠隔講義システムを使って岩手大学の授業を受講することになります。（ただし、卒業研究指導を岩手大学で受ける場合は、同大学の専門教育科目を履修できる。）各年次で開講される必修科目の単位を修得できなかった場合には、他年次で単位を修得せざるを得ませんが、その場合「重複履修（P.22を参照）」は認められませんので、6年間では卒業できなくなる可能性が高くなります。さらに多くの単位を修得できなかった場合には、以下に示してある獣医学専修科目の履修条件を満たせず、6年間では卒業できなくなります。したがって、各年次で開講される授業科目は必ずその年次で単位を修得するようにしてください。

ii 履修計画等

	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共同獣医学科 卒業要件単位数 202単位以上	教養科目 44単位				専門教育科目 138単位 選択科目 6単位				専修科目 14単位 (獣医学演習、卒業研究)			
研究室配属									4年次後期から研究室配属			

※研究室への配属決定については、課程によって必要単位数や履修科目等いくつかの条件がありますので留意してください。

iii 履修上の留意点

① 本籍

本共同獣医学科においては、入学を許可された大学を本籍とします。

② 履修

履修は、原則として本籍の大学で行います。

③ 専修科目の履修条件

- 4年次後期から、基礎、病態、応用部門を包含した先端生命科学、並びに小動物と大動物臨床における高度獣医療の2つの専修コースに分かれ、専修科目（獣医学演習および卒業研究）を履修します。
- 専修科目を履修するには、3年次終了時において、卒業に必要な共通教育科目（計44単位）をすべて修得し、且つ、それまでの必修の学科専門教育科目のうち未修得単位が合わせて8単位以下であることが必要です。
- 卒業研究を履修するには、獣医学演習（4単位）を修得していることが必要です。
- 若干名の学生（※1）は、5・6年次に本籍でない大学の共同獣医学科の専修コースにおいて専修科目を履修することができます。その際には、本籍の大学において、4年次終了時までの学科専門教育科目のうち、必修科目のすべての単位および選択科目から6単位以上を修得していなければなりません。
※1 これらの学生は、本籍でない大学の共同獣医学科において、5・6年次に開講される学科専門教育科目のすべてを履修することになります。

④ 総合参加型臨床実習Ⅰ～Ⅵ（※2）の履修条件

5・6年次に開講される「総合参加型臨床実習Ⅰ～Ⅵ」を履修するには、4年次までに所定の基準（※3）を満たす必要があります。

⑤ 実習経費の徴収

専門教育科目の実習に必要な経費を徴収します。

- 本実習は、大学等の動物診療施設等において、指導教員の指導下で症例（一般市民が所有する動物）に接する臨床実習です。本実習は、農林水産省通知「獣医学生の臨床実習における獣医師法第17条の適用において」（平成22年6月30日付け）により示された、「獣医学生が臨床実習において他者が所有する飼育動物に対して行う診療行為についての、獣医師法上の考え方」に基づいて実施されます。
- 獣医師の資格がない学生が臨床実習で症例に接する場合には、必要不可欠な知識、技能、態度が備わっていることを動物の所有者に示し、その質を社会に保障する必要があります。臨床実習に必要な最小限の知識、技能、態度の到達レベルを評価するためにNPO法人・獣医系大学間獣医学教育支援機構が主催する試験（以下「共用試験」という。）を4年次終了時に行います。共用試験を受験するには、上記③の（2）を満たしている必要があります。また、共用試験はvetCBTならびにvetOSCEから構成されますが、その両方に合格しなければ総合参加型臨床実習を履修できません。なお、vetCBTおよびvetOSCEは、4年次の間に追・再試がそれぞれ1回ずつ実施されます。共用試験の受験にあたっては、別途受験料が必要となります。

4) 取得できる資格など

共同獣医学科を卒業すると獣医師国家試験の受験資格が得られます。その他、以下の資格を得ることが可能です。

i 受験資格

共同獣医学科を卒業すると受験できる資格です。獣医師国家試験

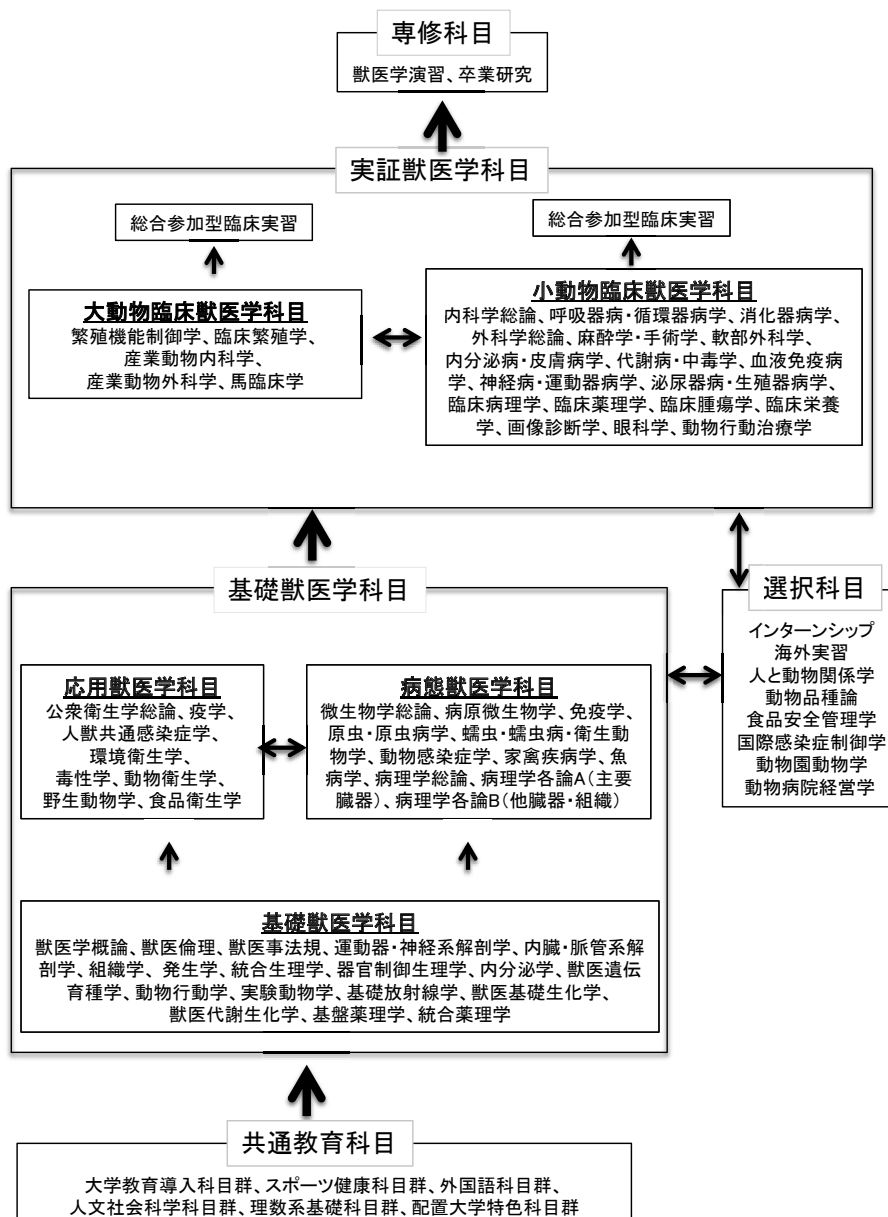
ii 任用資格

共同獣医学科を卒業後、その資格に関連する職務についての場合に取得できる資格です。食品衛生管理者、食品衛生監視員、環境衛生監視員、飼料製造管理者

【コースツリーの説明】

獣医学の専門教育を受け獣医師になるためには、共同獣医学科専門科目についてはもちろんのこと、一般教養に関する広く深い知識も必要です。教養科目では、大学教育導入科目、スポーツ健康科目、外国語科目、人文社会科学科目、理数系基礎科目、配置大学特色科目を受講し、自然科学および人文社会科学全般の広い教養、外国語のコミュニケーション能力、自己の健康管理法を身につけます。以上の全学共通教育科目を土台として、共同獣医学科専門科目を学んでいきます。専門科目については「(3) 学科の教育内容」をご覧ください。

共同獣医学科授業科目コースツリー



5) 共同獣医学科専門教育科目教育課程表

区分	授業科目	単位数	担当教員	開講予定学期												備考	
				1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次			
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後		
基礎獣医学科目	◎ 獣医学概論	2	学科教員	*													
	◎ 獣医倫理	2	学科教員		*												
	◎ 獣医事法規	1	(非常勤)							*							
	◎ 運動器・神経系解剖学	2	柴田			*											
	◎ 内臓・脈管系解剖学	2	山本・中牟田				*										遠隔授業
	◎ 解剖学実習	3	柴田・金田			*	*										
	◎ 組織学	2	山本			*											遠隔授業
	◎ 組織学実習	1	柴田・(非常勤)			*											
	◎ 発生学	1	(非常勤)		*												
	◎ 統合生理学	2	渡辺・永岡			*											
	◎ 器官制御生理学	2	木崎・大沼				*										遠隔授業
	◎ 内分泌学	2	永岡・渡辺					*									
	◎ 生理学実習	1	永岡・渡辺				*										
	◎ 獣医遺伝育種学	1	(非常勤)			*											
	◎ 動物行動学	2	佐藤(俊)・小山				*										
	◎ 実験動物学	2	古市			*											遠隔授業
	◎ 実験動物学実習	1	田中(あ)他				*										
	◎ 基礎放射線学	2	岸本				*										
	◎ 獣医基礎生化学	2	山田				*										遠隔授業
	◎ 獣医代謝生化学	2	新井(克)					*									
◎ 生化学実習	1	永岡・渡辺					*										
◎ 基盤薬理学	2	佐々木・臼井						*									
◎ 統合薬理学	2	佐藤(洋)							*							遠隔授業	
◎ 薬理学実習	1	佐々木・臼井						*									
基礎獣医学科目	◎ 微生物学総論	2	古谷・谷口			*											
	◎ 病原微生物学	2	村上(賢)				*										遠隔授業
	◎ 微生物学実習 I	1	古谷・谷口				*										
	◎ 微生物学実習 II	1	佐々木・臼井					*									
	◎ 免疫学	2	田中(あ)・古谷・佐々						*								
	◎ 原虫・原虫病学	2	板垣					*									遠隔授業
	◎ 蠕虫・蠕虫病・衛生動物学	2	板垣						*								遠隔授業
	◎ 寄生虫学実習	1	(非常勤)・古谷・西藤						*								
	◎ 動物感染症学	3	白井・佐々							*							
	◎ 家禽疾病学	2	落合・彦野							*							遠隔授業
	◎ 魚病学	2	水谷・(非常勤)								*						
	◎ 動物病理学総論	2	渋谷・吉田					*									
	◎ 動物病理学各論A(主要臓器)	2	落合						*								遠隔授業
	◎ 動物病理学各論B(他臓器・組織)	2	渋谷・吉田							*							
	◎ 病理学実習 I	1	渋谷・吉田							*							
	◎ 病理学実習 II	1	渋谷・吉田								*						
応用獣医学科目	◎ 公衆衛生学総論	1	藤川・石原					*									
	◎ 疫学	2	林谷・竹原					*									
	◎ 人獣共通感染症学	2	寺嶋						*								遠隔授業
	◎ 環境衛生学	2	佐藤(至)						*								遠隔授業
	◎ 公衆衛生学実習	1	石原・藤川						*								
	◎ 毒性学	2	鈴木(和)							*							
	◎ 毒性学実習	1	鈴木(和)・村上(智)								*						
	◎ 動物衛生学	2	竹原・林谷						*								An
	◎ 動物衛生学実習	1	林谷・竹原						*								
	◎ 野生動物学	1	鈴木(馨)						*								
	◎ 食品衛生学	2	藤川・石原							*							
	◎ 食品衛生学実習	1	石原・藤川							*							
◎ 公衆衛生実践実習	1	(非常勤)					*	*	*	*	*	*					

備考 (1) ◎印の授業科目は必修とする。

教育課程等
共同獣医学科
(Vn)

区分	授業科目	単位数	担当教員	開講予定学期												備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
実証獣医学科目	◎ 内科学総論	1	西藤・田中(あ)・打出						*							
	◎ 呼吸器病・循環器病学	2	田中(綾)・福島・打出							*						
	◎ 消化器病学	2	田中(綾)・大森・西藤・井手・打出								*					
	◎ 外科学総論	1	町田・田中(綾)・福島						*							
	◎ 麻酔学・手術学	1	福島・清水・田中(綾)							*						
	◎ 軟部外科学	1	町田・田中(綾)・福島								*					
	◎ 小動物内科学実習・基礎編	1	西藤・井手・大森								*					
	◎ 小動物内科学実習・応用編	1	田中(あ)・打出									*				
	◎ 小動物外科学実習・基礎編	1	田中(綾)・清水・福島								*					
	◎ 小動物外科学実習・応用編	1	福島・清水・田中(綾)									*				
	◎ 内分泌病・皮膚病学	2	西藤・井手									*				
	◎ 代謝病・中毒学	1	打出・大森										*			
	◎ 血液免疫病学	1	田中(あ)・井手											*		
	◎ 神経病・運動器病学	2	宇塚・片山										*			遠隔授業
	◎ 泌尿器病・生殖器病学	2	佐藤(れ)・片山・高橋											*		遠隔授業
	◎ 臨床病理学	2	町田							*						
	◎ 臨床薬理学	1	佐々木・臼井										*			
	◎ 臨床腫瘍学	2	町田											*		
	◎ 臨床栄養学	1	西藤・(非常勤)											*		
	◎ 画像診断学	2	清水・岸本										*			
	◎ 画像診断実習	1	岸本・清水										*			
	◎ 眼科学	1	田中(あ)											*		
	◎ 動物行動治療学	1	(非常勤)									*				
	◎ 総合参加型臨床実習Ⅰ	1	臨床系教員											*		
	◎ 総合参加型臨床実習Ⅱ	1	臨床系教員											*		
	◎ 総合参加型臨床実習Ⅲ	1	臨床系教員											*		
	◎ 総合参加型臨床実習Ⅳ	1	臨床系教員											*		
	大動物臨床獣医学科目	◎ 繁殖機能制御学	2	高橋								*				遠隔授業
		◎ 臨床繁殖学	2	田中(知)									*			
		◎ 繁殖機能制御学実習	1	田中(知)・遠藤								*				
		◎ 臨床繁殖学実習	1	田中(知)・遠藤									*			
		◎ 産業動物臨床学Ⅰ	2	佐藤(繁)								*				遠隔授業
◎ 産業動物臨床学Ⅱ		2	高橋・岡田									*			遠隔授業	
◎ 馬臨床学		1	(非常勤)									*			遠隔授業	
◎ 大動物臨床実習・基礎編		1	(非常勤)										*			
◎ 大動物臨床実習・応用編		1	(非常勤)										*			
◎ 総合参加型臨床実習Ⅴ		1	臨床系教員										*			
◎ 総合参加型臨床実習Ⅵ		1	臨床系教員										*			
選択科目	○ インターンシップ	1	林谷					*	*	*	*	*	*			
	○ 海外実習	1	林谷					*	*	*	*	*	*			
	○ 人と動物関係学	2	(非常勤)			*									学生移動	
	○ 動物品種論	2	(非常勤)				*								学生移動	
	○ 食品安全管理学	2	(非常勤)							*					学生移動	
	○ 動物園動物学	2	(非常勤)			*										
	○ 国際感染症制御学	2	(非常勤)					*								
専修科目	◎ 獣医学演習	4	学科教員								*	*				
	◎ 卒業研究	10	学科教員										*	*	*	

備考 (1) ◎印の授業科目は必修とする。
(2) ○印の授業科目は選択必修とする。
(3) ○印の選択必修の中から6単位以上を修得すること。

4. 学部共通専門科目

(1) 学部共通専門科目の理念・目標

広義の農学に関連した科目を含む学部共通の専門科目です。共通科目、海外研修科目および国際農学科目からなり、座学、フィールド実験実習および海外の公的施設等での演習・実習を通じて特定の専門領域の枠を越えた学際的かつ国際的な農学知識の習得を目指します。国際農学科目は英語による開講となります。集中講義も多いので、履修にあたっては各学科の指示をふまえて計画的に履修してください。

(2) 各科目区分について

1) 共通科目

農学専門領域における教育・研究の前提となる基礎的および実践的な概念の理解・習得を目的とする科目によって構成されています。農学部特別講義では時節に応じたテーマを定め、農学に関わる諸問題について学習します。

2) 海外研修科目

学内において習得した教養教育科目、学部共通専門基礎科目、学科専門科目および国内学外実習における農業現場の知識・経験等をもとに、異なる自然・文化・社会的背景をもった海外における農学関連施設（大学など）を直接視察し、その国の農業現場の実際を学習します。

3) 国際農学科目

農学部の各学科に関連した国際的にも重要なトピックについて英語による授業を行い、国際的視点から農学の現状について理解を深めることを目的にしています。この授業は国際農学プログラム（IAP）の対象科目に設定されており、本学留学生との合同受講となります

(3) 学部共通専門科目教育課程表

区分	授業科目	単位数	担当教員	開講予定学期								備考	
				1年次		2年次		3年次		4年次			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
学部共通専門科目	共通科目	現代農業論	2	野見山・観山・(非常勤)						*	*		
		生物資源論	2	教育委員長・(非常勤)						*	*		
		国際環境農学	2	国際イノベーション 農学コース教員						*	*		
		環境生物相関論	2	渡邊(泉)・伊豆田・仲井						*	*		
		職業指導(農業)	2	(非常勤)			*	*					
		FS 実験実習	1	FS 教員			*						
		農学部特別講義Ⅰ()	0.5	学期開始前にテーマを定め不定期で開講する。 詳細はWeb 掲示にて周知を行う。									
		農学部特別講義Ⅱ()	1										
		農学部特別講義Ⅲ()	2										
	海外研修科目	海外特別演習Ⅰ	0.5	学科教育員	*	*	*	*	*	*	*	*	
		海外特別演習Ⅱ	0.5	学科教育員	*	*	*	*	*	*	*	*	
		海外特別演習Ⅲ	0.5	学科教育員	*	*	*	*	*	*	*	*	
		海外特別演習Ⅳ	0.5	学科教育員	*	*	*	*	*	*	*	*	
		海外特別実習Ⅰ	0.5	学科教育員	*	*	*	*	*	*	*	*	
		海外特別実習Ⅱ	0.5	学科教育員	*	*	*	*	*	*	*	*	
	国際農学科目	Food and Agricultural Science I	1	千年, 大川, 鈴木, 伴, 桂, 山田, 金勝		*							
		Food and Agricultural Science II	1	本林, 佐藤幹, 杉村, 天竺桂, 伊藤, 田中, 大津		*							
		Principles and Potentials of Agribusiness	1	千年・草処		*							
		Food Chemistry	1	服部・好田・三浦							*		
		Food and Nutrition	1	三浦・木村・服部							*		
		Horticultural Structures and Plant Factory	1	帖佐							*		
		Plant Microbiology	1	岡崎				*					
		Food Safety	1	林谷・他							*		
		Theory and Practices of Sustainable Agriculture	1	山田祐・及川		*							
		Introduction to Charcoal Application	1	及川・山田祐		*							
		Ecosystem Management	1	多羅尾・高田							*		
		Forest Ecology and Management	1	五味・戸田				*					
		Ecology in Crop Production	1	桂				*					
		Arid Land Agriculture	1	川端		*							

この中から2単位以上を修得すること。

備考

- (1) この科目区分から2単位以上を修得すること。
- (2) 共同獣医学科については、他学科科目として履修できるが卒業に必要な単位としては算入しない。

●Ⅲ. 教職課程の履修●

＜教員の養成に係る教育カリキュラムの目標＞

本学教員養成の目標は、農学部においては、中学校理科・高等学校理科・高等学校農業のいずれかの教員免許の取得にあります。

＜教員の養成に係る教育カリキュラムの目的・特色＞

本学の教職課程では、教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力、専門職としての知識・技能、総合的な人間力を有し、かつ理論（専門分野）と実践（教職活動）を往還させることのできる優れた能力を有する人材を養成することを学びの目的・特色としています。

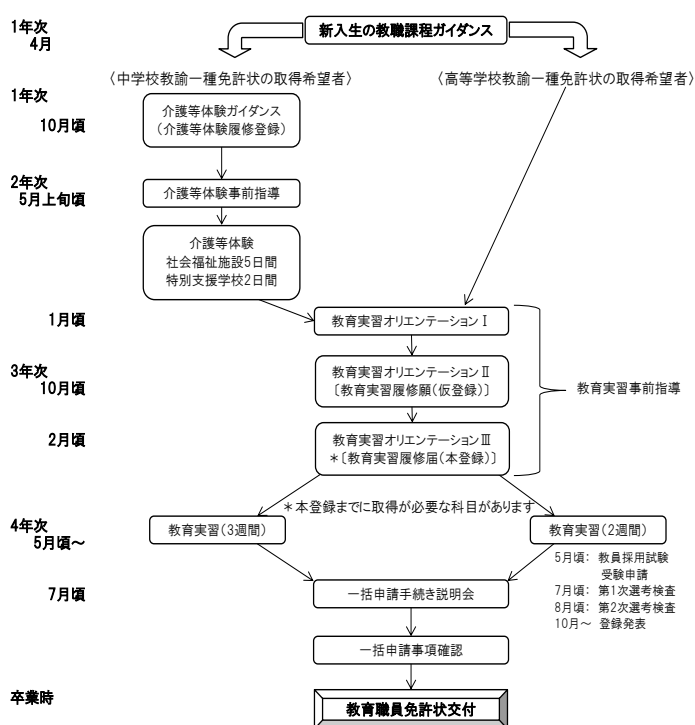
そのための教職課程の4年間の学びの流れ（カリキュラム）は、学科の教養科目と専門科目を、教員免許取得に必要な教職科目のうちの「教科に関する科目」「教科又は教職に関する科目」として位置づけており、履修者は、所属学部学科のカリキュラムにそって、教員としての担当教科の内容に関する学問領域の専門的知識や技能を学ぶことができます。一方、教科指導、生徒指導等学校における教育活動を進める上で必要な知識及び技能や、教職の意義、教員の役割等については、「教職に関する科目」が開設されており、講義科目の他、介護等体験実習（中学免許取得希望者対象で農学部は2年次、教育実習（4年次に実施）の2つの実習科目、教職実践演習（4年次前・後期）が開設されています。

さらに教員には、これまで以上に広く豊かな教養が求められていることを踏まえ、教職履修学生には留学やボランティア活動を含め教職課程外の活動に積極的に参加することを推奨しています。

なお、毎年4月初旬に教職課程ガイダンスを行い、免許状を取得するための詳細な説明を行いますので、履修希望者は学生便覧を持参の上、必ず出席してください。教職課程については、「学生便覧：教職課程について」に記載されていますので、必ず熟読してください。不明なことがあったら、教務係又は教職課程専任教員に問い合わせてください。

教職課程専任教員の連絡先：降旗 信一
（研究室）2-106A
（E-mail）sfuri@cc.tuat.ac.jp

～教員免許状取得までの流れ～



●Ⅳ. 博物館学芸員課程の履修●

博物館には専門的職員として学芸員を置くことが、博物館法第4条の3により定められています。本学では博物館学芸員資格を取得しようとする者のために、博物館に関する授業科目を開設しています。なお、博物館課程の履修は3年以上かかり、教職課程と並行して取得することは困難です。

また、3年次編入生は卒業までの課程修了は非常に厳しくなっています。3年次編入生で履修を希望する者は、事前に必ず教務係に問い合わせてください。

【博物館学芸員資格を取得するために履修する科目・単位数等】

授 業 科 目	単位数	時間数	開講 キャンパス	備 考
	必修			
生涯学習概論	2	30	府 中	偶数年度開講予定
博物館概論	2	30	小金井	
博物館経営論	2	30	府 中	奇数年度開講予定
博物館資料論	2	30	小金井	
博物館展示論	2	30	小金井	
博物館資料保存論	2	30	小金井	
博物館情報・メディア論	2	30	府 中	奇数年度開講予定
博物館教育論	2	30	府 中	偶数年度開講予定
博物館実習	3	90	小金井	通年開講
合 計	19	330		

- ・博物館に関する授業科目の単位は卒業に必要な単位としては認められません。
- ・博物館に関する授業科目は集中講義で行われます。開講日程等はWEB掲示板にてお知らせするのでよく確認してください。

【学芸員課程ガイダンスについて】

毎年4月に「学芸員課程ガイダンス」を開催します。履修を希望する者は、履修についての注意事項などの説明を行いますので、必ず出席してください。開催日時および場所はWEB掲示板にてお知らせします。

【博物館実習について】

- ・博物館実習は3年次以上が履修可能で、通年で開講されます。
- ・博物館実習を履修するには2年次終了までに「博物館実習」以外の全科目を修得済みであることが条件です。
- ・3年次の博物館実習時期が所属学部の実習等に重複し、博物館実習の履修が出来ない場合は、博物館実習の時期に所属する研究室指導教員の許可を得て4年次に履修することができます。
- ・博物館実習の希望者が多数の場合は、日程などの調整を行うこともあります。
- ・3年次の始めに「博物館実習オリエンテーション」を行いますので、博物館実習の履修を希望する者は必ず出席して下さい。開催日時および場所はWEB掲示板にてお知らせします。

学芸員関係事項の日程

1年	4月	学芸員課程ガイダンス（受講開始年度に参加）
1年・2年	夏休み	集中講義履修
3年	4～5月	博物館実習オリエンテーション
	5月～	博物館実習（通年）
4年卒業時		学芸員課程修了証書授与

※ガイダンス・オリエンテーションの開催時期は目安であり、前後することがあります。詳細はWEB掲示板等で確認して下さい。

単位取得者に対して、「博物館に関する科目の単位取得証明書」を教務係で発行しますので必要な場合は申し出て下さい。

● V. 教育プログラムについて ●

本学では、留学や教育に関する多様な教育プログラムを提供しています。
各プログラムは、以下の本学ホームページで確認することができます。

グローバル教育院のWEBサイト

<http://web.tuat.ac.jp/~eagl/outline/program.html>



グローバル教育院の海外留学ポータル

<http://web.tuat.ac.jp/~studyabroad/>



グローバル教育院グローバルプロフェSSIONALプログラム

https://ssl.tuat-gp.jp/#topics_box



東京外国語大学・東京農工大学・電気通信大学による
文理協働型グローバル人材育成プログラム

<http://web.tuat.ac.jp/~eagl/global/program2.html>



国際交流課のWEBサイト

http://web.tuat.ac.jp/~intl/ja/tuat_student/



●VI. 単位互換制度について●

1. 単位互換制度の概要

本学は、単位互換協定校（東京外国語大学・東京学芸大学・電気通信大学・一橋大学・国際基督教大学・琉球大学・長岡技術科学大学および※新潟大学（農学部））と相互の交流と教育課程の充実を図ることを目的として、単位互換を実施しています。

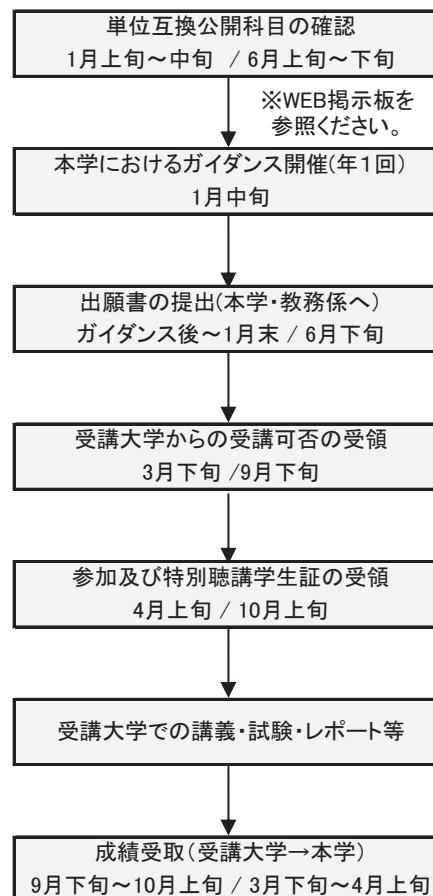
この制度は、本学在学中に協定校において履修した授業科目について修得した単位を、本学において修得した単位として認定するものです。学生便覧「東京農工大学における学生の派遣、留学および受入に関する規程」を必ず参照してください。

この制度により本学から他大学へ送り出す学生を『派遣学生』、本学が他大学から受け入れる学生を『特別聴講学生』といいます。

出願希望者は、1月に実施するガイダンスに必ず出席してください。出願手続き、単位認定、学業成績などは、ガイダンスにて周知します。

※新潟大学（農学部）への派遣の詳細については、例年6月頃にWEB掲示板にて周知しているので、そちらを確認してください。

単位互換スケジュール (前期/後期)



2. 履修計画の作成の留意点

<多摩地区国立5大学協定校および国際基督教大学>

本学から受入れ大学までの通学時間を考慮の上、無理のない履修計画を立てるようにしてください。

<琉球大学および長岡技術科学大学>

琉球大学および長岡技術科学大学との単位互換にあたっては国内留学の形式をとっています。したがって、派遣期間中は本学授業科目の単位の修得ができません。卒業必要単位数を念頭におき、本学授業科目への振替可能な授業科目を積極的に履修することが必要となります。シラバス等を参考にし、所属学科の教育委員と十分相談して履修計画を立てるようにしてください。

●Ⅶ. 各種手続きについて●

1. 学籍異動（休学，退学など）

(1) 各種願出（届出）書

願出（届出）書の配布および受付は、教務係で行っています。

手続きには時間がかかる場合があるため、余裕を持って教務係に受取り・相談に来るようにしてください。

	期 日	備 考
休学願	前月20日まで	連帯保証人の署名捺印，指導教員，所属学科の所属長，学生生活委員，教育委員の捺印が必要。病気による休学の場合は医師の診断書を添付すること。学期の途中からの休学の場合，授業料の取り扱いが変わるため，教務窓口にお問い合わせのこと。
復学願	復学をする日	休学期間満了前に休学の理由が消滅し，復学をする場合に必要。
退学願	3月31日付の退学 ：3月20日まで 9月30日付の退学 ：9月20日まで	連帯保証人の署名捺印，指導教員，所属学科の所属長，学生生活委員，教育委員の捺印が必要。学期途中での退学の場合，当該在学期間の授業料納付が必要。
留学願	渡航する前々月20日まで	その他にも提出書類があるので，教務窓口を確認すること。
転学部・転学科願	1月中旬	連帯保証人の署名捺印，指導教員，所属学科の所属長，教育委員の捺印が必要。手続きの詳細は12月に掲示するので確認のうえ，所属学科の教育委員に相談すること。
他大学等受験届	他大学などを受験する前	連帯保証人の署名捺印，学科教育委員の捺印が必要。本学を再受験する場合も届出が必要。

(2) 注意事項

- ①休学または退学しなければならない場合は，事前に学科教育委員および学生生活委員の先生に相談してください。
- ②休学期間は，通算して3年を超えることはできません。ただし，共同獣医学科については，通算して5年，再入学，転入学および編入学した学生の休学期間は在籍年限の2分の1を超えることができず。なお，在学または休学について定められた期間を超えたときは退学処分となります。その他休学に関する取扱いについては学則を参照してください。
- ③転学部・転学科は，1年以上在籍した後でなければ申請できません。
- ④ゼミナール入試で入学した者の転学部・転学科は認めません。
- ⑤本学に在学のまま他大学の入学試験（本学への再入学試験を含む）を受ける場合は，学科教育委員に相談し，「他大学等受験届」を提出してください。なお，合否の結果は直ちに教務係に報告し，他大学に入学する場合（本学への再入学も含む）は「退学願」を提出してください。

2. 証明書の交付

(1) 証明書自動発行装置

府中地区事務部学生支援室・学生生活係に設置されている証明書自動発行機により発行できる証明書は下記の通りです。(利用時間平日および土曜・祝日開講日8:30～17:15)

	発行方法	交付		注 意
		和 文	英 文	
学割証	自動発行機	即日	—	在学中
在学証明書	自動発行機	即日	即日	在学中(休学中は発行不可)
成績証明書	自動発行機	即日	即日	現学期以前までの分(成績開示以降)
健康診断証明書	自動発行機	即日	—	在籍中(学内の健康診断を受診した場合)
卒業見込証明書	自動発行機	即日	即日	卒業年次の5月中旬から発行可。ただし、下記(2)の発行基準参照のこと。

※その他の証明書については学生便覧を参照してください。

※卒業後の証明書については、本学ホームページ《卒業生の皆様>卒業生の証明書の申請方法》を参照してください。

(2) 卒業見込証明書の発行に関する注意事項

卒業見込証明書は、卒業年次の5月中旬から証明書自動発行装置により即日発行可能となります。ただし下記の卒業見込証明書発行基準を満たさない場合は、発行することができません。

- 卒業見込証明書発行基準
- ・卒業年次前年度の後学期終了時における成績
 - ・卒業年次前学期の履修登録状況(Vnに限る)

学 科	発 行 基 準
生物生産学科	卒業に必要な130単位のうち、90単位以上を修得していなければならない。
応用生物科学科	卒業に必要な130単位のうち、103単位以上を修得していなければならない。ただし、外国語については7単位以上とする。
環境資源科学科	卒業に必要な130単位のうち、102単位以上を修得していること。
地域生態システム学科	卒業に必要な130単位のうち、90単位以上を修得していなければならない。
共同獣医学科	卒業に必要な202単位のうち、150単位以上を修得していなければならない。また、卒業研究の履修登録をしていなければならない。

各種
手続き

●Ⅷ. 学修に関する相談●

平成31年度のクラス担任，教育委員，学生生活委員は下記のとおりです。学科の各委員は年度ごとに交代します。各年度の委員の氏名および所在地は，年度始めに本館掲示板に掲示します。

1. 1年次のクラス担任

クラス担任とは，学生生活や勉学，将来の進路についての情報の提供，その他身近な問題について相談に乗ってくれる教員です。

学 科	略号	氏名 所在(府中キャンパス)	氏名 所在(府中キャンパス)
生 物 生 産 学 科	An	田中 治夫 2号館221	新井 克彦 硬蛋研208
応 用 生 物 科 学 科	Bn	○班担任	
		木村 郁夫 7号館102	松下 保彦 遺伝子実験2F/E17
		小松 健 2号館412	好田 正 1号館220
		夏目 雅裕 2号館403	鈴木 丈詞 B-420
		平岡 毅 2号館424	森山 裕充 8号館201
環 境 資 源 科 学 科	En	○班担任	
		松田 和秀 FSセンター管理棟203	梅澤 有 2号館120
		芳賀 尚樹 8号館106	水川 薫子 5号館203
		多羅尾 光徳 5号館302	近江 正陽 1号館312
地 域 生 態 シ ス テ ム 学 科	Rn	○助言教員	白木 克繁 1号館411
		甲田菜穂子 2号館203	辰巳 賢一 3号館203
		赤坂 宗光 1号館431	福田 信二 3号館311
		岩井 紀子 1号館408	加用 千裕 1号館424
共 同 獣 医 学 科	Vn	大森 啓太郎 4号館129	

※ … Bは小金井キャンパスのBASE本館

2. 学科教育委員

教育委員とは，授業科目の履修および単位の修得など学修について相談に乗ってくれる教員です。

教育委員は毎年変更になります。各年度の教育委員については，右記QRコードを参照してください。



http://www.tuat.ac.jp/documents/tuat/campuslife_career/campuslife/course/nogakubu_iin.pdf

3. 学生生活委員

学生生活委員とは、主に学生生活を送るうえで生じる身近な問題について相談に乗ってくれる教員です。学生生活委員は毎年変更になります。各年度の委員については、右記QRコードを参照してください。

http://www.tuat.ac.jp/documents/tuat/campuslife_career/campuslife/course/nogakubu_iin.pdf



4. 学生相談室の利用

農学部本館にて、学生生活委員およびクラス担任の教員が、学生生活全般について相談に乗ってくれます。(予約不要)

- ・相談受付時間：毎週木曜日 12:00～13:00

5. 身体などに障がいがある学生への支援

身体の障がい、修学面でのコミュニケーションの困難、その他さまざまな修学や受講上の問題等がありましたら、学科教育委員、学生生活委員または特別修学支援室へご相談ください。

- ・特別修学支援室の相談申込み・お問合わせ
特別修学支援室 窓口（府中地区学生系事務棟1階学務部内）
月曜日～金曜日 8:30～17:15
TEL 042-367-5545 / FAX 042-367-5557
- ・面談時間：随時（窓口にて予約をお願いします）
- ・面談場所：特別修学支援室（本館1階）および保健管理センター・カウンセリング室

●IX. 履修案内Q&A●

教務系の窓口でよく聞かれる履修に関する質問事項は、『履修案内Q&A』として本学ホームページに掲載しています。参考にしてください。

【ホームページ】

東京農工大学トップページ>学生生活・就職進学>学生生活>履修案内

http://www.tuat.ac.jp/documents/tuat/campuslife_career/campuslife/course/nougakubu_risyu_qa.pdf



学修に
関する
相談

● X. 農学部教員連絡先 ●

* 下記は、農学部で開講される授業科目を担当している本学専任教員の学内研究室およびe-mailアドレスです。

* 非常勤講師の連絡先については、担当する講義の始めに、先生から指示があります。

* 非常勤講師については、原則として窓口を介しての用件を取り次ぎません。指示された連絡先または、講義の前後に直接連絡を取ってください。

* 研究室略号について、2号館221号室は2-221と記載しています。

2N：新2号館，ス：スポーツ健康科学棟，S4：新4号館，硬：硬蛋白質利用研究施設，

FS：広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター，B：小金井キャンパス，BASE 本館，

遺：遺伝子実験施設，語：語学演習棟，連：連合農学研究科棟，共：共同先進健康科学専攻棟

■ 生物生産学科

氏名	研究室	E-mail	氏名	研究室	E-mail
阿部 広明	2-332	wfem	杉村 智史	FS2F	satoshis
新井 克彦	硬-208	karai	鈴木 栄	6-306	ssakae
新井 祥穂	2-208	sachiho	竹村 勇司	6-404	takemura
伊藤 克彦	2-313	katsuito	田中 治夫	2-221	haruo
梅澤 泰史	B-513	taishi	天竺 桂弘子	2-304	h_tabuno
大川 泰一郎	6-206	ookawa	千年 篤	2-206	chitose
大津 直子	6-309	nohtsu	野見山 敏雄	2-213	nomisan
岡崎 伸	2N-404	sokazaki	伴 琢也	FS2F	tban
荻原 勲	6-304	ogiwara	藤井 義晴	2N-405	yfujii
桂 圭佑	2N-406	kkatsura※	本林 隆	FS2F	takarice
金勝 一樹	6-410	kanekatu	観山 恵理子	2-214	miyama※
草刈 基	2-209	motoj_k	山崎 亮一	2-205	r-yamaza
佐藤 幹	6-402	satokan	山田 哲也	6-406	teyamada
新村 毅	6-202	shimmura※	山田 祐彰	2N-504	masaakiy
杉原 創	2-220A	sohs	横山 岳	2-311B	ty.kaiko

■ 応用生物科学科

氏名	研究室	E-mail	氏名	研究室	E-mail
有江 力	2-408	arie	佐々木 信光	遺東2F/E18	chaki
井上 真紀	2-416	makimaki	佐藤 令一	B-417	ryoichi
笠原 博幸	8-203	kasahara※	鈴木 絵里子	1-216	ersuzuki
梶田 真也	B-514	kajita	鈴木 丈詞	B-420	tszk
川合 伸也	1-127	skawai	千葉 一裕	1-227	chiba
川出 洋	2-406	hkawaide	殿塚 隆史	1-202	tonozuka
北野 克和	1-226	kitayo	仲井 まどか	2-415	madoka
木村 郁夫	1-106	ikimura	夏目 雅裕	2-403	natsume
小松 健	2-410	akomatsu	西河 淳	1-206	nishikaw

※は、P.88参照。

氏名	研究室	E-mail	氏名	研究室	E-mail
野村 義宏	硬-108	ny318	松下 保彦	遺東2F/E 17	ymatsu
蓮見 恵司	1-214	hasumi	三浦 豊	1-208	eiyouym
服部 誠	1-219	makoto	森山 裕充	8-201	hmori714
平岡 毅	2-424	hiraoka	山形 洋平	1-108	y-yama
福原 敏行	8-212	fuku	好田 正	1-220	tyoshi

■環境資源科学科

氏名	研究室	E-mail	氏名	研究室	E-mail
赤井 伸行	B-329	akain	中嶋 吉弘	8-101A	nakasima
安藤 恵介	1-318	andok	半 智史	1-304	nakaba
伊豆田 猛	5-307	izuta	芳賀 尚樹	8-106	haga
梅澤 有	2-120	umezawa #	橋本 洋平	B-413	yhashim
近江 正陽	1-312	ohmi	船田 良	1-326	funada
大地 まどか	2-117	ohji	堀川 祥生	1-307	horikaw
粕谷 夏基	1-305	kasuya	松田 和秀	FS2F	kmatsuda
小瀬 亮太	1-309	kose	水川 薫子	5-203	mzkako
佐藤 敬一	1-317	keisato	楊 薫宗	2-324A	yoh
四方 俊幸	8-110	shikata	吉田 誠	1-314	ymakoto
高田 秀重	5-202	shige	渡邊 泉誠	2-327	wataizumi
高柳 正夫	連-202	masaot	渡 辺	5-306	nab0602
多羅尾 光徳	5-302	tarao			

@me.tuat.ac.jp

■地域生態システム学科

氏名	研究室	E-mail	氏名	研究室	E-mail
赤坂 宗光	1-431	muuak	斎藤 広隆	3-309	hiros
朝岡 幸彦	共2F	asaoka	酒井 憲司	3-307	ken
岩井 紀子	1-408	iwain	澤 佳成	語演104	sawa0116
岩岡 正博	1-406	iwaoka	下田 政博	ス-103	shimoda
榎本 弘行	2-104A	hirolaw	白木 克繁	1-411	shirakik
及川 洋征	2N-403	yousei	高橋 美貴	2-207	yoshitak
大里 耕司	3-208	osato	竹内 郁雄	2N-506	itla
加藤 亮	2N-303	taskkato	武田 庄平	語演2F	takeda
金子 弥生	5-402	ykaneko	竹本 太郎	語演105	take ※
加用 千裕	1-424	kayoc	辰己 賢一	3-203	tatsumi ※
小池 伸介	1-432	koikes	崔 東壽	1-415	choids
向後 雄二	2N-305	kohgo	帖 佐直	3-212	chosa
甲田 菜穂子	2-203	koda	土屋 俊幸	1-426	toshit
五味 高志	2N-304	gomit	東 城清秀	3-211	tojo

※は、P.88参照.

農学部
教員
連絡先

氏名	研究室	E-mail	氏名	研究室	E-mail
戸田 浩人	1-416	todah	松本 武	1-405	tmatsu
豊田 剛己	B-415	kokit	山下 惠	3-313	meguyama
中島 正裕	3-305	masa1021	吉川 正人	5-404	masato
轟 海松	2N-508	nie-hs	吉田 智弘	1-421	yoshitom
福田 信二	3-311	shinji-f	吉田 央	2-104C	halla
福本 寛之	ス-104	fukumoto※	渡邊 司	2-104B	tsukasaw
星野 義延	5-407	hoshino	渡邊 裕純	2N-306	pochi

■共同獣医学科

氏名	研究室	E-mail	氏名	研究室	E-mail
石原 加奈子	4-306B	kanako-i	竹原 一明	4-329B	takehara
井手 香織	4-227	k-ide	田中 あかね	7-212	akane
臼井 達哉	4-428	fu7085※	田中 知己	S4-151	tomomit
打出 毅	4-114	uchide	田中 綾	4-226	ryoryo
遠藤 なつ美	S4-152	endonat	谷口 隆秀	S4-253	taniguti
大松 勉	S4-455	tomatsu	永岡 謙太郎	4-422	nagaokak
大森 啓太郎	4-129	k-ohmori	西藤 公司	4-228	kojimai
金田 正弘	4-218	kanedam	林谷 秀樹	4-329A	eisei
岸本 海織	7-309	miori	福島 隆治	動物医療センター 旧棟207 (および動物医療 センター受付)	ryu-ji
小山 哲史	8-208	skoyama	藤川 浩	4-339	fujik
佐々 悠木子	S4-353	sassa_y	古谷 哲也	S4-251	furuyat
佐々 木一昭	4-401	skazuaki	町田 登	7-308	machida
佐藤 俊幸	8-210	tsatoh	水谷 哲也	S4-453	tmizutan
柴田 秀史	4-219	shibata	村上 智亮	7-201	mrkmt
渋谷 淳	4-127	mshibuta	吉田 敏則	4-126	yoshida7
清水 美希	7-310	mshimizu	渡辺 元	4-422	gen
白井 淳資	7-204	jshirai			
鈴木 馨	FSセンタープレハブ棟	kaoru			
鈴木 和彦	7-301	kzsuzuki			

■大学院農学府

氏名	研究室	E-mail	氏名	研究室	E-mail
連合農学研究科					
高柳 正夫	連-202	masaot			

※は、P.88参照.

■農学部附属施設

氏名	研究室	E-mail	氏名	研究室	E-mail
硬蛋白研			FSセンター		
新井 克彦	硬-208	karai	鈴木 馨	FSセンター-プルハブ棟	kaoru
野村 義宏	硬-108	ny318	伴 琢也	FS 2F	tban
国際家畜感染症 防疫研究教育センター			松田 和秀	FS 2F	kmatsuda
白井 淳資	7-204	jshirai	本林 隆	FS 2F	takarice
水谷 哲也	S4-453	tmizutan	吉田 智弘	1-421	yoshitom
大松 勉	S4-455	tomatsu			
動物医療センター					
福島 隆治	動物医療センター 旧棟207 (および動物医療 センター受付)	ryu-ji			

■学内共同教育研究施設

氏名	研究室	E-mail	氏名	研究室	E-mail
遺伝子実験施設			教職専任教員		
佐々木 信光	東2F/E18	chaki	降旗 信一	2-106A	sfuri
松下 保彦	東2F/E17	ymatsu	大学教育センター		
			藤井 恒人	学務部棟2F	fujii-t

※後につける共通部分がccではなく、@go.tuat.ac.jp

※以外は、E-mailを送る際は後に @cc.tuat.ac.jp を付けて下さい。

●XI. 学内施設・建物配置図など●

1. 学内施設

本学には、グラウンド、総合屋内運動場、テニスコート、ゴルフ練習場等の運動施設、学生同士の交流やレクリエーション等をおこなえる福利厚生施設があります。これらの施設は授業や課外活動による利用以外にも、一般学生向けに公開されています。

各施設それぞれに利用規則が定められていますので、利用のための手続きの詳細については学生便覧のP34～44の「学生生活関係施設等」の項を参照してください。

【学生便覧】

本学ホームページHOME > 学生生活・就職進学 > 学生生活 > 学生便覧
http://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/campuslife/binran/



【図書館】

府中・小金井各地区にそれぞれ図書館があり、各種図書や雑誌、電子ジャーナルデータベース等が利用できます。図書館の開館日時・利用方法については図書館のホームページを参照してください。

本学ホームページHOME > 大学案内 > 附属機関 > 図書館
<http://www.tuat.ac.jp/outline/facility/biblio/index.html>
<http://web.tuat.ac.jp/~biblio/>



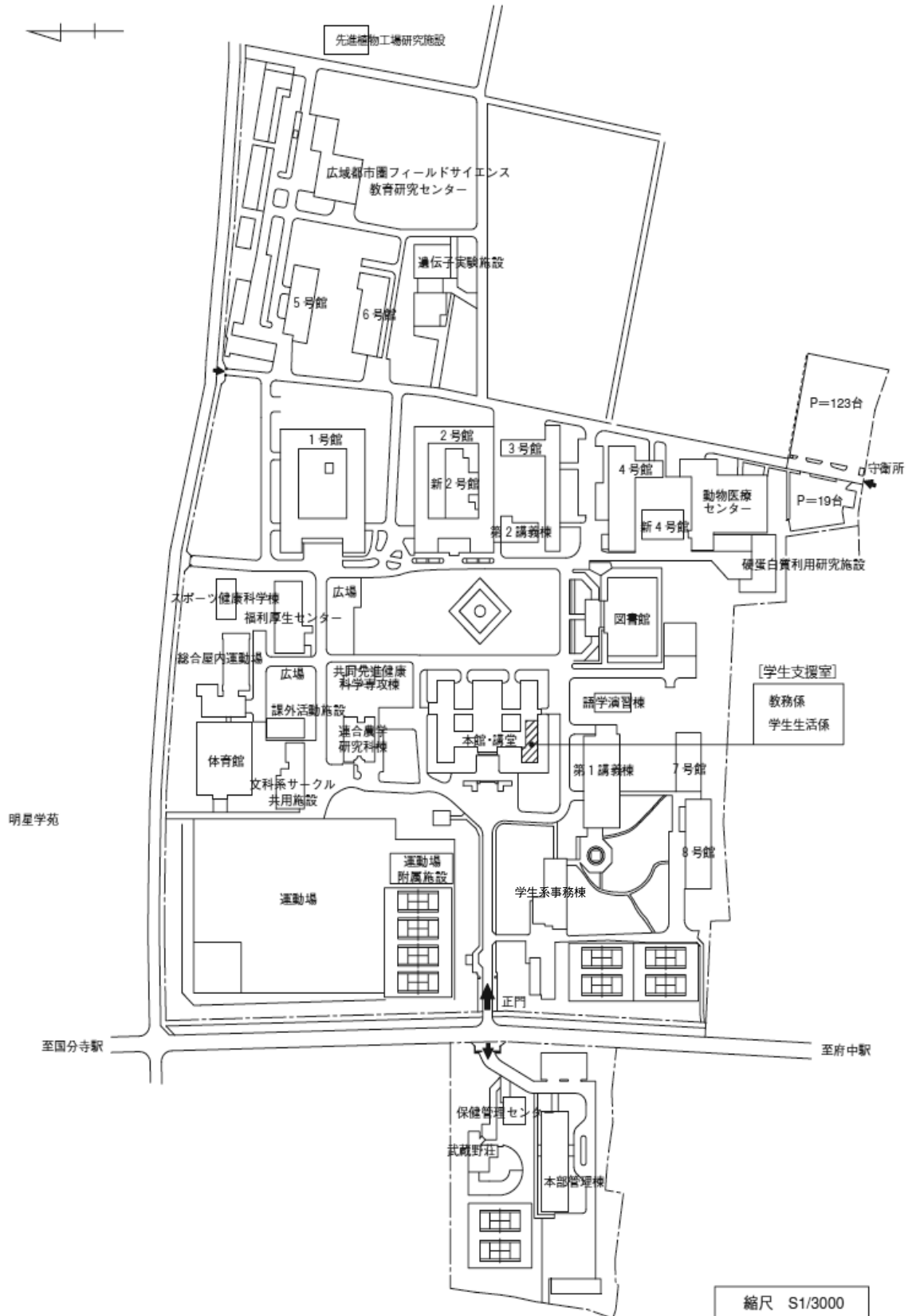
【総合情報メディアセンター】

本学ホームページHOME > 大学案内 > 附属機関 > 総合情報メディアセンター
<http://www.tuat.ac.jp/outline/facility/imc/>



2. 建物配置図

(1) 農学部構内図

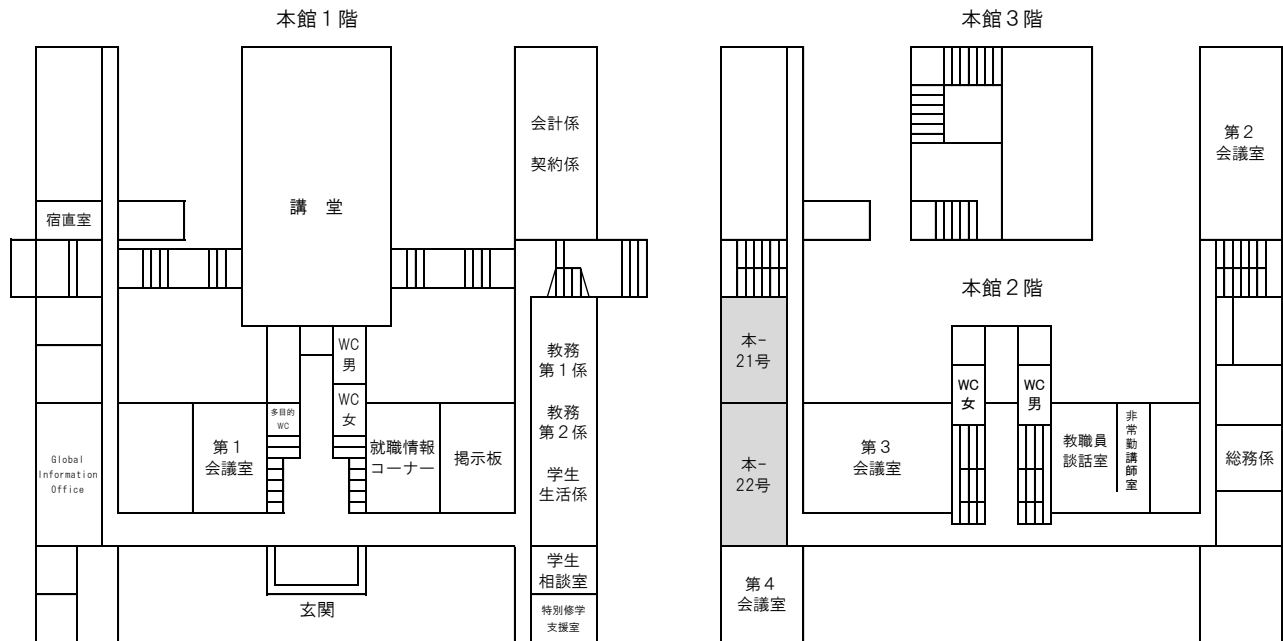


学内施設
建物配置図

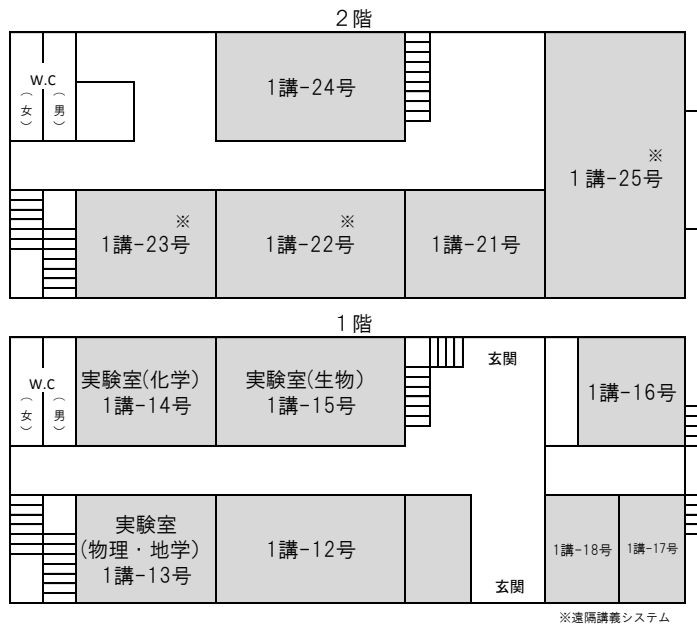
縮尺 S1/3000

(2) 教室配置図

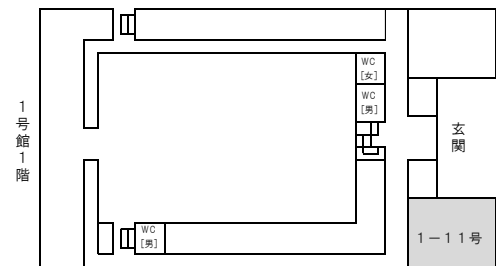
1) 農学部本館



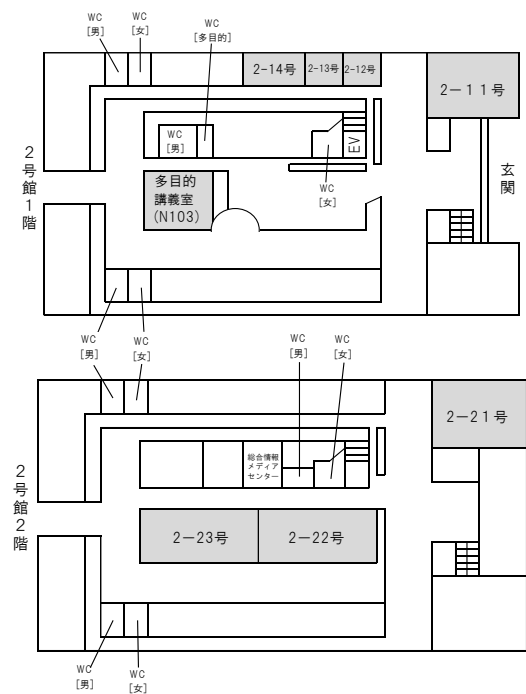
2) 農学部第一講義棟



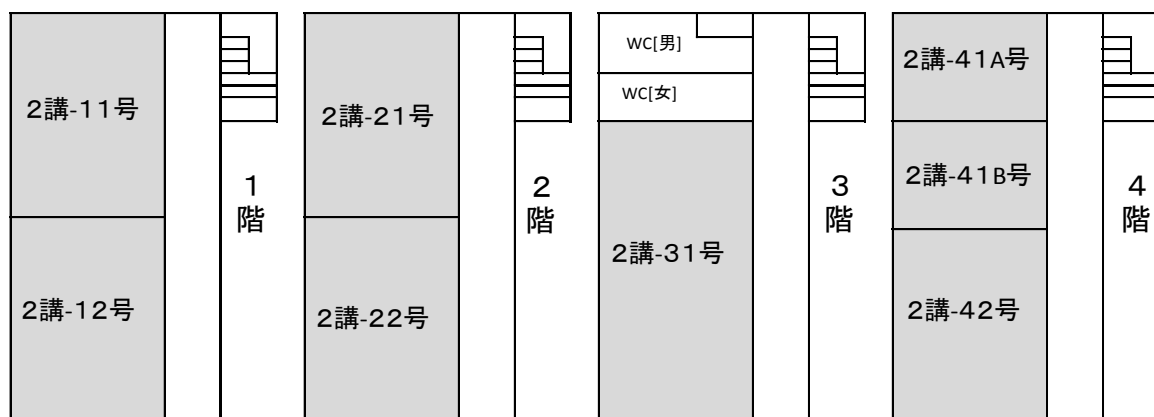
3) 1号館



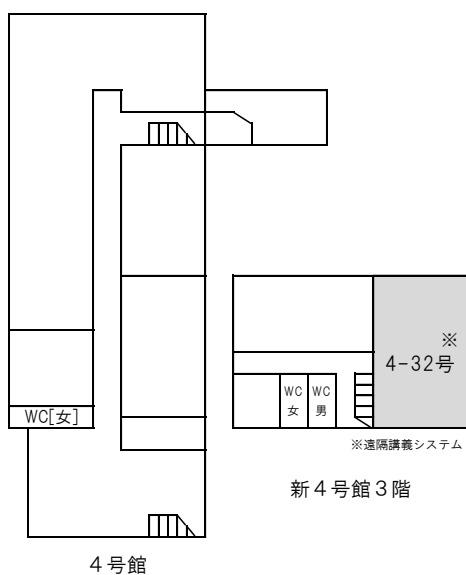
4) 2号館



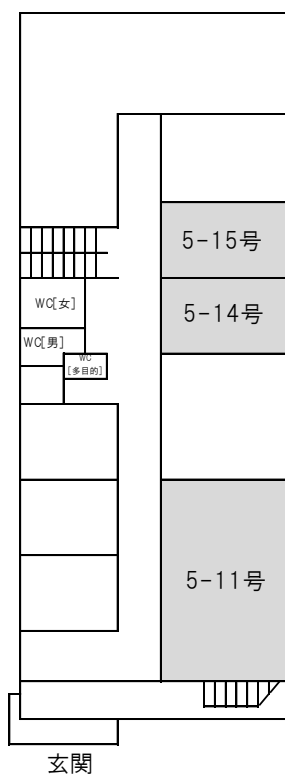
5) 農学部第2講義棟



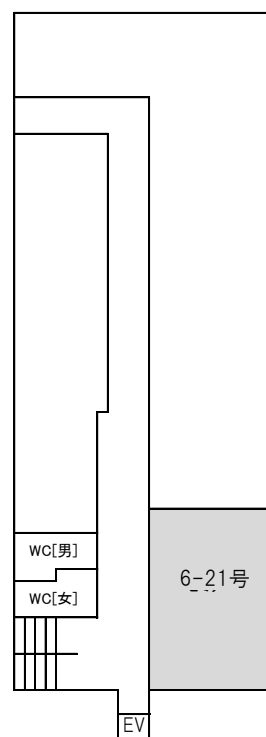
6) 4号館, 新4号館3階



7) 5号館1階



8) 6号館2階



● XII. SPICA・moodleについて ●

1. SPICA（学務情報システム）

SPICA（学務情報システム）は、インターネットを通じて履修登録・成績照会などが可能なサービスです。SPICAで利用可能なサービスは次のとおりです。

- ・履修登録
- ・時間割確認
- ・シラバス検索
- ・各種お知らせの確認
- ・成績照会（※学内からのアクセスのみ）
- ・学籍情報照会（※学内からのアクセスのみ）

特に履修登録については原則SPICAを通じてのみ可能となっているため、以下のURLからアクセス方法・操作方法をあらかじめよく確認してください。

【アクセス方法】

学生生活・就職進学>学生生活>学務情報システム（SPICA）利用のご案内>
学務情報システムログイン

<https://spica.gakumu.tuat.ac.jp/portal2/>



【操作方法】

学生生活・就職進学>学生生活>学務情報システム(SPICA)利用のご案内>手引き
http://www.tuat.ac.jp/documents/tuat/campuslife_career/campuslife/spica/manual.pdf



初回ログインはオリエンテーションで配布されるID・パスワードを使用してください。パスワードは総合情報メディアセンターの管理する申請管理システム「Salut」にて変更可能です。変更後のパスワードは各自で管理し、万が一忘れた場合は総合情報センター窓口（小金井図書館1階，府中新2号館2階）で再発行してください。

【パスワード変更】

申請管理システム「Salut」 <https://salut.ecs.tuat.ac.jp/>



2. 学習管理システムmoodle

moodleとは、総合情報メディアセンターによって提供される学習管理システム（LMS）です。

一部の授業ではmoodleを使用して資料の配布，レポート課題の提出，小テスト等がおこなわれますので、アクセス方法及び操作方法をあらかじめよく確認してください。使用するID・パスワードはSPICAと同一です。

【アクセス方法】

学生生活・就職進学>学生生活>教育支援・相談窓口>学習管理システムmoodle
<https://lms-2.tuat.ac.jp/moodle/>



【操作方法】

上記URLからSPICA-IDでログイン後、「Home>在学生マニュアル>私を登録する」の順でクリックすると操作マニュアルが参照できます。